

取手市
男女共同参画に関する市民意識調査

調査結果報告書

令和3年3月

目 次

I 調査の概要	1
1 調査の目的	3
2 調査の対象	3
3 調査の方法	3
4 調査の実施時期	3
5 配布・回収の結果	3
6 報告書の表記及び注意点について	4
II 調査結果の分析	5
1 あなたのことについて	7
(1) 性別	7
(2) 年齢	7
(3) 職業	8
(4) 週平均の勤務時間	9
(5) 世帯構成	10
(6) 要介護者・看護者の有無	11
(7) 《世帯に要介護者・看護者がいる人》主な介護・看護者	11
(8) 本人・配偶者による就業調整の有無	12
(9) 結婚しているか	14
(10) 《結婚している人》配偶者・パートナーの職業	15
(11) 子どもの人数	16
(12) 《子どもがいる人》子どもの年代	18
(13) 《子どもがいる人》配偶者・パートナーの働き方と子育ての状況	19
(14) 《子どもがいる人》子育てと家事への関わり方	20
2 男女の生き方や家庭生活に関する意識について	22
(1) 結婚や子どもを持つことに対する認識	22
(2) 男女の地位に対する意識	32
(3) 家事に費やしている時間	35
(4) 育児に費やしている時間	38
(5) 介護・看護に費やしている時間	40
3 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について	42
(1) ワーク・ライフ・バランスの理想と現実	42
(2) 男女がともに家事・育児・介護・地域活動等に参加していくために必要なこと	44
(3) 育児休業取得の有無	45
(4) 育児休業を取得しなかった理由	46
(5) 介護休業取得の有無	47
(6) 介護休業を取得しなかった理由	48
(7) 女性が結婚・妊娠・介護を続けながら働くために必要なこと	49
(8) 男性の育児休業・介護休業の取得について	50
4 就業について	51
(1) 仕事を選ぶ際に重視すること	51
(2) 実際に就いている仕事は仕事選びの要件を満たしているか	52
(3) 仕事をする上での問題	54
(4) 仕事を辞めた経験の有無	55
(5) 《仕事を辞めた経験がある人》仕事を辞めた時期と理由	55
(6) 職場が抱える問題	57
(7) 定年後の人生を豊かに過ごすために必要なこと	58

5	子どもへの男女共同参画教育について.....	59
	(1) 男女平等推進のために学校教育において重要な取組.....	59
	(2) 子ども達が性別を意識しない人間関係をつくるために大人が心がけるべきこと.....	60
6	地域活動、防災・避難について.....	61
	(1) 現在参加している地域活動.....	61
	(2) 防災・災害復興対策の中で取り入れるべき男女共同参画の視点.....	62
7	配偶者などからの暴力について.....	64
	(1) DV（ドメスティックバイオレンス）だと感じること.....	64
	(2) 配偶者や恋人がいるか・過去にいたか.....	65
	(3) 《配偶者や恋人がいるか・過去にいた人》DVを受けた経験の有無.....	65
	(4) 《DVを受けたことがある人》受けたDVについて相談したか.....	67
	(5) 《受けたDVについて相談した人》相談した人（場所）について.....	68
	(6) 《受けたDVについて相談できなかった人》相談できなかった理由.....	69
	(7) DVの防止や被害者支援のために必要な対策.....	70
8	人権・性的少数者について.....	71
	(1) ハラスメントの経験の有無.....	71
	(2) 「性的少数者」の認識度.....	75
	(3) 「性的少数者」に対する意識.....	76
	(4) 「性的少数者」の人権を守るために必要な取組.....	77
9	男女共同参画社会について.....	78
	(1) 男女共同参画に関する言葉や施策等の認知度.....	78
	(2) 取手市（行政）が力を入れるべきこと.....	79
資料編		83
1	調査票.....	85
2	自由回答.....	101
	(1) 性別に関する意識や考え方に関する意見.....	101
	(2) 男女共同参画社会に関する意見.....	102
	(3) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）に関する意見.....	105
	(4) 女性の就業・雇用に関する意見.....	106
	(5) 行政及び市の施策等に関する意見.....	106
	(6) 地域社会・まちづくりに関するご意見.....	108
	(7) その他のご意見.....	108

I 調査の概要

1 調査の目的

取手市では、男女共同参画社会の実現を重要課題の一つとして、さまざまな取組を進めている中で、現行の「第三次取手市男女共同参画計画」を見直して新たな「第四次取手市男女共同参画計画」を策定するにあたり、18歳以上の市民の皆様から男女共同参画社会に関する意識や意見を聞き、今後の市の取組への反映を図るとともに計画づくりの参考資料として活用するために本調査を実施した。

2 調査の対象

取手市住民のうち、18歳～69歳の方の中から無作為抽出した2,500人

3 調査の方法

郵送による配布・回収

4 調査の実施時期

令和2年10月

5 配布・回収の結果

配布票数	回収票数 【回収率】	無効票数 (※)	有効回答数 【有効回答率】
2,500 票	1,142 票 【45.7%】	8 票	1,134 件 【45.4%】

※無効票については、白紙またはそれに準ずるものを無効と判定した。

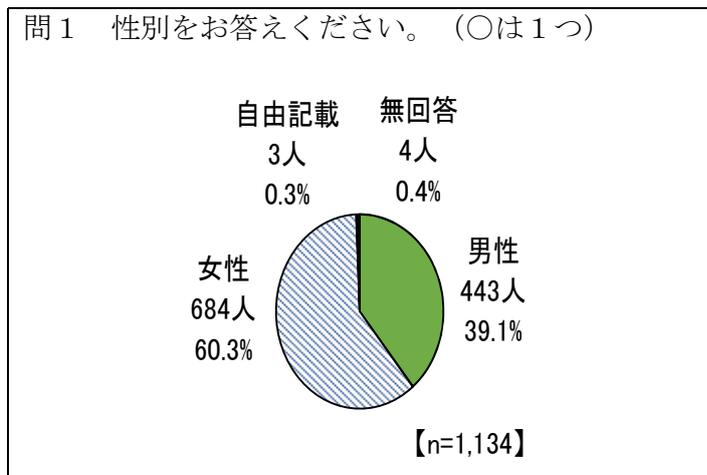
6 報告書の表記及び注意点について

1. 回答は、各質問の回答該当者数を基数とした百分率（%）で示している。小数点第2位を四捨五入しているため、比率の合計が100.0%にならない場合がある。
2. 複数回答を許している回答項目については、その項目に対して有効な回答をした者の数を基数として比率算出を行っているため、回答比率の合計は100.0%を超える。
3. 説明文及びグラフで、選択肢の語句を一部簡略化して表している。
4. グラフでは、その設問に対して回答することのできる対象者数を「n」と表記し、その数を表している。
5. 本調査では、男女共同参画や男女の平等に関する意識を調査するため、性別を尋ねる設問を設けている。性の多様性を考慮し、選択肢に「自由記載（ ）」を設けたところ、3人から回答が得られた。母数が小さく分析が難しいことから、得られた回答は参考値として扱い、グラフのみに留める。

Ⅱ 調査結果の分析

1 あなたのことについて

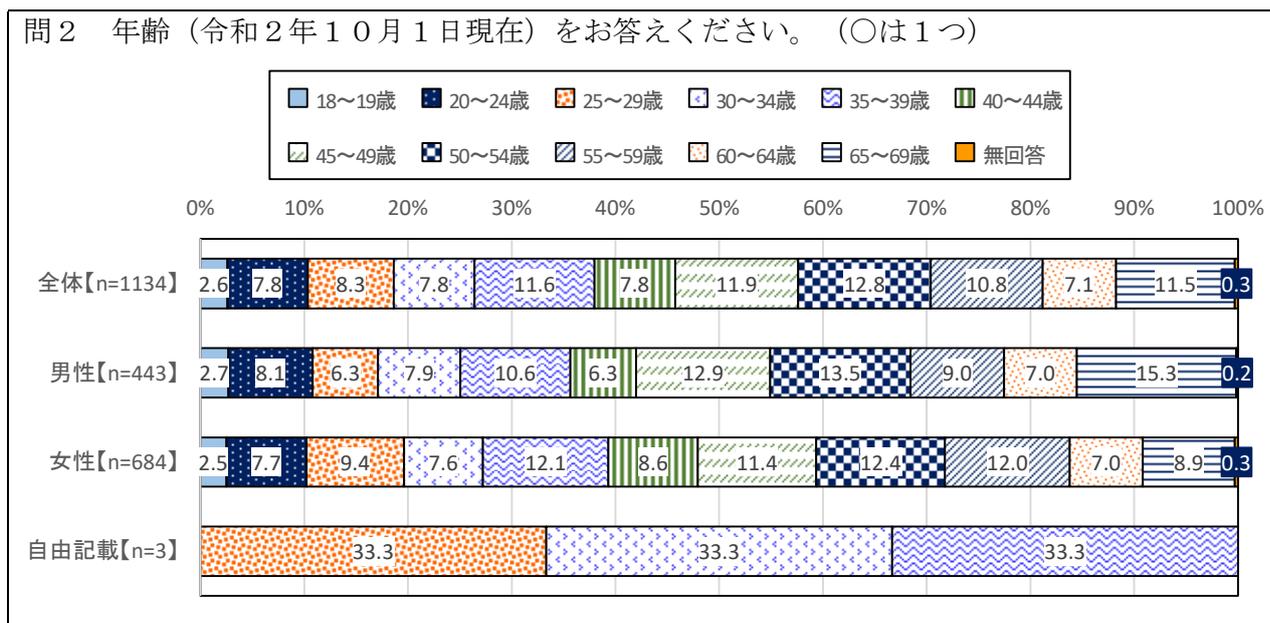
(1) 性別



回答者の性別については、「男性」が443人で39.1%、「女性」は684人で60.3%となっている。

なお、「自由記載」は3人で0.3%、「無回答」は4人で0.4%となっている。

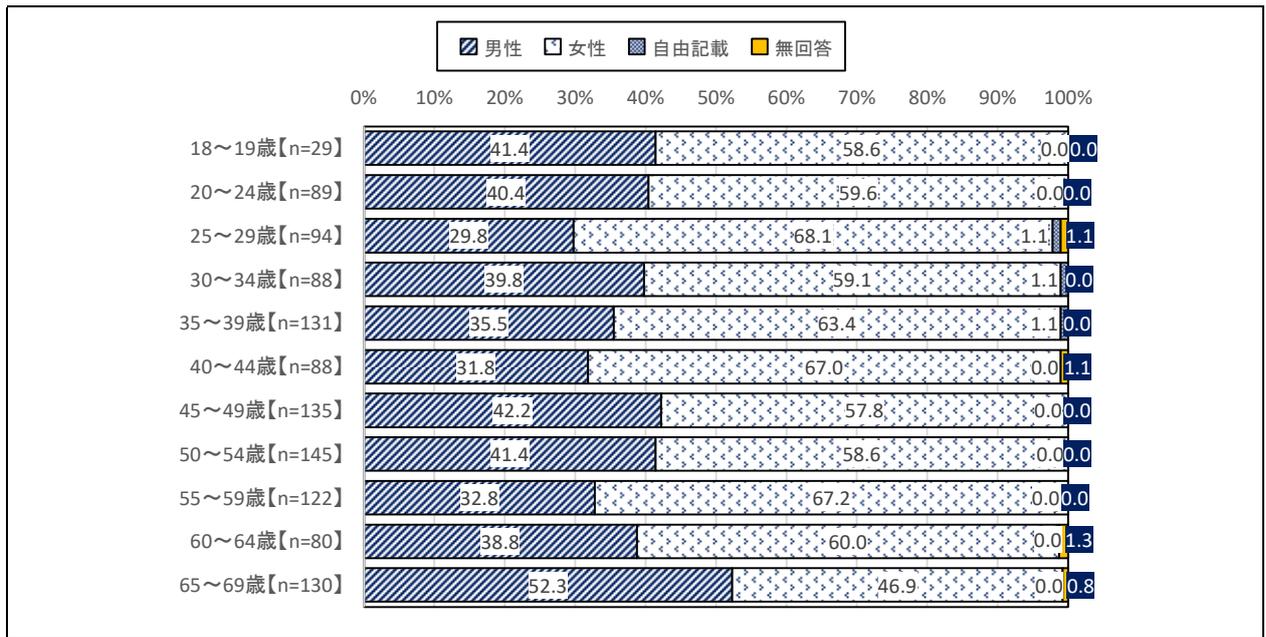
(2) 年齢



回答者の年齢構成は、全体では「50~54歳」(12.8%)が最も多く、以下、「45~49歳」(11.9%)、「35~39歳」(11.6%)、「65~69歳」(11.5%)などと続いている。

男女別にみると、女性のほうが男性よりも若い年代の構成比が若干高くなっている。

●年代×性別クロス集計



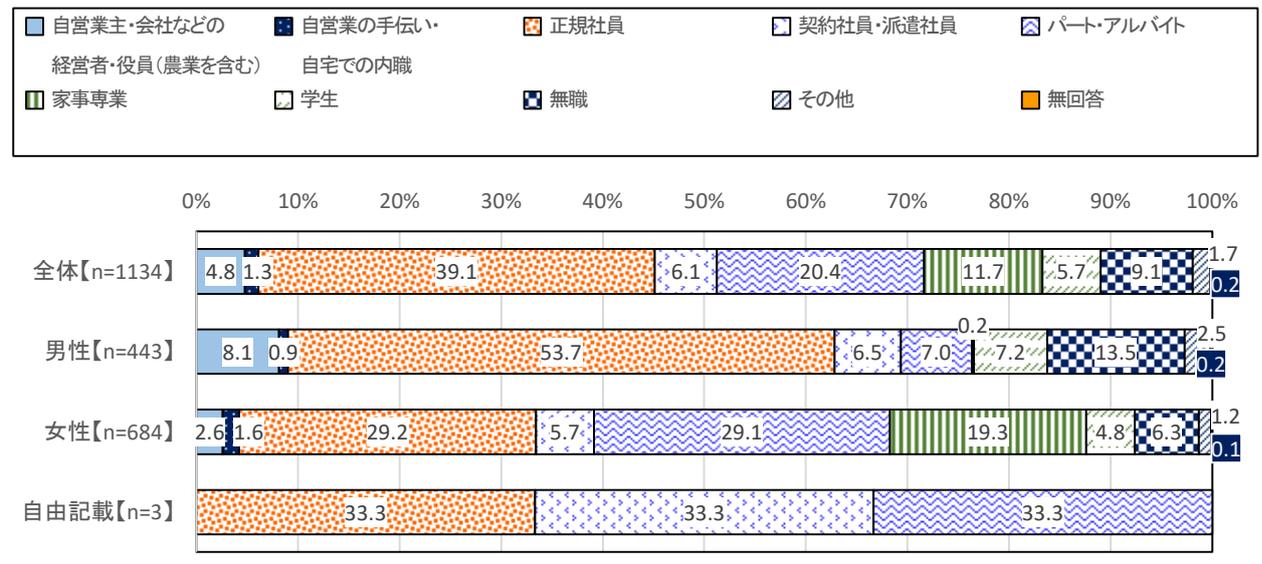
年代別に男女比をみると、多くの年齢階級で女性の比率が高くなっており、25～29歳、55～59歳では女性の比率が約7割を占めている。

一方、65～69歳では唯一、男性の構成比が5割を占めるなど高くなっている。

(3) 職業

問3 職業をお答えください。(○は1つ)

(2つ以上仕事をお持ちの方は主なものを1つ)

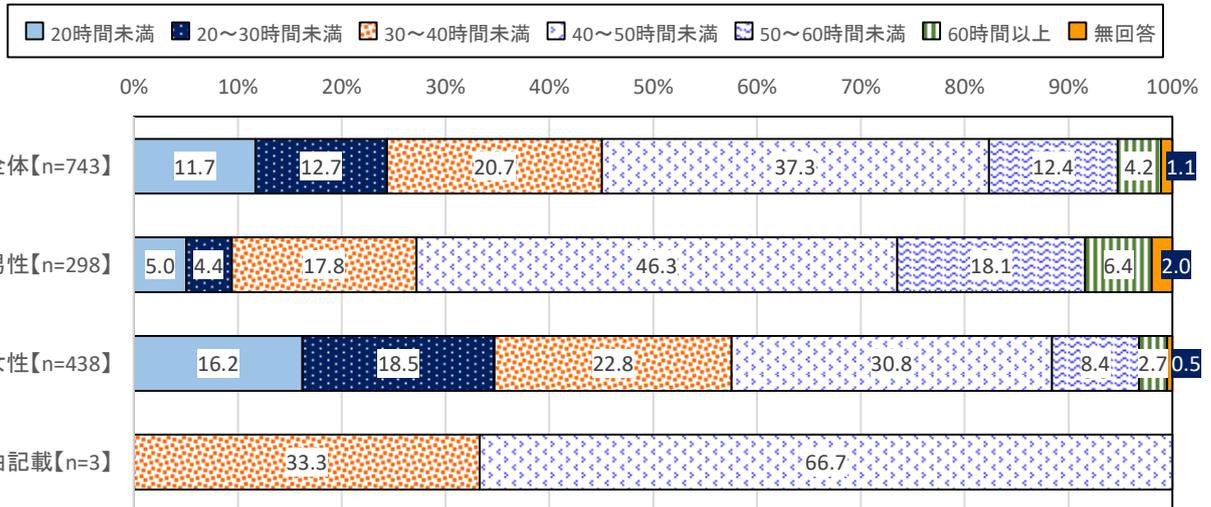


回答者の職業については、全体では「正規社員」(39.1%)が最も多く、以下、「パート・アルバイト」(20.4%)、「家業専業」(11.7%)、「無職」(9.1%)などとなった。

男女別にみると、男性、女性いずれも「正規社員」が最も多く、特に男性では「正規社員」が約5割を占めている。女性では、「正規社員」と「パート・アルバイト」がほぼ同率で上位を占めている。

(4) 週平均の勤務時間

問3-1 問3で「3. 正規社員」「4. 契約社員・派遣社員」「5. パート・アルバイト」とお答えいただいた方にかがいます。
 1週間で平均的におよそ何時間くらい働いていますか（残業時間も含めます）。
 (○は1つ)

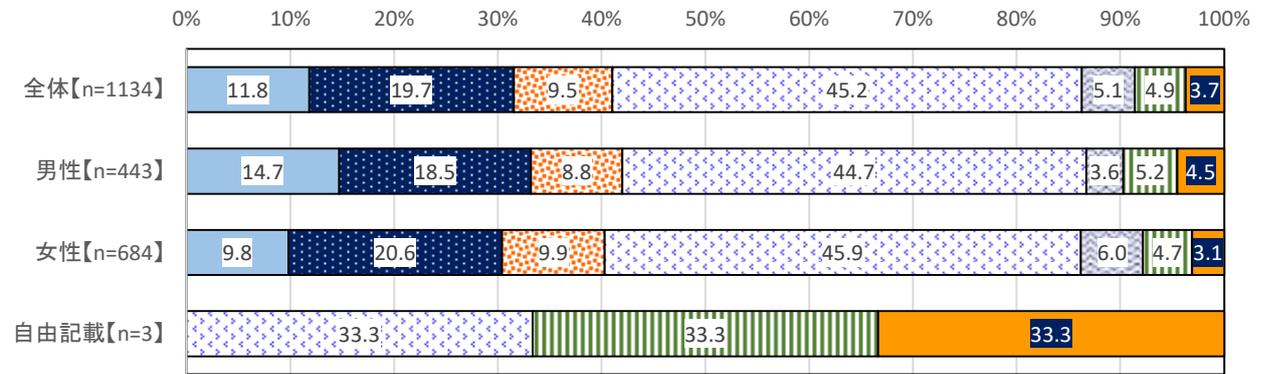
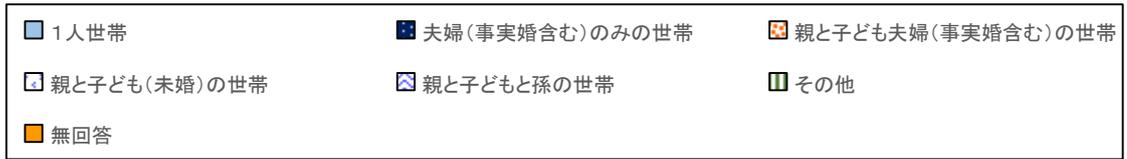


「正規社員」「非正規社員」「パート・アルバイト」で働いていると回答した人に、1か月あたりの平均的な残業時間を尋ねたところ、全体では「40~50時間未満」（37.3%）で最も多く、以下、「30~40時間未満」（20.7%）、「20~30時間未満」（12.7%）などと続いている。

男女別にみると、男性、女性いずれも「40~50時間未満」が最も多かった。以下、男性では「50~60時間未満」（18.1%）、「30~40時間未満」（17.8%）などの順となっている。女性では「30~40時間未満」（22.8%）、「20~30時間未満」（18.5%）、「20時間未満」（16.2%）などの順となった。

(5) 世帯構成

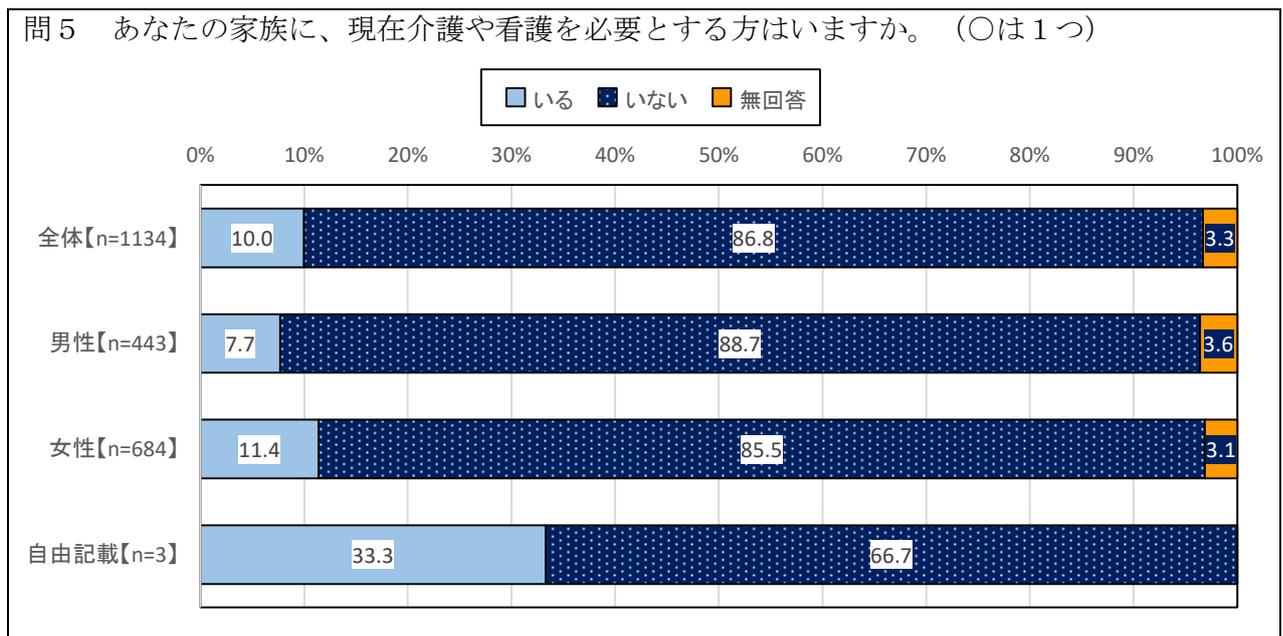
問4 現在の世帯構成は、次のどれに当たりますか。(〇は1つ)



回答者の世帯構成については、「親と子ども(未婚)の世帯」(45.2%)が最も多いほか、「夫婦(事実婚含む)のみの世帯」(19.7%)、「1人世帯」(11.8%)、「親と子ども夫婦(事実婚含む)の世帯」(9.5%)などとなっている。

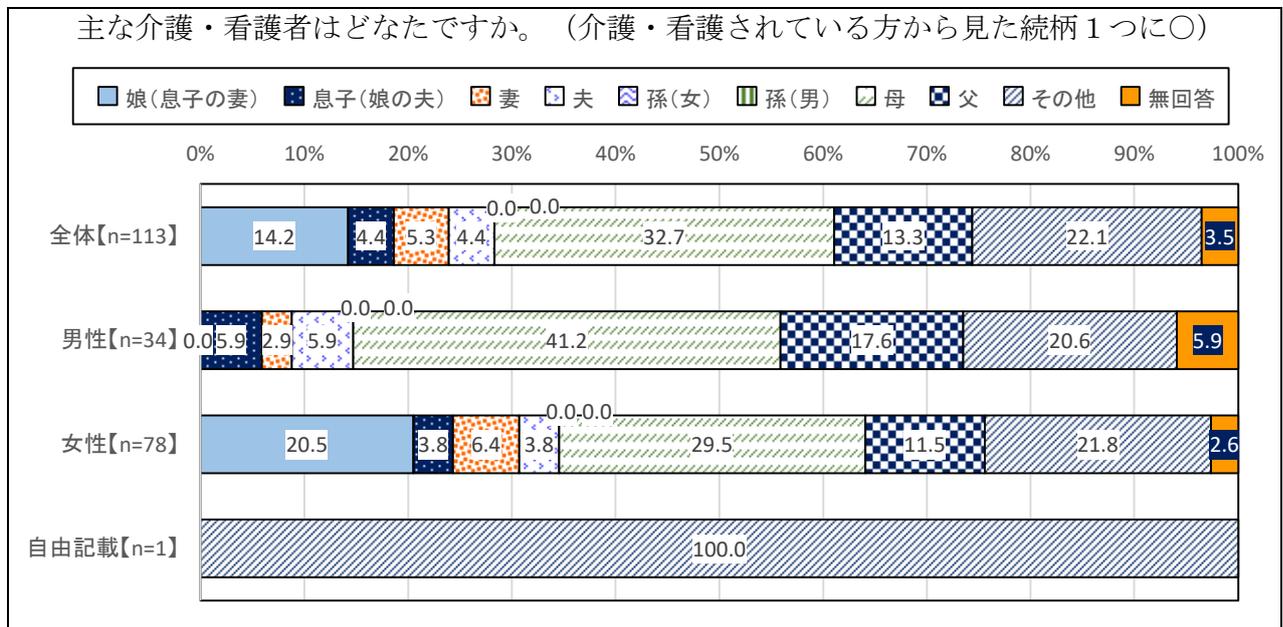
男女別にみると、男性、女性いずれも「親と子ども(未婚)の世帯」が最も多く、4割を占めている。

(6) 要介護者・看護者の有無



世帯に現在介護や看護を必要とする者が「いる」割合は、全体では10.0%となっている。男女別にみると、男性では7.7%、女性では11.4%となっている。

(7) 《世帯に要介護者・看護者がいる人》主な介護・看護者



世帯に現在介護や看護を必要とする者が「いる」と回答した人に、主な介護・看護者の続柄(介護・看護されている方から見た)を尋ねたところ、「母」(32.7%)、「娘(息子の妻)」(14.2%)、「父」(13.3%)、「妻」(5.3%)などが多く挙げられている。

男女別にみると、男性では「母」が41.2%で最も多くなっているが、女性では「母」の29.5%に次いで「娘(息子の妻)」が20.5%と多く挙げられている。

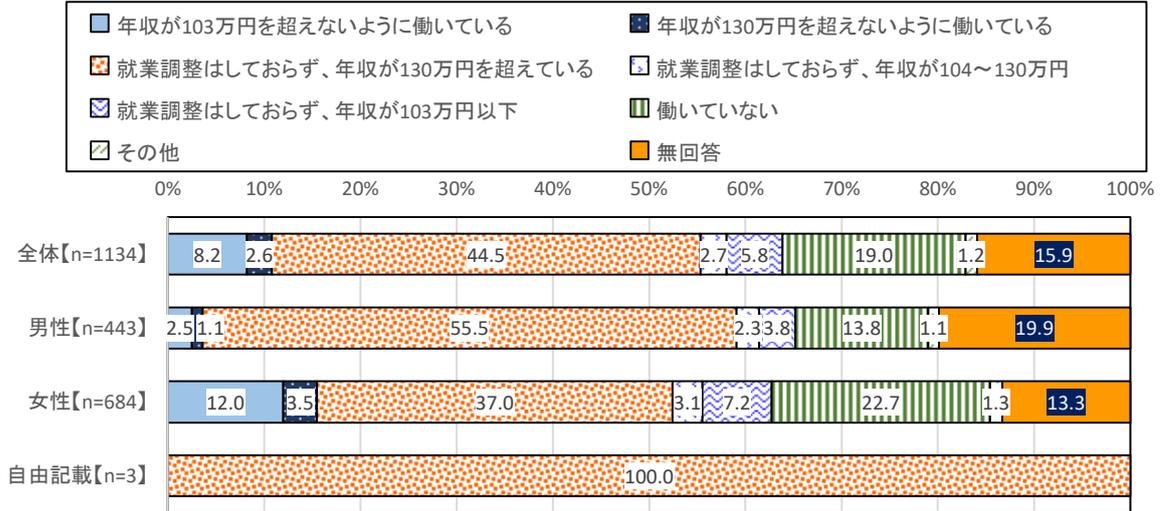
(8) 本人・配偶者による就業調整の有無

問6 あなた又はあなたの配偶者は就業調整※をしていますか。(○はそれぞれ1つ)

※用語の意味

本来ならもっと働けるが、税や社会保険料負担などを考慮して、働く時間や年収額を自主的に抑えることをいいます。

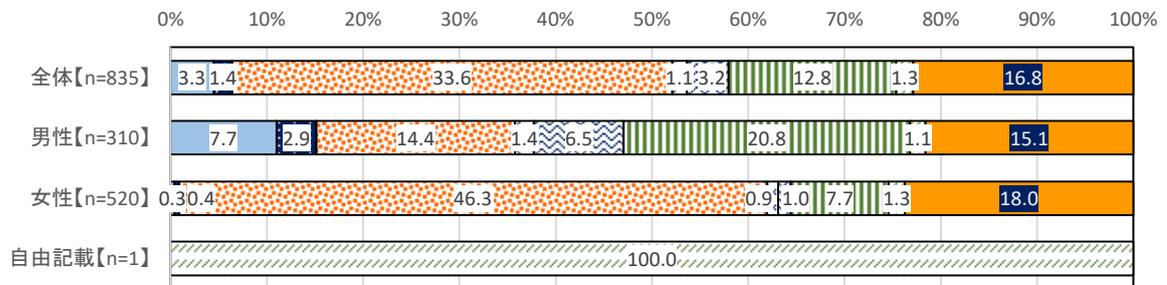
1 あなた



自分自身が就業調整をしているか尋ねたところ、全体では「就業調整はしておらず、年収が130万円を超えている」(44.5%)が最も多く、次いで「働いていない」(19.0%)、「年収が103万円を超えないように働いている」(8.2%)が続いている。

男女別にみると、男性、女性いずれも「就業調整はしておらず、年収が130万円を超えている」が最も多い。また、女性では「年収が103万円を超えないように働いている」の回答割合が男性よりも多くなっている。

2 配偶者

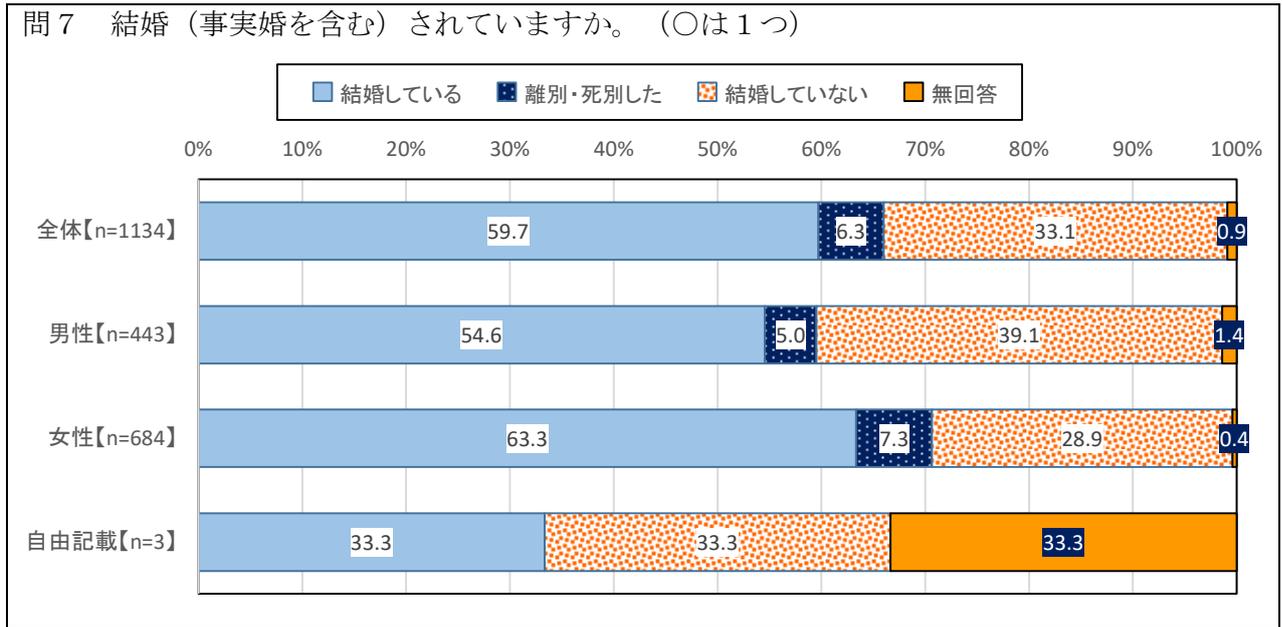


配偶者が就業調整をしているか尋ねたところ、全体では「就業調整はしておらず、年収が130万円を超えている」（33.6%）が最も多く、次いで「働いていない」（12.8%）、「年収が103万円を超えないように働いている」（3.4%）が続いている。

男女別にみると、男性（の配偶者）が「年収が103万円を超えないように働いている」（7.7%）、「就業調整はしておらず、年収が103万円以下」（14.4%）の回答割合は女性よりも多くなっている。

(9) 結婚しているか

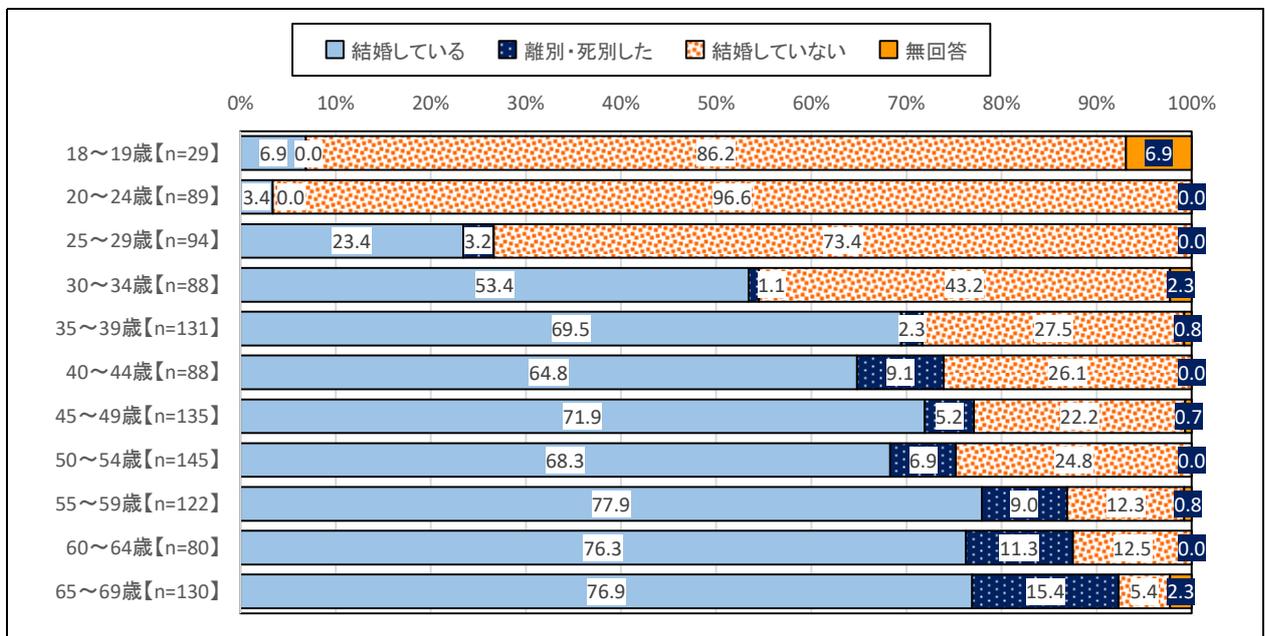
問7 結婚（事実婚を含む）されていますか。（○は1つ）



事実婚を含めた婚姻状況を尋ねたところ、全体の59.7%が「結婚している」と回答している。

男女別に「結婚している」の回答割合をみると、男性では54.6%、女性では63.3%となっている。

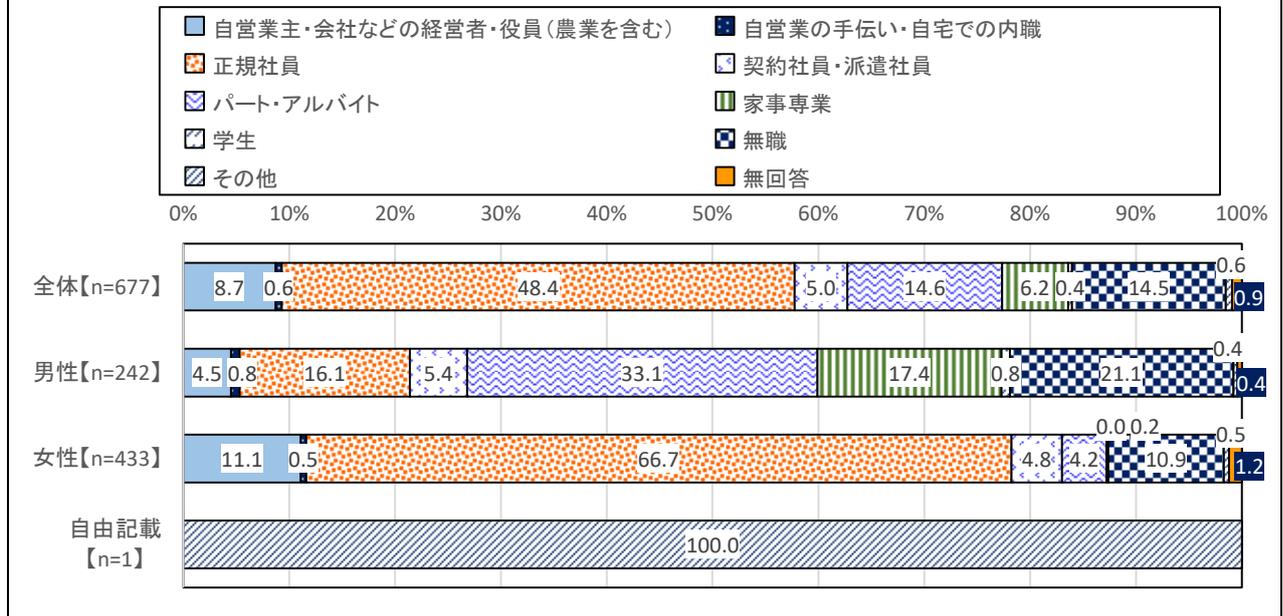
●年代別クロス集計



年代別にみると、「結婚している」の回答割合は「20～24歳」を境に年齢階層が上がるごとに増加しており、「55～59歳」では77.9%と最も多くなっている。

(10) 《結婚している人》配偶者・パートナーの職業

問7-1 問7で「1. 結婚している」とお答えいただいた方にかがいます。
 あなたの配偶者・パートナーの職業はどのような内容ですか。（○は1つ）
 （2つ以上仕事をお持ちの方は主なものを1つ）



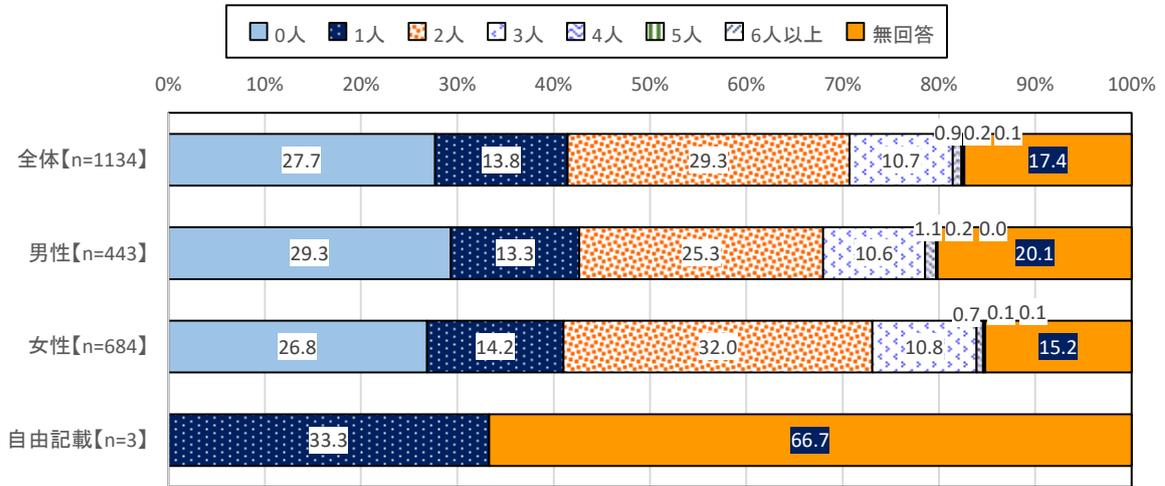
現在結婚していると回答した人に配偶者の職業を尋ねたところ、全体では「正規社員」（48.4%）が最も多く、以下、「パート・アルバイト」（14.6%）、「無職」（14.5%）、「自営業主・会社などの経営者・役員（農業を含む）」（8.7%）などとなっている。

男女別にみると、男性（の配偶者・パートナー）では「パート・アルバイト」（33.1%）が最も多く、次いで「無職」（21.1%）、「家事専業」（17.4%）、「正規社員」（16.1%）となっている。女性（の配偶者・パートナー）では「正規社員」（66.7%）が最も多くなっている。

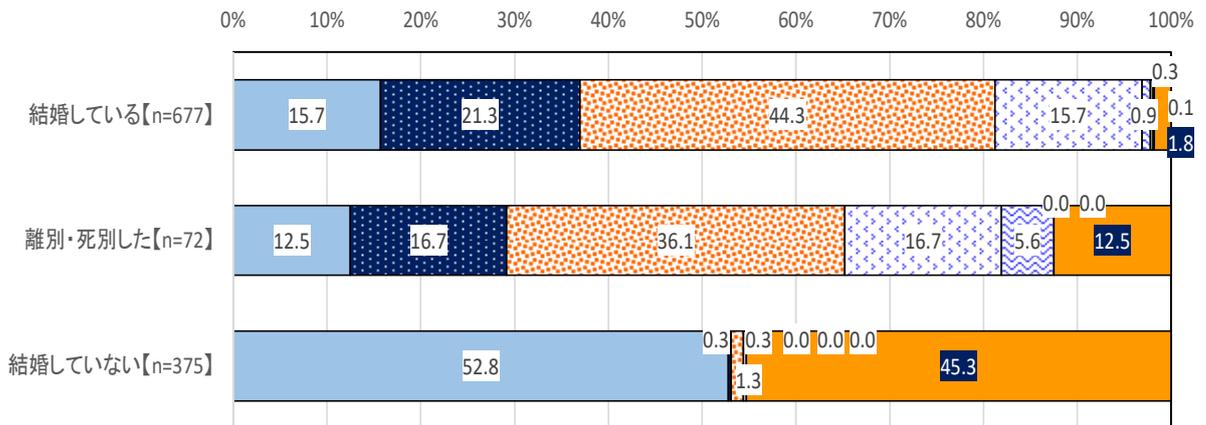
(11) 子どもの人数

問8 子どもの人数について、現実と理想をお答えください。（数字を記入）

①現実の子どもの人数



<婚姻状況別>



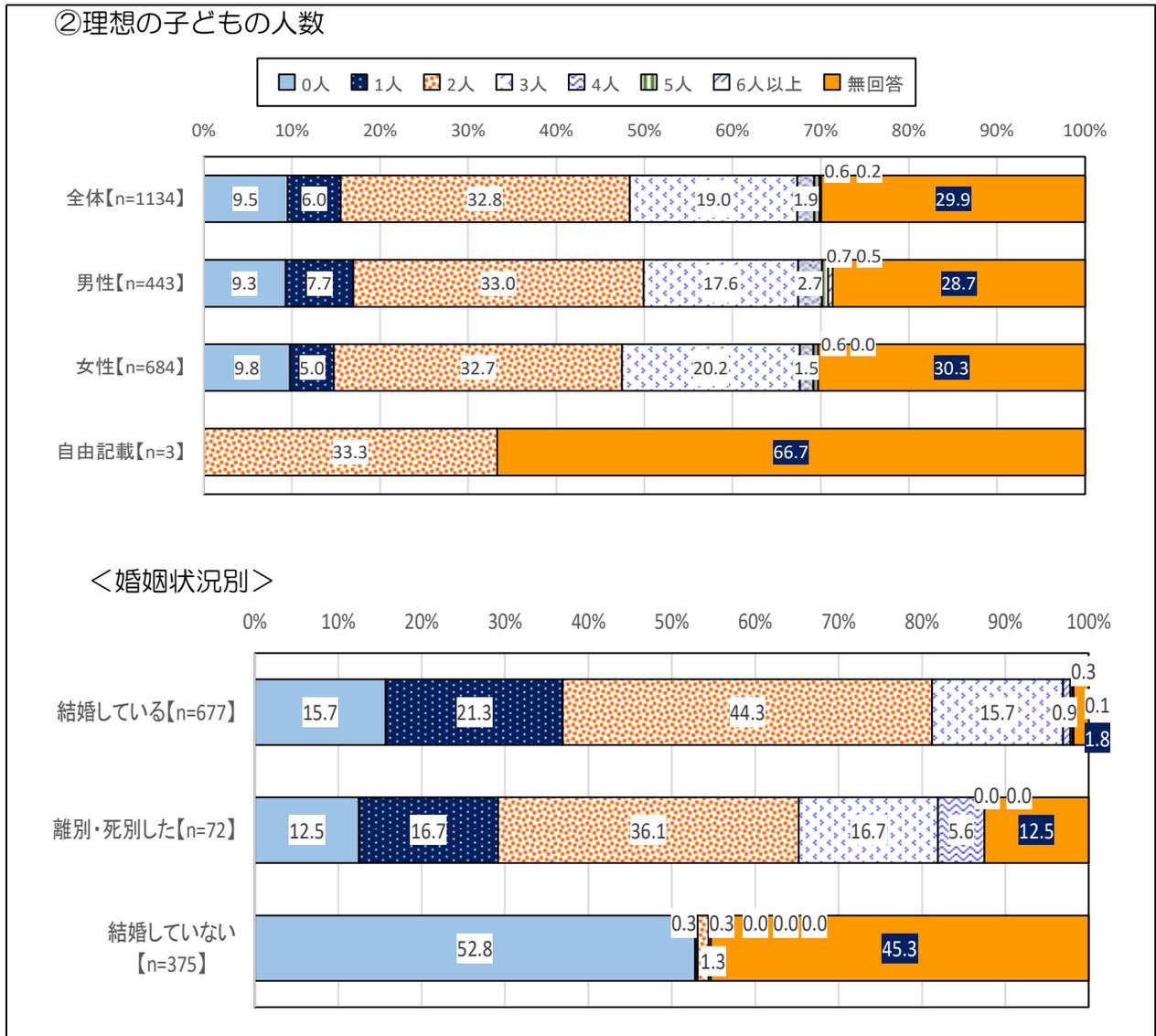
現実の子どもの人数については、全体では「2人」（29.3%）が最も多く、以下、「1人」（13.8%）、「3人」（10.7%）、「4人」（0.9%）となっている。一方、27.7%は「0人」と回答している。

男女別にみると、「0人」以外の回答では、男性、女性いずれも「2人」が最も多くなっている。

婚姻状況別にみると、「結婚している」では「2人」（44.3%）が最も多く、以下、「1人」（21.3%）、「0人」と「3人」（それぞれ15.7%）などとなっている。

「離別・死別した」では「2人」（36.1%）が最も多く、次いで、「1人」と「3人」（それぞれ16.7%）などとなっている。

「結婚していない」では「2人」（1.3%）が最も多く挙げられており、次いで、「1人」と「3人」（それぞれ0.3%）となっている。また、52.8%が「0人」と回答している。



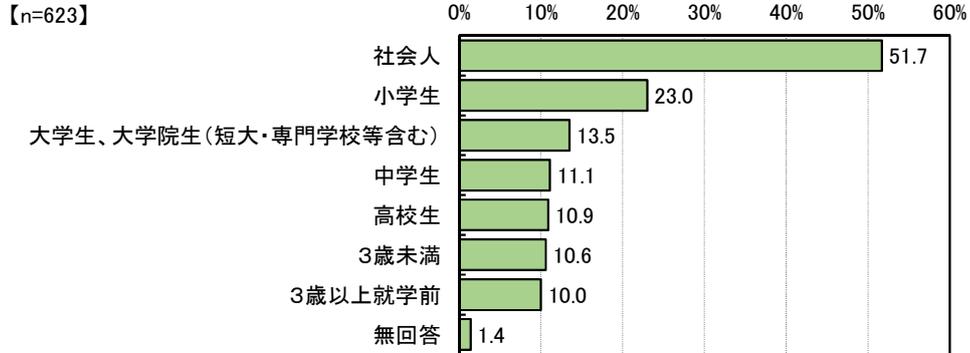
理想の子どもの人数については、全体では「2人」（32.8%）が最も多く、以下、「3人」（19.0%）、「0人」（9.5%）、「1人」（6.0%）となっている。

男女別にみると、男性、女性いずれも「2人」が最も多くなっている。

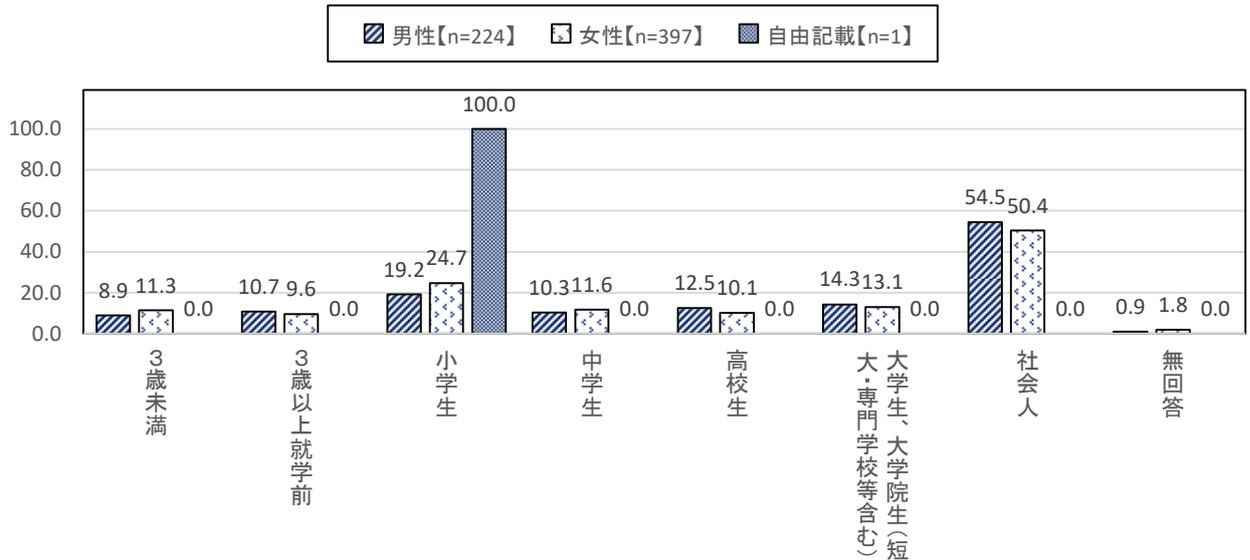
婚姻状況別にみると、「結婚している」、「離別・死別した」、「結婚していない」、いずれも「2人」が最も多くなっている。一方で、「0人」の回答が多かった「結婚していない」の20.5%と、「0人」の回答が少なかった「結婚している」の3.8%では5倍もの差がみられた。

(12) 《子どもがいる人》子どもの年代

③①で子どもが1人以上いるとお答えの方にお尋ねします。
 子どもの年代（〇はいくつでも）



<男女別>

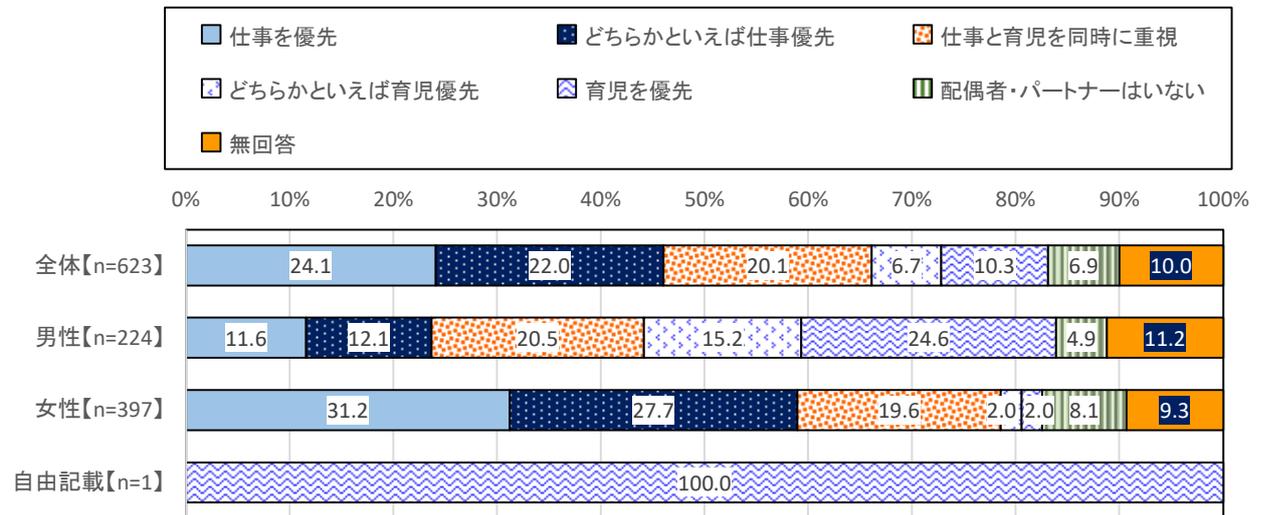


子どもが1人以上いると回答した人に子どもの年代を尋ねたところ、全体では「社会人」(51.7%)が最も多いほか、「小学生」(23.0%)、「大学生、大学院生(短大・専門学校等含む)」(13.5%)となっている。

男女別にみても、男性、女性ともに「社会人」が最も多く、次いで「小学生」、「大学生、大学院生(短大・専門学校等含む)」と上位3項目が同じであった。

(13) 《子どもがいる人》 配偶者・パートナーの働き方と子育ての状況

問8-1 問8で実際の子どもの人数が1人以上と回答した方（子どもがいる方）にうかがいます。
現在のあなたの配偶者・パートナーの働き方と子育ては次のどれに近いですか。
（○は1つ）



子どもがいると回答した人に現在の配偶者・パートナーの働き方と子育ての状況について尋ねたところ、全体では「仕事優先」（24.1%）が最も多く、以下、「どちらかといえば仕事優先」（22.0%）、「仕事と育児を同時に重視」（20.1%）、「育児を優先」（10.3%）、「どちらかといえば育児優先」（6.7%）の順となっている。

また、6.9%が「配偶者・パートナーはいない」と回答している。

男女別にみると、男性は『（配偶者・パートナーは）育児優先』（「どちらかといえば育児優先」、「育児を優先」の合計）が39.8%、『（配偶者・パートナーは）仕事優先』（「仕事を優先」、「どちらかといえば仕事優先」の合計）が23.7%であるのに対し、女性は『（配偶者・パートナーは）仕事優先』58.9%と半数を占め、『（配偶者・パートナーは）育児優先』は4.0%であった。

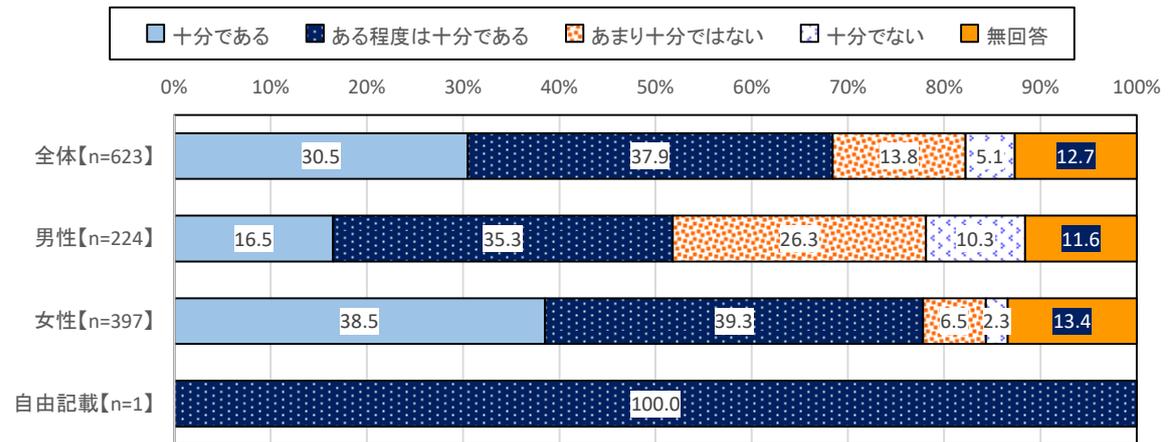
(14) 《子どもがいる人》子育てと家事への関わり方

問8-2 問8で実際の子ども的人数が1人以上と回答した方（子どもがいる方）にうかがいます。

あなたと配偶者・パートナーの子育て・家事への関わりは十分だと思いますか。

(①～④について、それぞれ該当する番号に○を1つ)

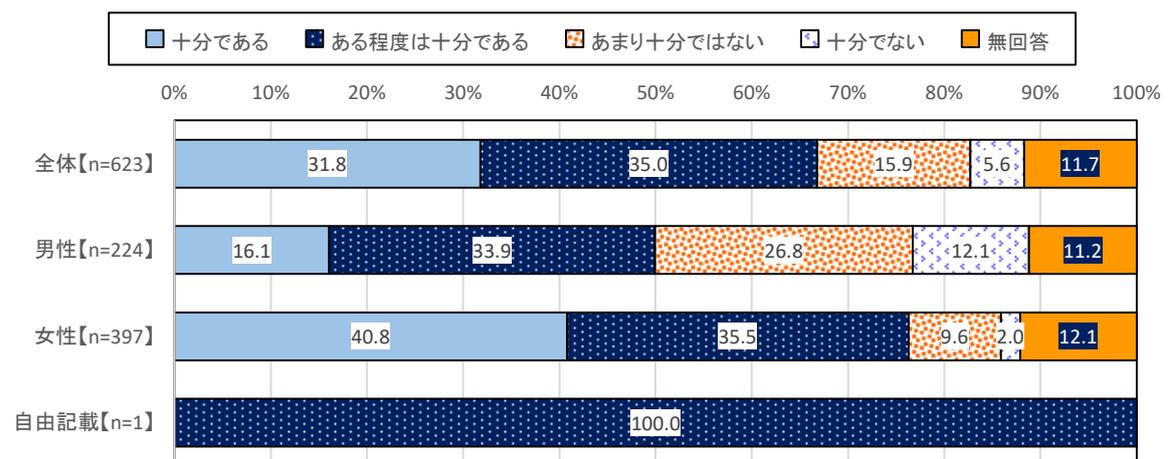
1 あなたの子育てへの関わり



回答者自身の子育てへの関わりについて尋ねたところ、全体では「ある程度は十分である」(37.9%)が最も多く、以下、「十分である」(30.5%)、「あまり十分ではない」(13.8%)、「十分でない」(5.1%)の順となっている。

男女別にみると、男性、女性ともに「(自分は)ある程度は十分である」が最も多くなっているが、次点では、男性が「(自分は)あまり十分ではない」(26.3%)に対して女性は「(自分は)十分である」(38.5%)と違いが見られた。

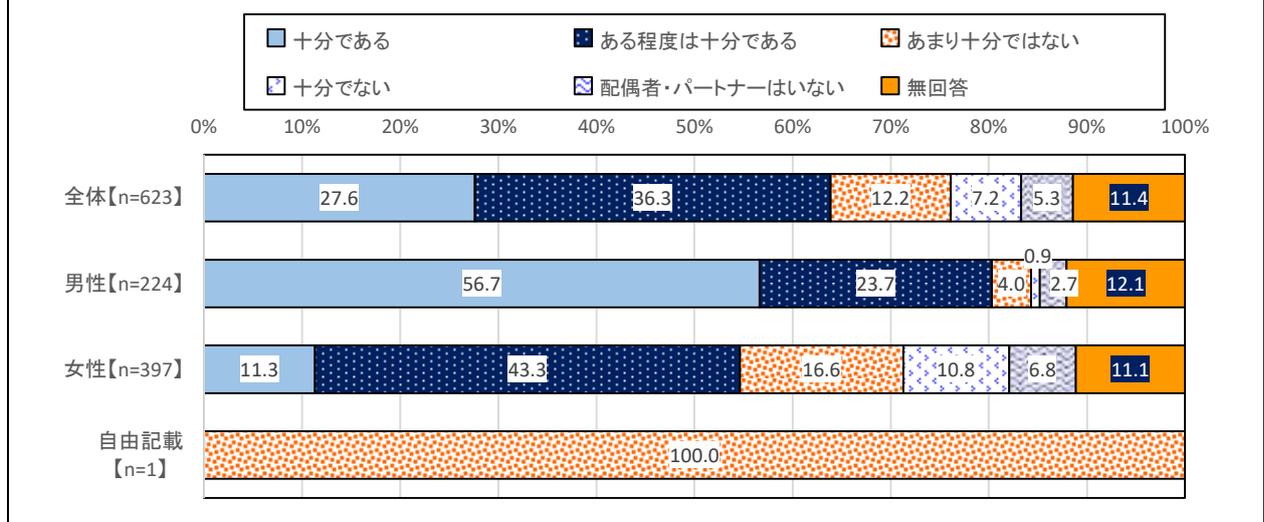
2 あなたの家事への関わり



回答者自身の家事への関わりについて尋ねたところ、全体では「ある程度は十分である」(35.0%)が最も多く、以下、「十分である」(31.8%)、「あまり十分ではない」(15.9%)、「十分でない」(5.6%)の順となっている。

男女別にみると、男性では「(自分は)ある程度十分である」(33.9%)、女性では「(自分は)十分である」(40.8%)がそれぞれ最も多くなっている。

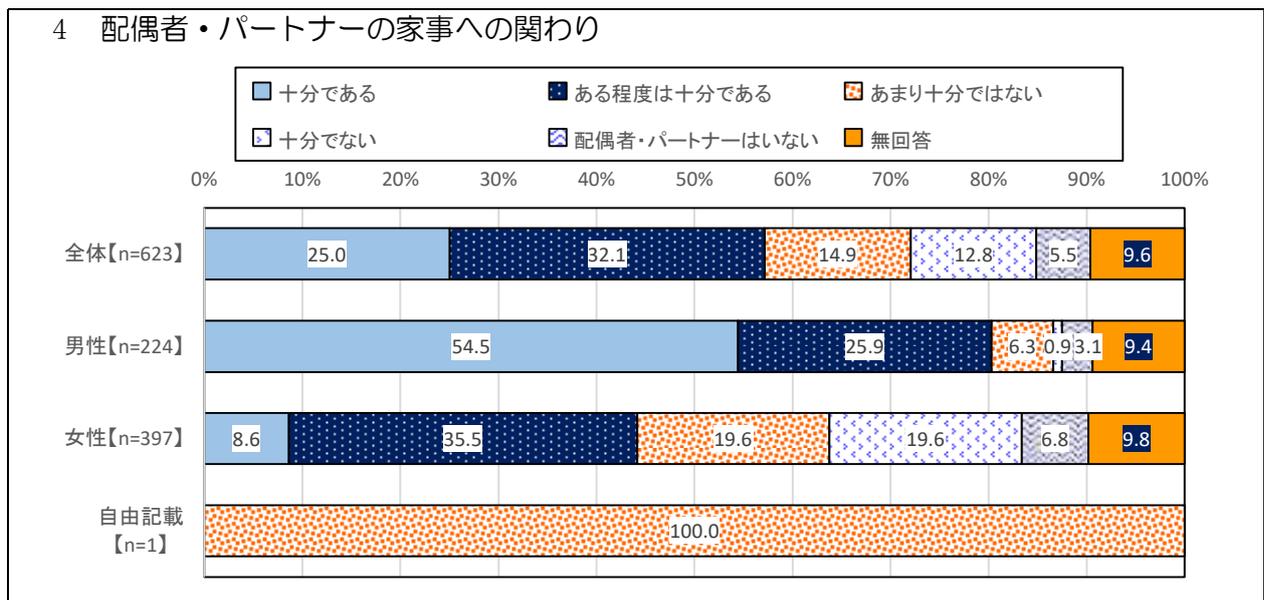
3 配偶者・パートナーの子育てへの関わり



配偶者・パートナーの子育てへの関わりについて尋ねたところ、全体では「ある程度は十分である」（36.3%）が最も多く、以下、「十分である」（27.6%）、「あまり十分ではない」（12.2%）、「十分でない」（7.2%）の順となっている。

男女別では、男性は「（配偶者・パートナーは）十分である」が56.7%と5割を超えたが、女性は11.3%と差がみられた。

4 配偶者・パートナーの家事への関わり



配偶者・パートナーの家事への関わりについて尋ねたところ、全体では「ある程度は十分である」（32.1%）が最も多く、以下、「十分である」（25.0%）、「あまり十分ではない」（14.9%）、「十分でない」（12.8%）の順となっている。

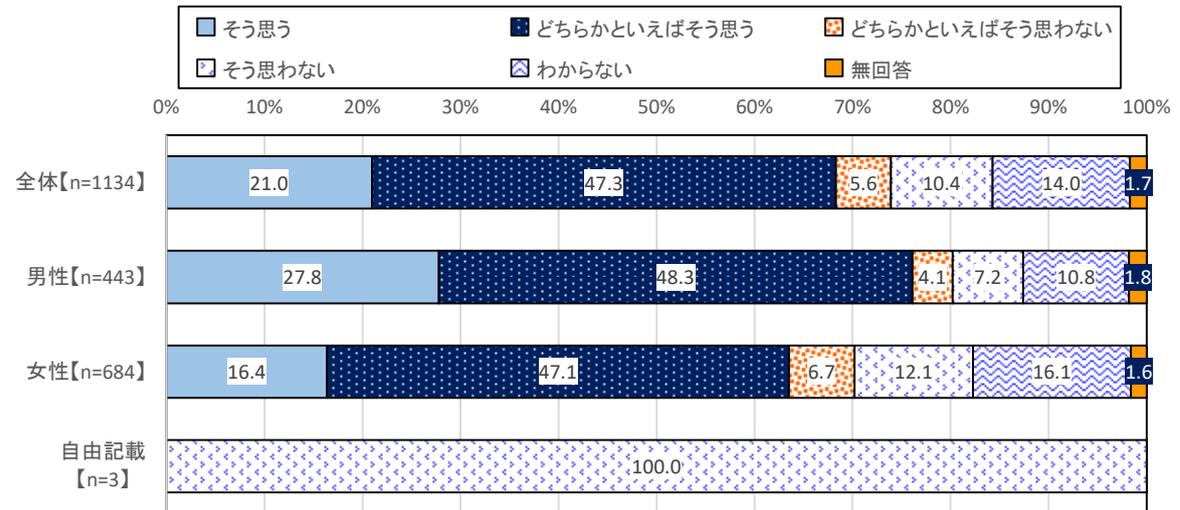
男女別では、「（配偶者・パートナーは）十分である」の回答割合について、男性は54.5%と多く、女性は8.6%と少ない。また、「（配偶者・パートナーは）十分でない」の回答割合では、男性は0.9%と少なく、女性は19.6%と多くなっている。

2 男女の生き方や家庭生活に関する意識について

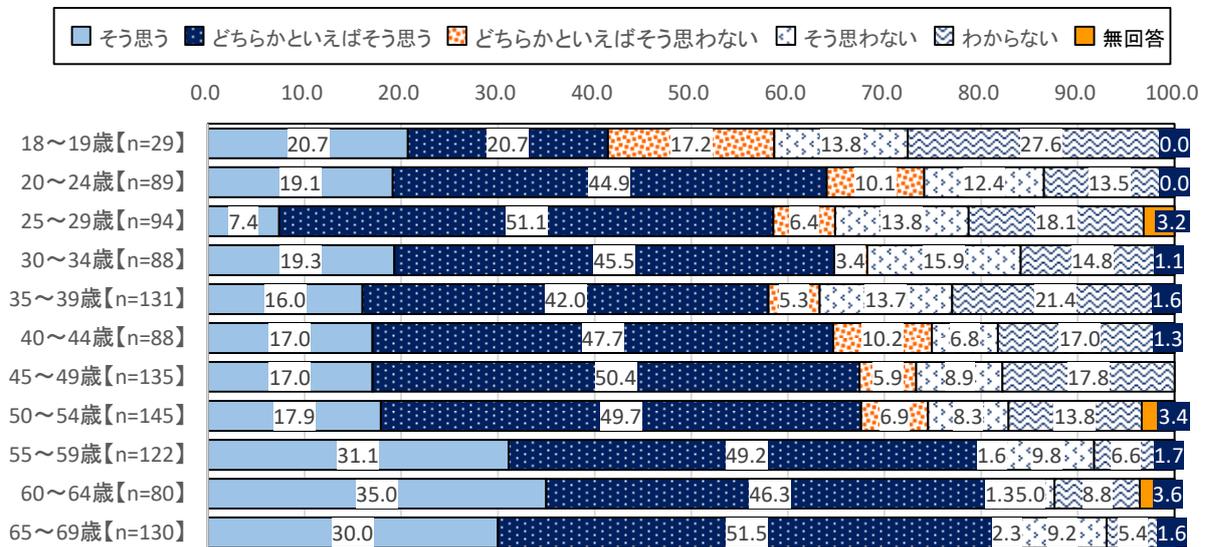
(1) 結婚や子どもを持つことに対する認識

問9 結婚や子どもをもつこと、家庭生活等についてどう思いますか。(①～⑩についてそれぞれ該当する「1～5」に○を1つ)

①人は結婚する方がよい



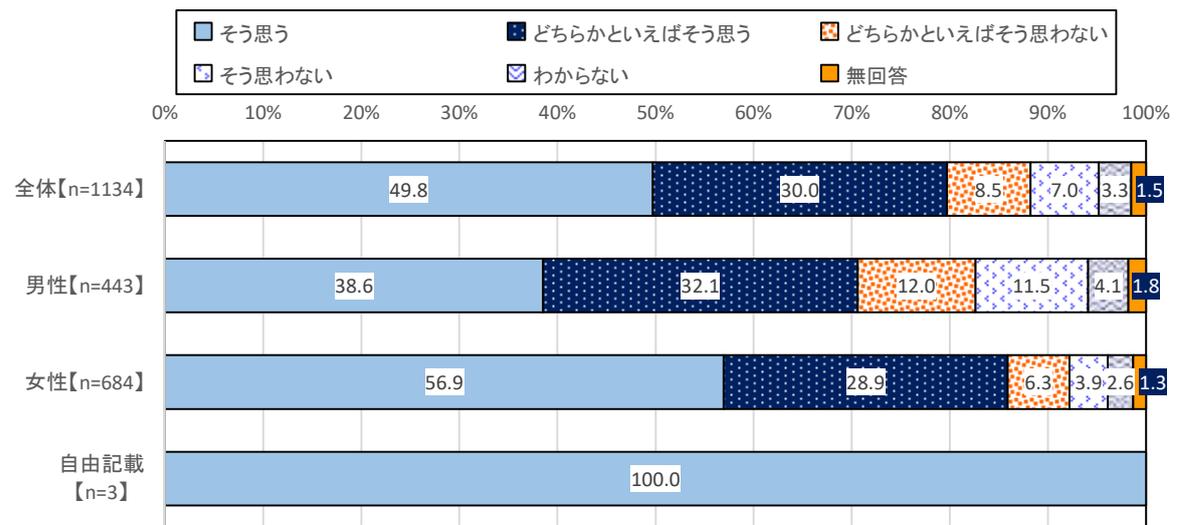
<年齢別>



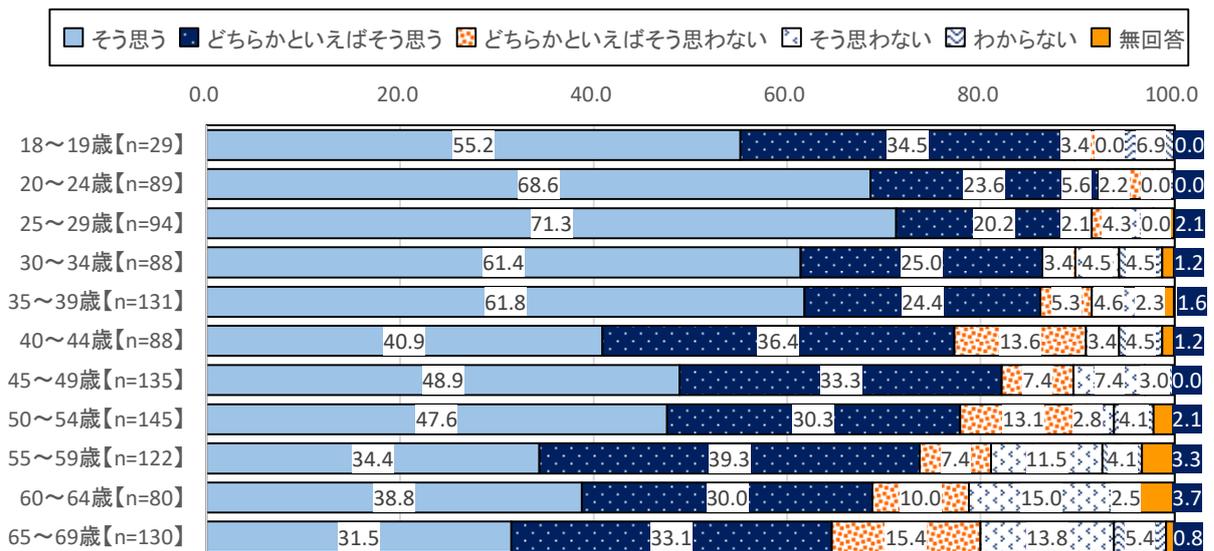
『①人は結婚する方がよい』という考えについては、大別して『そう思う割合』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は、全体では68.3%となっている。一方、14.0%は「わからない」と回答している。

男女別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえばそう思う」が最も多くなっている。年齢別でみると、「35～39歳」を境に「そう思わない」の回答比率が低くなっている。

②結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもよい



<年齢別>

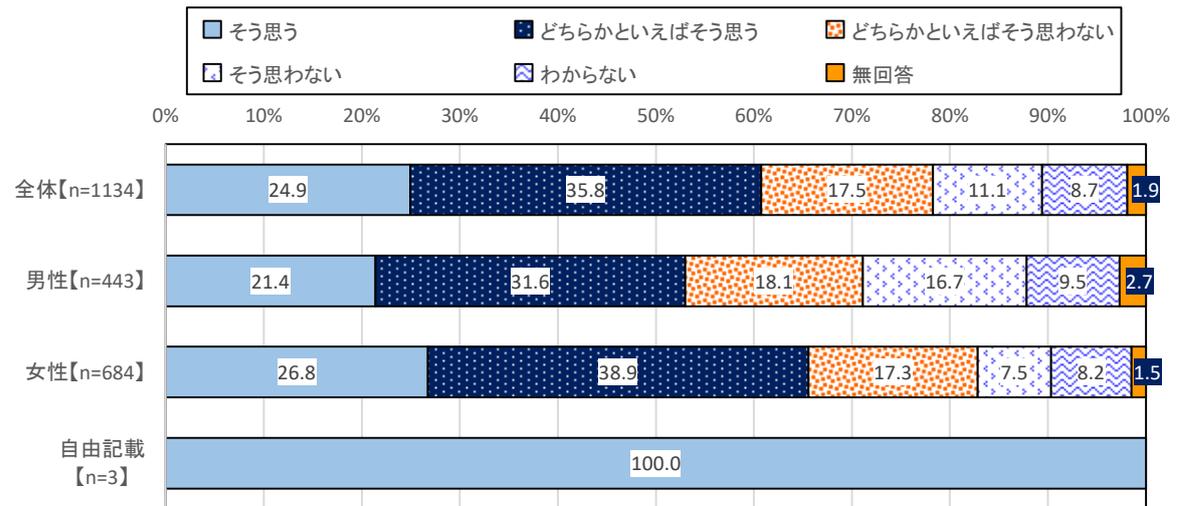


『②結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもよい』という考えについて、大別して『そう思う割合』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は、全体では79.8%となっている。

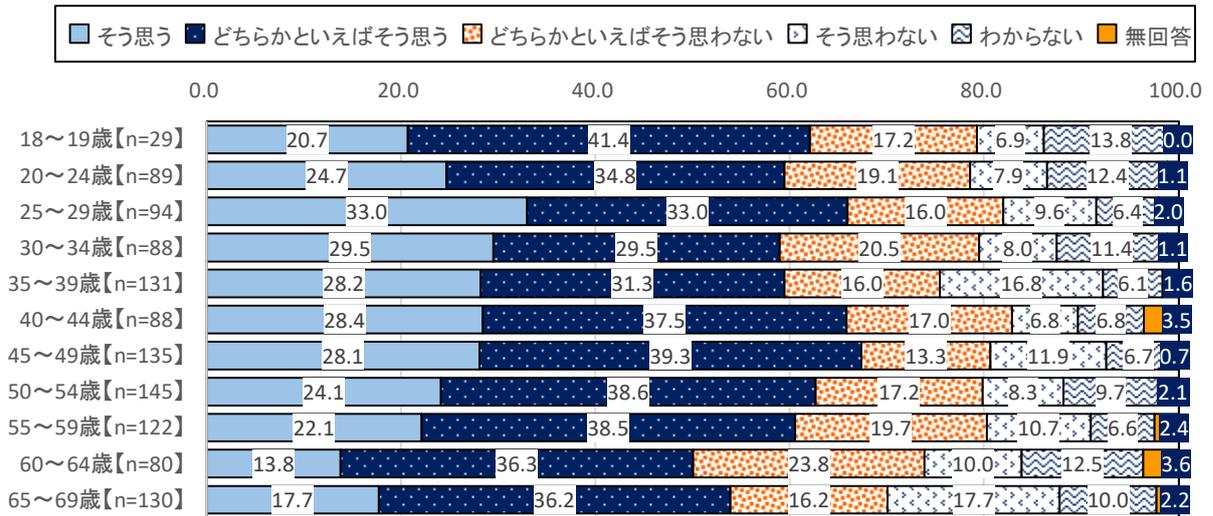
男女別に『そう思う割合』をみると、男性では70.7%、女性では85.8%となっている。

年齢別にみると、「35～39歳」を境に「そう思う」の回答比率が低くなり、「どちらかといえばそう思わない」の回答割合が高くなっている。

③結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい



<年齢別>

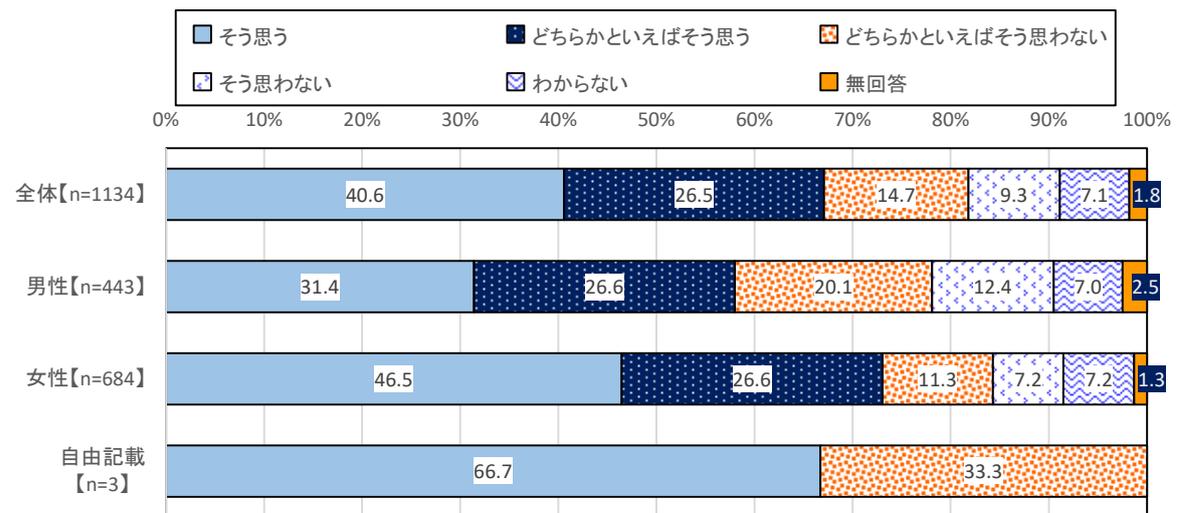


『③結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい』という考えについて、大別して『そう思う割合』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は、全体では60.7%となっている。

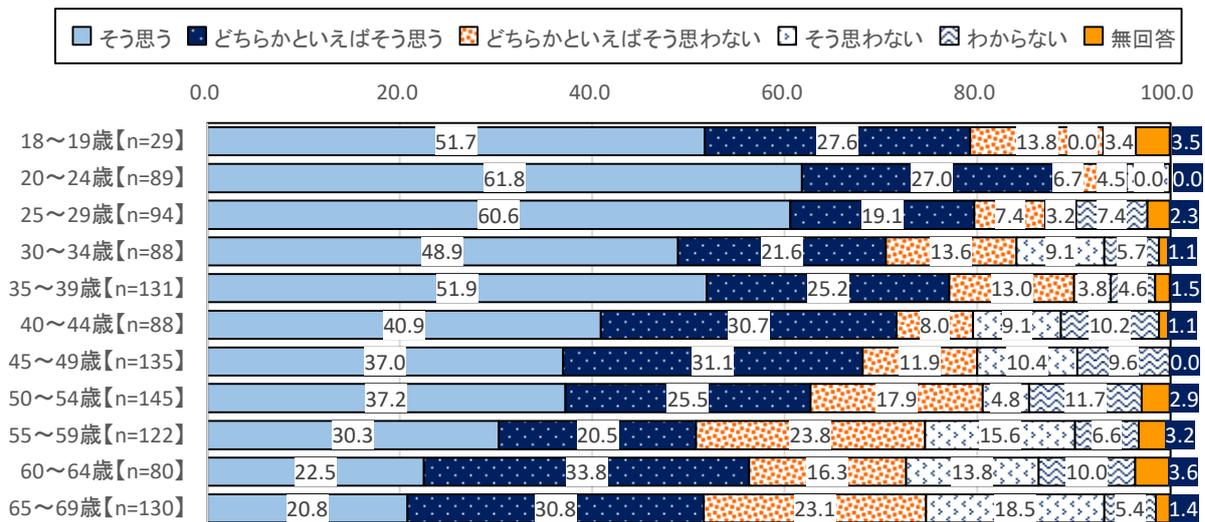
男女別に『そう思う割合』をみると、男性では53.0%、女性では65.7%となっている。

年齢別では、「そう思う」の回答割合が「25～29歳」（33.0%）を境に低くなっているが、「65～69歳」では再び高くなっている。

④結婚しても、必ず子どもを持つ必要はない



<年齢別>

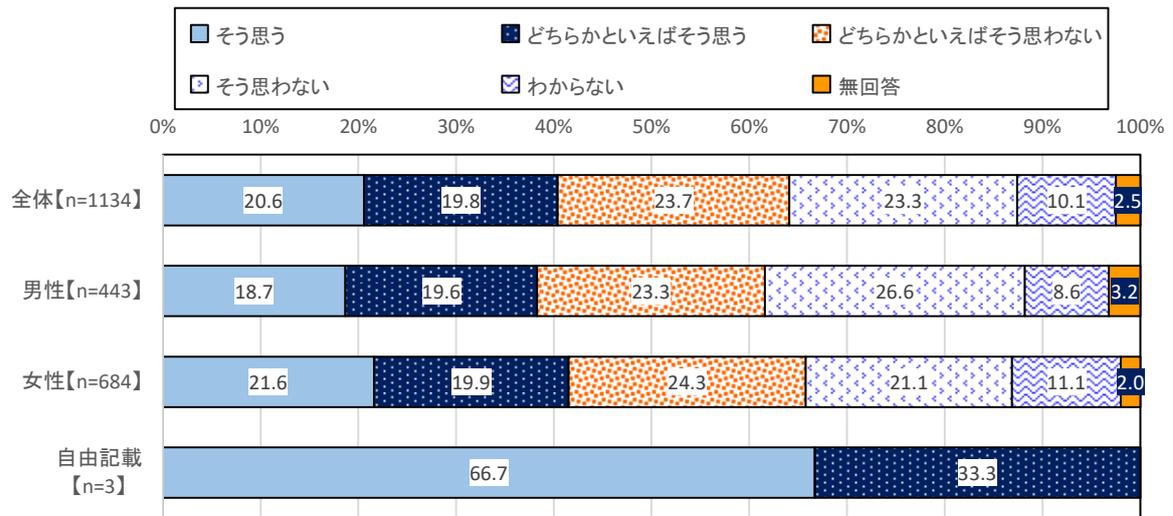


『④結婚しても、必ず子どもを持つ必要はない』という考えについて、大別して『そう思う割合』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は、全体では67.1%となっている。

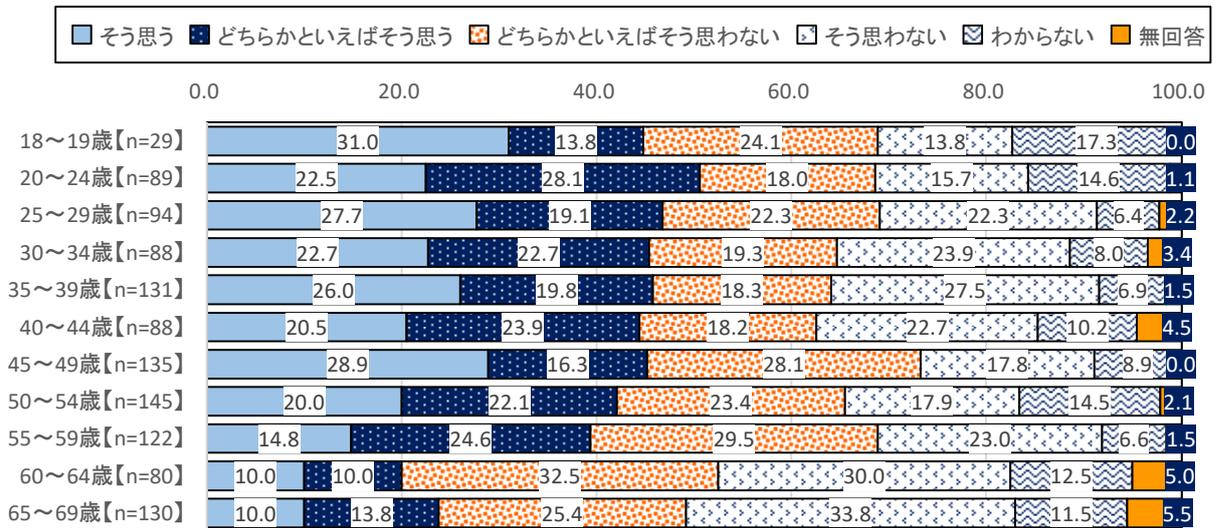
男女別に『そう思う割合』をみると、男性では58.0%、女性では73.1%となっている。

年齢別にみると、「そう思う」の回答割合は10～20歳代では半数を占めているが、40歳代以降では4割を割るなど、世代が上がるにつれて回答比率は下がっている。

⑤結婚しないで子どもを持ってもよい



<年齢別>

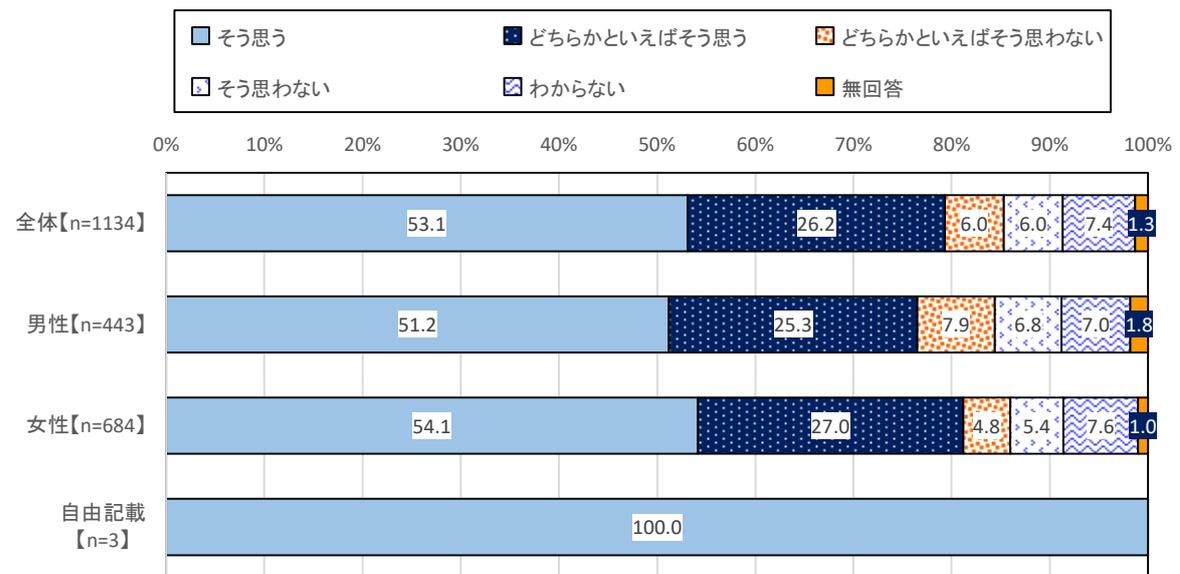


『⑤結婚しないで子どもを持ってもよい』という考えについて、大別して『そう思う割合』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は、全体では40.4%となっている。

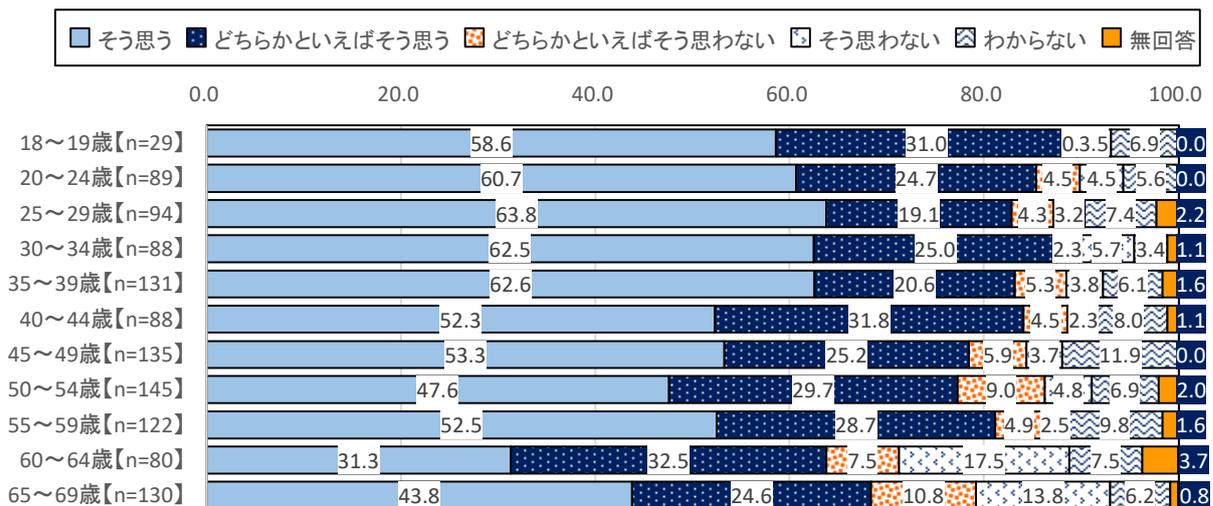
男女別に『そう思う割合』をみると、男性では38.3%、女性では41.5%となっている。

年齢別にみると、「45～49歳」を境に「どちらかといえばそう思わない」の回答比率が高くなっている。

⑥結婚して名字（姓）が変わっても、働くときに旧姓を通称として使用してもよい



<年齢別>

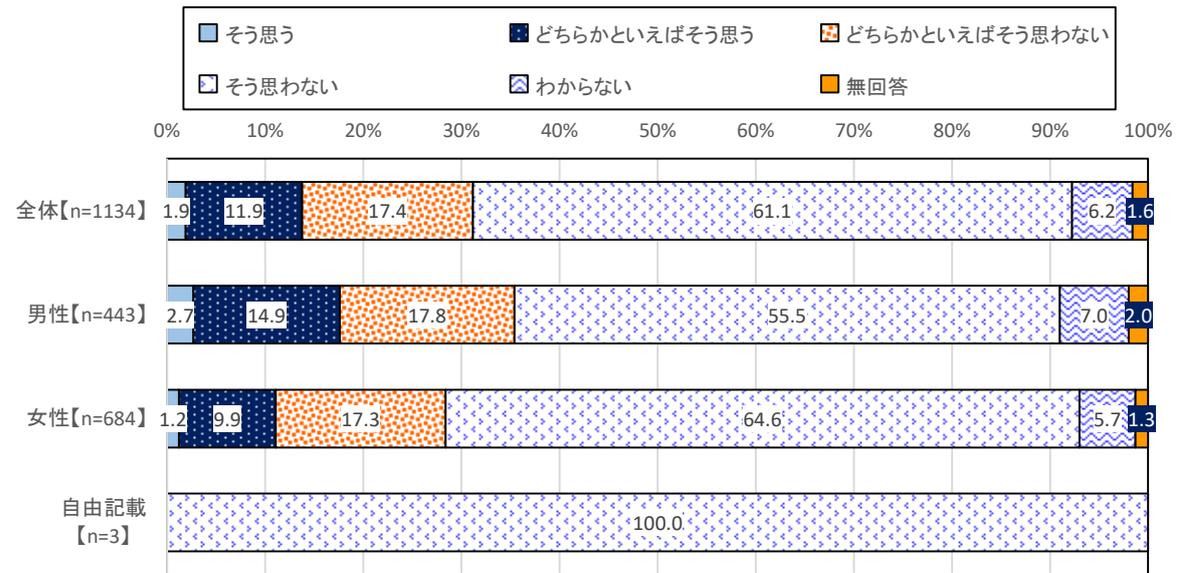


『⑥結婚して名字（姓）が変わっても、働くときに旧姓を通称として使用してもよい』という考えについて、大別して『そう思う割合』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は、全体では79.3%となっている。

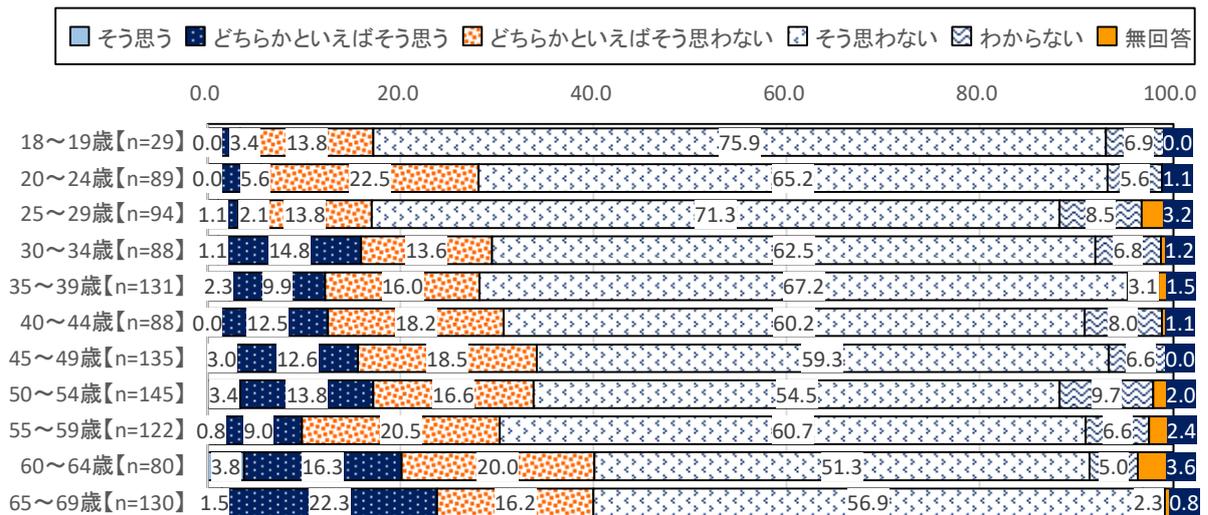
男女別に『そう思う割合』をみると、男性では76.5%、女性では81.1%となっている。

年齢別にみると、「60～64歳」では、他の世代と比較して「そう思わない」の回答比率が高くなっている。

⑦男性は仕事をし、女性は家庭を守るべき



<年齢別>

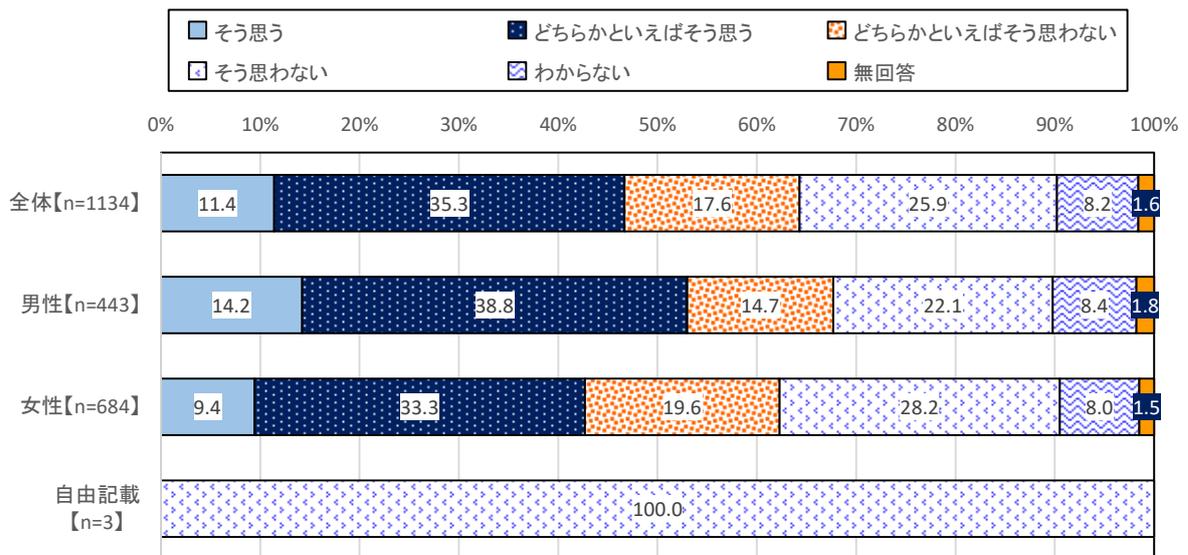


『⑦男性は仕事をし、女性は家庭を守るべき』という考えについて、大別して『そう思う割合』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は、全体では13.8%となっている。

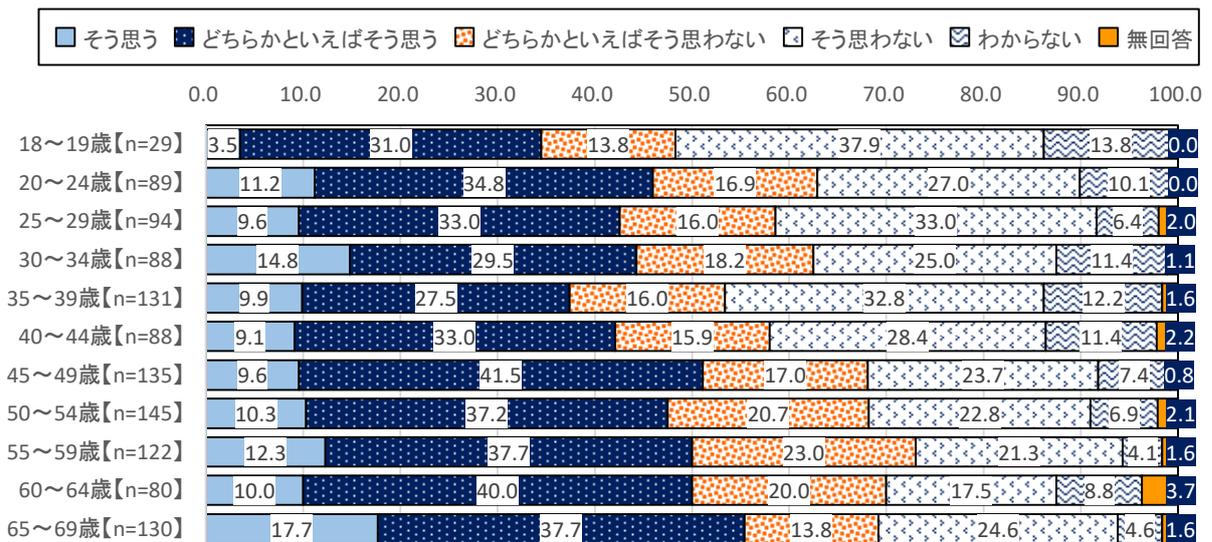
男女別に『そう思う割合』をみると、男性は17.6%、女性では11.1%となっている。

年齢別にみると、すべての世代で「そう思わない」の回答比率が半数以上を占めている。

⑧子どもが小さいうちは、母親は仕事をしないで、育児に専念したほうがよい



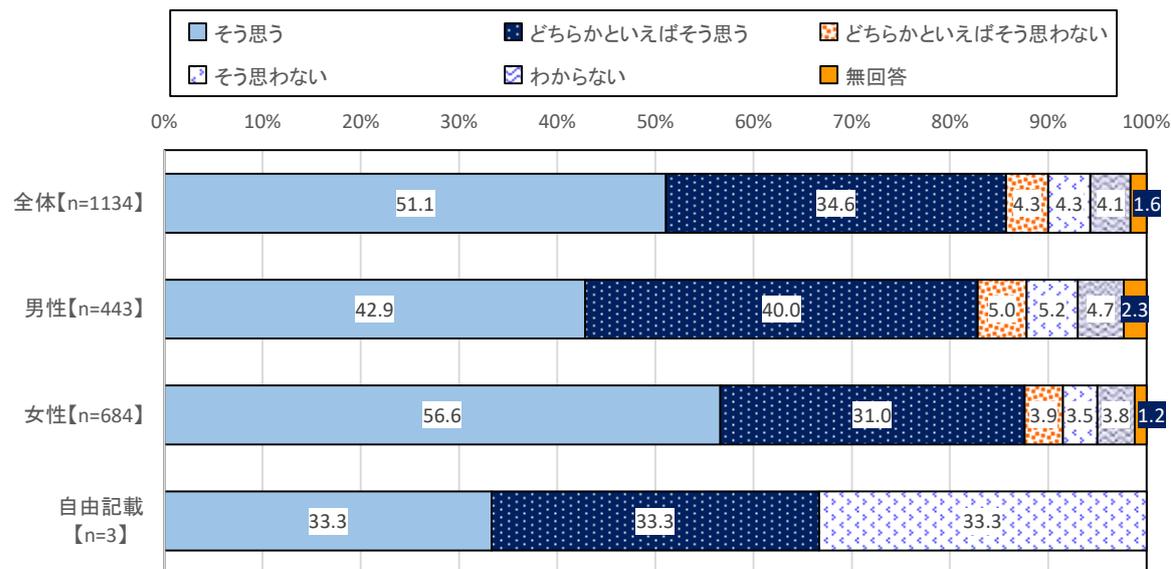
<年齢別>



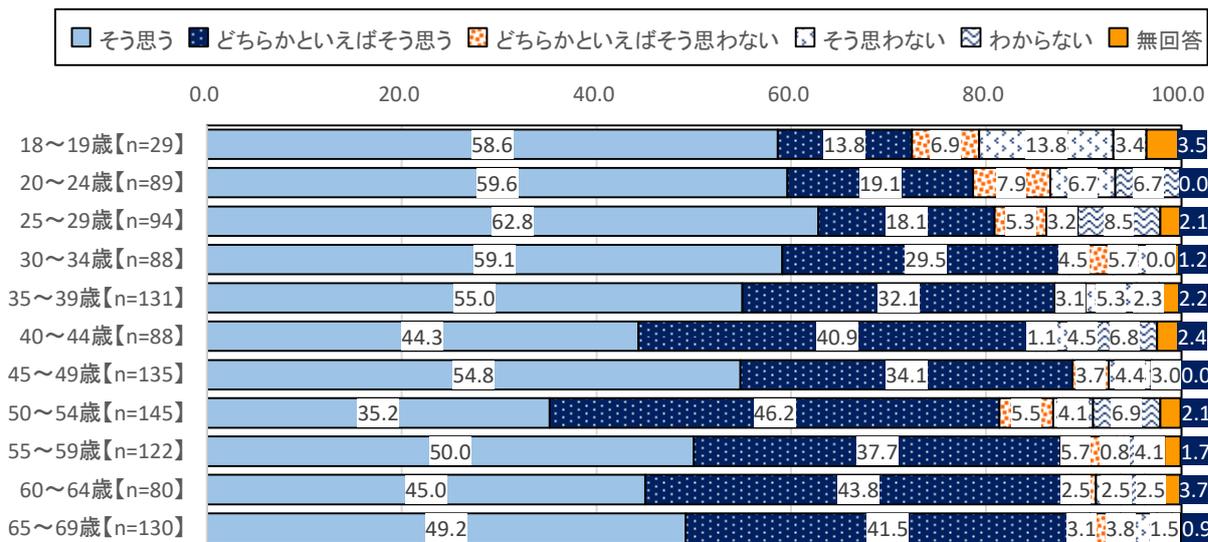
『⑧子どもが小さいうちは、母親は仕事をしないで、育児に専念したほうがよい』という考えについて、大別して『そう思う割合』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は、全体では46.7%となっている。

男女別に『そう思う割合』をみると、男性は53.0%、女性では42.7%となっている。年齢別にみると、若い世代ほど「そう思わない」の回答比率が高い傾向にある。

◎家事や育児、介護は男女で分担したほうがよい



<年齢別>

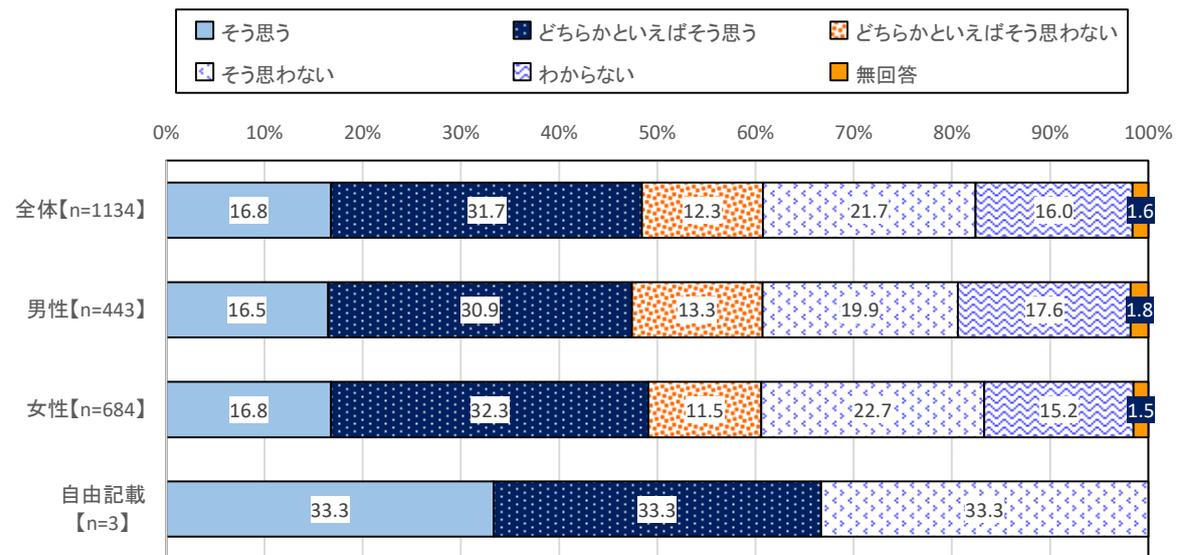


『◎家事や育児、介護は男女で分担したほうがよい』という考えについて、大別して『そう思う割合』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は、全体では85.7%となっている。

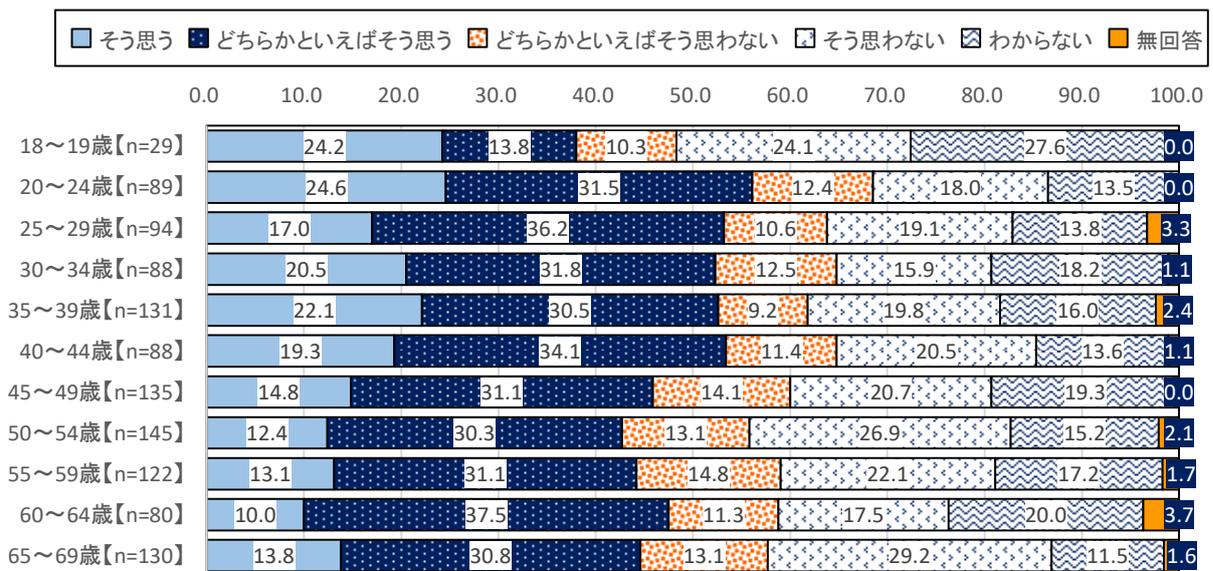
男女別に『そう思う割合』をみると、男性は82.9%、女性では87.6%となっている。

年齢別にみると、若い世代ほど「そう思う」の回答比率が高い傾向にある。

⑩話し合いを経たうえで、最終的に子どもの数や出産間隔を決めるのは女性である



<年齢別>



『⑩話し合いを経たうえで、最終的に子どもの数や出産間隔を決めるのは女性である』という考えについて、大別して『そう思う割合』（「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計）は、全体では48.5%となっている。

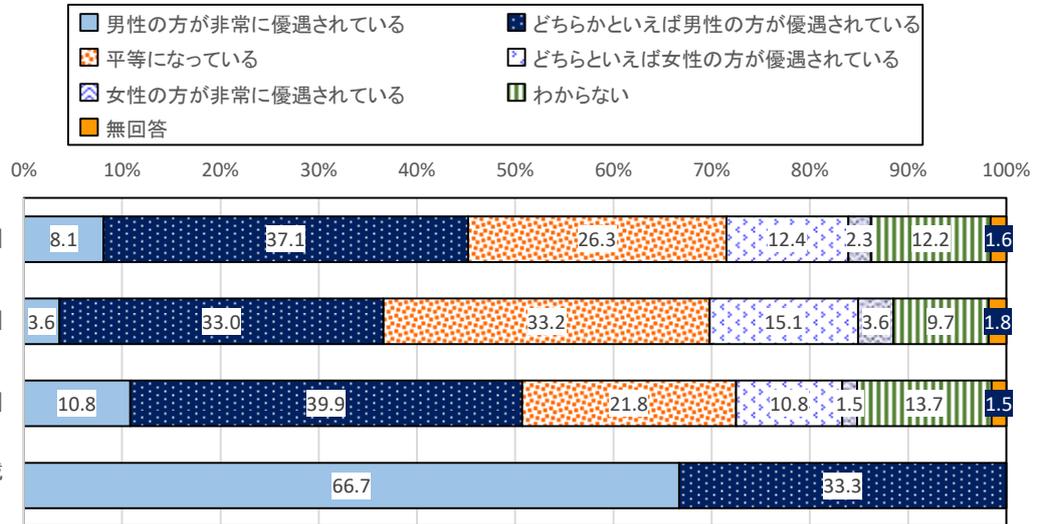
男女別に『そう思う割合』をみると、男性は47.4%、女性では49.1%となっている。

年齢別にみると、若い世代では「そう思う」と「そう思わない」の回答割合が近いが、世代が上がるにつれて「そう思わない」の回答割合が高くなっている。

(2) 男女の地位に対する意識

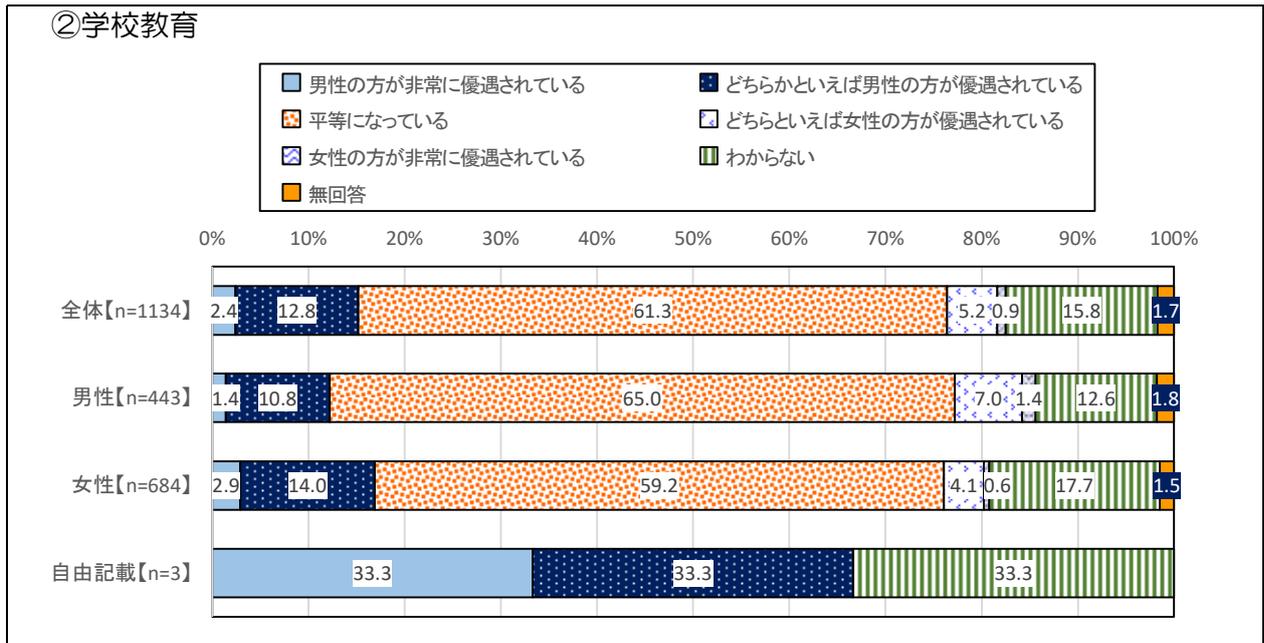
問 10 次にあげる分野において、男女の地位はどのようになっていると思いますか。(①～④)についてそれぞれ該当する「1～6」に○を1つ)

①家庭生活



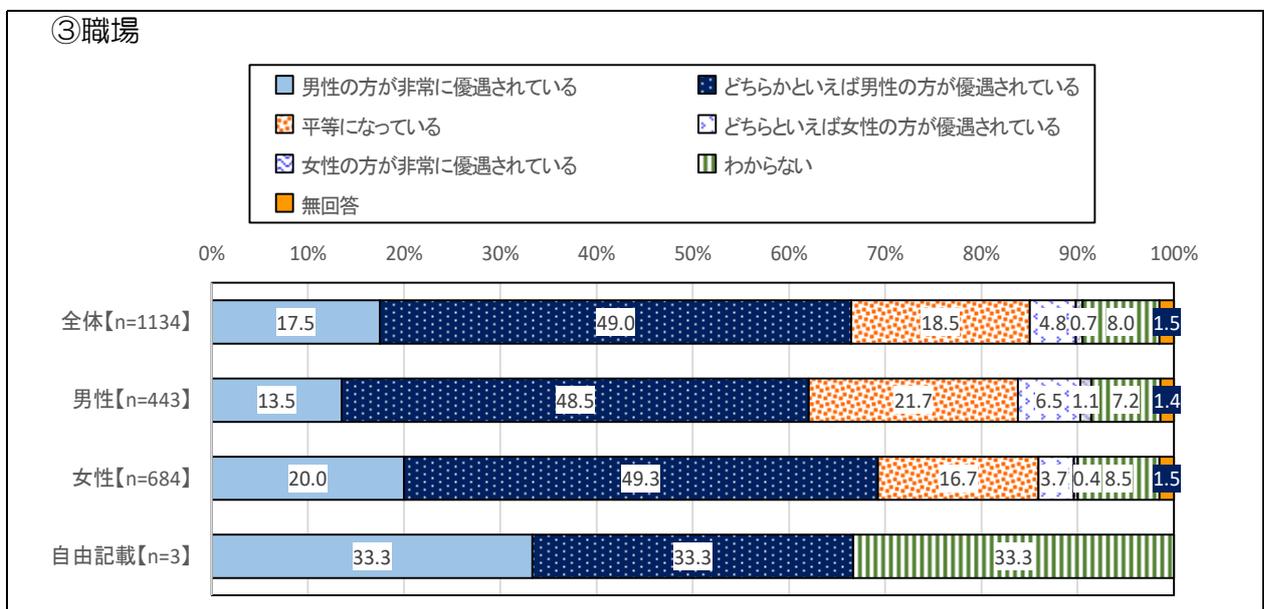
『①家庭生活』における男女の地位に対する意識について、全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(37.1%)が最も多く、次いで、「平等になっている」(26.3%)、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」(12.4%)、「男性の方が非常に優遇されている」(8.1%)、「女性の方が非常に優遇されている」(2.3%)となっている。一方、12.2%は「わからない」と回答している。

男女別にみると、男性では「平等になっている」(33.2%)が僅差で「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(33.0%)を上回った。女性では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(39.9%)が最も多くなっている。



『②学校教育』における男女の地位に対する意識について、全体では「平等になっている」(61.3%)が半数を占めている。次いで、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(12.8%)、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」(5.2%)、「男性の方が非常に優遇されている」(2.4%)、「女性の方が非常に優遇されている」(0.9%)となっている。一方、15.8%は「わからない」と回答している。

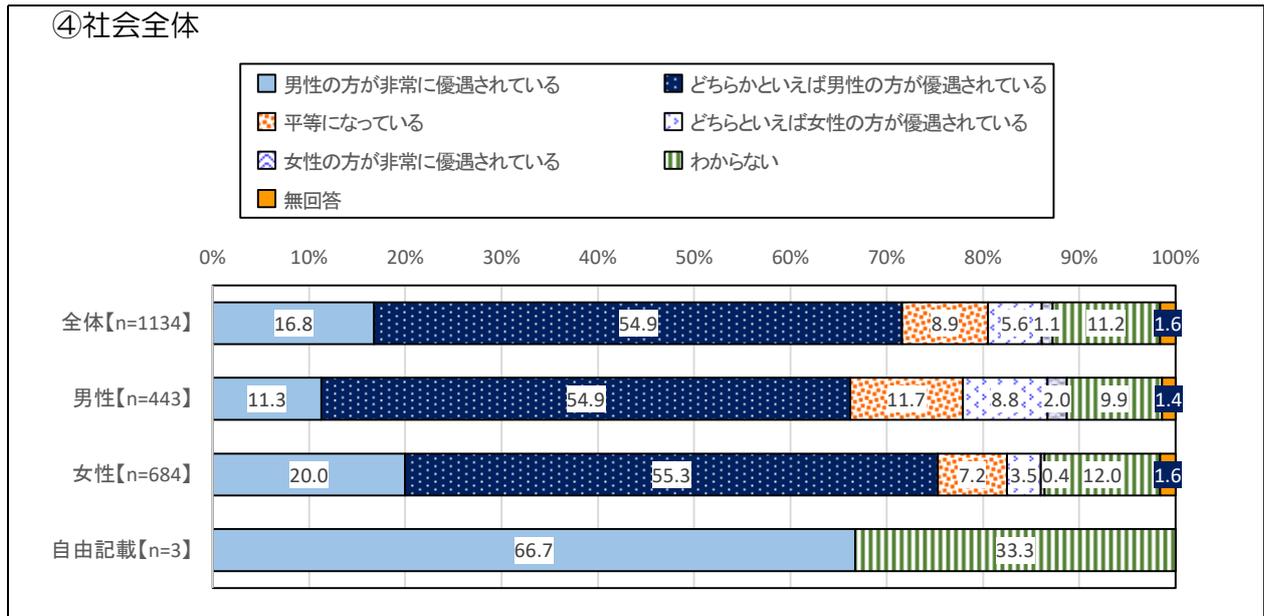
男女別にみると、男性、女性ともに「平等になっている」が最も多くなっている。



『③職場』における男女の地位に対する意識について、全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」(49.0%)が最も多くなっており、次いで、「平等になっている」(18.5%)、「男性の方が非常に優遇されている」(17.5%)、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」(4.8%)、「女性の方が非常に優遇されている」(0.7%)の順となっている。一方、8.0%は「わからない」と回答している。

男女別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最

も多くなっている。



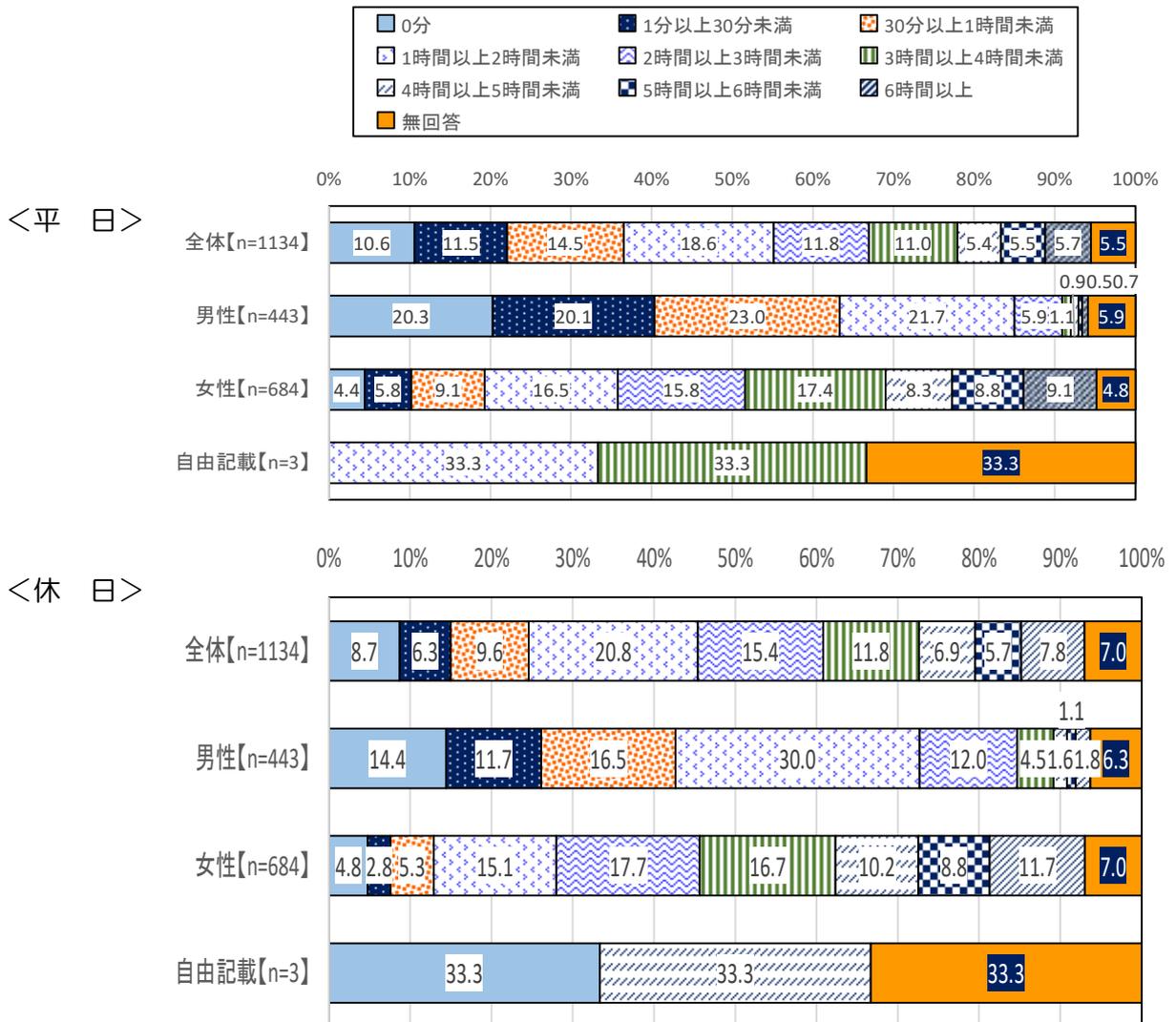
『④社会全体』における男女の地位に対する意識について、全体では「どちらかといえば男性の方が優遇されている」（54.9%）が半数を占めている。次いで、「男性の方が非常に優遇されている」（16.8%）、「平等になっている」（8.9%）、「どちらかといえば女性の方が優遇されている」（5.6%）、「女性の方が非常に優遇されている」（1.1%）の順となっている。一方、11.2%は「わからない」と回答している。

男女別にみると、男性、女性ともに「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が最も多くなっているが、次点では、男性は「平等になっている」（11.7%）が僅差で「男性の方が非常に優遇されている」（11.3%）を上回ったが、女性は「男性の方が非常に優遇されている」（20.0%）となっている。

(3) 家事に費やしている時間

問 11 次にあげる①～③について、あなたはどれくらい時間をかけていますか。平日（月曜日～金曜日）、休日（土曜日、日曜日、祝日）それぞれの1日あたり平均時間をご記入ください。

①家事



平日に家事に費やす時間は、全体では「1時間以上2時間未満」（18.6%）が最も多く、男性では「30分以上1時間未満」（23.0%）、女性では「3時間以上4時間未満」（17.4%）が最も多い。

休日に家事に費やす時間は、全体では「1時間以上2時間未満」（20.8%）が最も多く、男性では「1時間以上2時間未満」（30.0%）、女性では「2時間以上3時間未満」（17.7%）が最も多い。

●家事に費やす平均時間（1日あたり）

<男女別>

	平日	休日
全体【n=1077】	115.4分（1.9時間）	136.8分（2.3時間）
男性【n=421】	42.4分（0.7時間）	67.6分（1.1時間）
女性【n=652】	162.8分（2.7時間）	181.8分（3.0時間）
自由記載【n=2】	120.0分（2.0時間）	120.0分（2.0時間）

※時間数の無回答は除いて算出。

なお、性別未回答者がいるため、男性と女性の合計人数は全体人数とはならない。（下表も同じ）

家事に費やす1日あたりの平均時間は、全体では、平日が115.4分（1.9時間）、休日が136.8分（2.3時間）となっている。

男女別にみると、平日／休日のいずれについても、女性のほうが男性よりも家事に費やす時間は長くなっている。

▶既婚未婚別

《未婚者（離婚・死別を含む）》

	平日	休日
全体【n=420】	60.8分（1.0時間）	80.5分（1.3時間）
男性【n=184】	39.3分（0.7時間）	51.1分（0.9時間）
女性【n=235】	77.6分（1.3時間）	103.4分（1.7時間）
自由記載【n=1】	60.0分（1.0時間）	0.0分（0.0時間）

《既婚者（事実婚を含む）》

	平日	休日
全体【n=646】	152.0分（2.5時間）	174.8分（2.9時間）
男性【n=231】	44.7分（0.7時間）	81.2分（1.4時間）
女性【n=414】	211.9分（3.5時間）	226.9分（3.8時間）
自由記載【n=1】	180.0分（3.0時間）	240.0分（4.0時間）

平日／休日のいずれにおいても、男性、女性ともに「既婚者（事実婚を含む）」のほうが家事に費やす時間は長く、中でも女性はその傾向が顕著となっている。

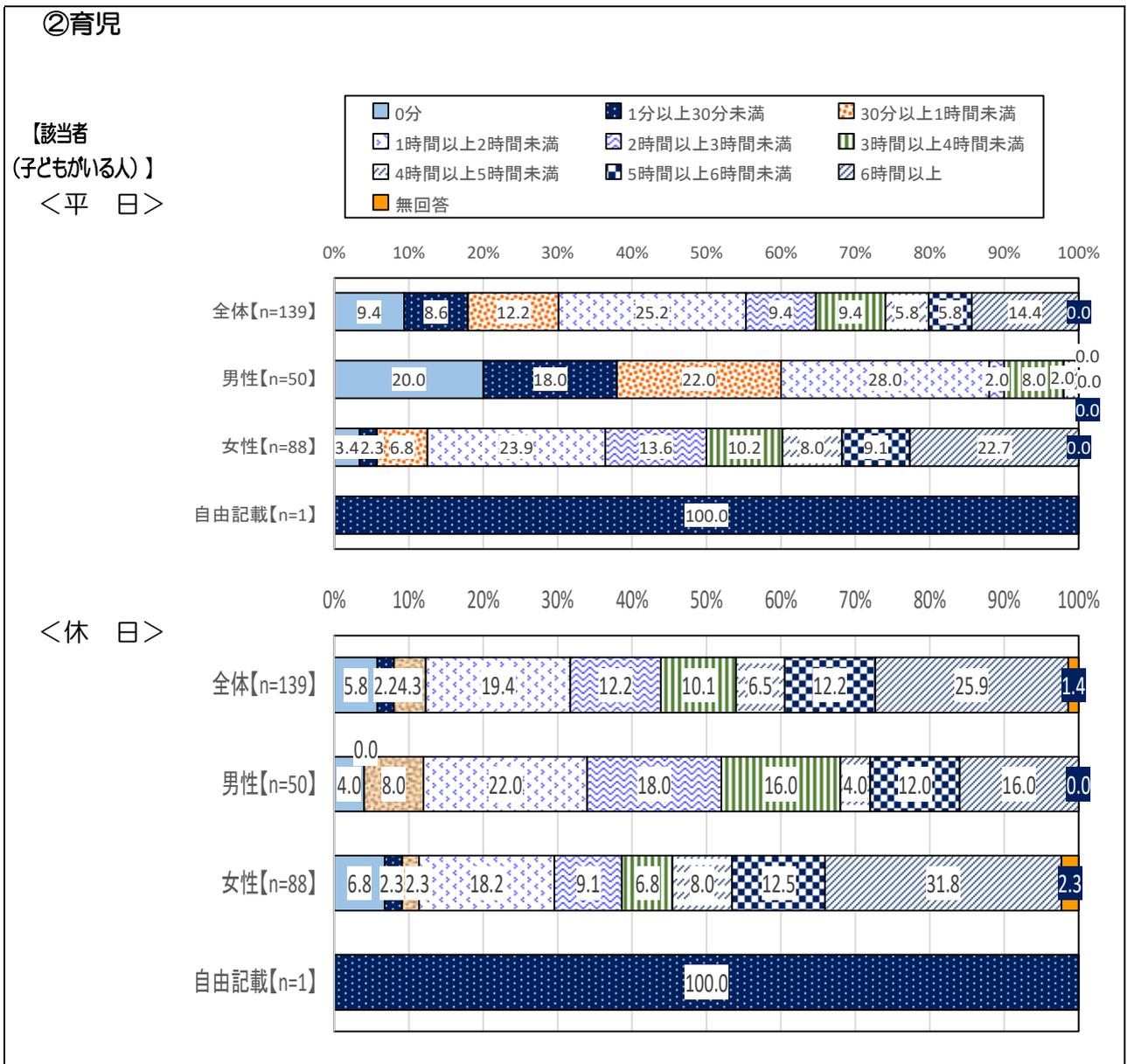
<年代別>

	平 日	休 日
18～19 歳 【n=26】	39.8 分 (0.7 時間)	47.3 分 (0.8 時間)
20～24 歳 【n=87】	36.6 分 (0.6 時間)	41.0 分 (0.7 時間)
25～29 歳 【n=89】	76.0 分 (1.3 時間)	100.9 分 (1.7 時間)
30～34 歳 【n=85】	91.5 分 (1.5 時間)	118.6 分 (2.0 時間)
35 ～ 39 歳 【n=125】	129.0 分 (2.2 時間)	145.5 分 (2.4 時間)
40～44 歳 【n=85】	151.7 分 (2.5 時間)	171.0 分 (2.9 時間)
45 ～ 49 歳 【n=131】	120.7 分 (2.0 時間)	149.8 分 (2.4 時間)
50 ～ 54 歳 【n=135】	131.7 分 (2.2 時間)	169.9 分 (2.8 時間)
55～59 歳 【n=117】	132.9 分 (2.2 時間)	163.2 分 (2.7 時間)
60～64 歳 【n=73】	147.5 分 (2.5 時間)	176.0 分 (2.9 時間)
65 ～ 69 歳 【n=121】	134.7 分 (2.2 時間)	133.7 分 (2.2 時間)

※時間数の無回答は除いて算出。

年代別にみると、年代階層が上がるにつれて家事に費やす時間は長くなっている。

(4) 育児に費やしている時間



育児に該当する子どもがいる割合は、全体では12.3%、男性では11.3%、女性では12.9%となっている。

平日に育児に費やす時間は、全体では「1時間以上2時間未満」(25.2%)が最も多くなっている。男女別でも男性、女性のいずれも「1時間以上2時間未満」が最も多くなっている。次点は、男性が「30分以上1時間未満」(22.0%)であるのに対し、女性は「6時間以上」(22.7%)となっている。

休日に育児に費やす時間は、全体では「6時間以上」(25.9%)が最も多い。男女別では、男性は「1時間以上2時間未満」(22.0%)、女性では「6時間以上」(31.8%)が最も多い。

●育児に費やす平均時間（1日あたり）

<男女別>

	平 日	休 日
全体【n=139】	175.8分（2.9時間）	263.5分（4.4時間）
男性【n=50】	50.0分（0.8時間）	212.0分（3.5時間）
女性【n=88】	249.1分（4.2時間）	295.6分（4.9時間）
自由記載【n=1】	10.0分（0.2時間）	10.0分（0.2時間）

※時間数の無回答は除いて算出。

なお、性別未回答者がいるため、男性と女性の合計人数は全体人数とはならない。

育児に費やす1日あたりの平均時間は、全体では、平日が175.8分（2.9時間）、休日が263.5分（4.4時間）となっている。

男女別にみると、平日／休日のいずれについても、女性のほうが男性よりも育児に費やす時間は長くなっている。

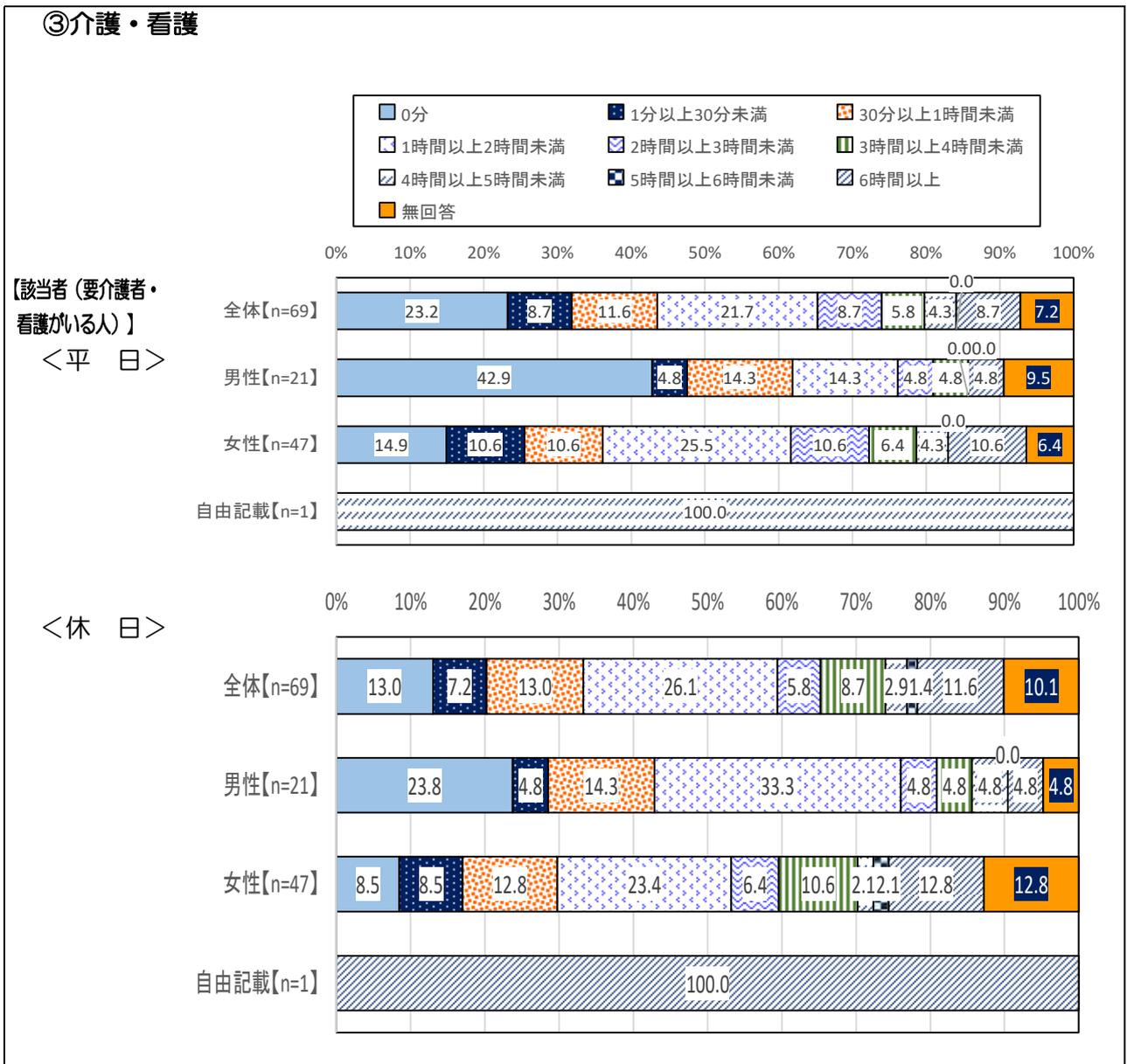
<年代別>

	平 日	休 日
18～19歳【n=1】	150.0分（2.5時間）	150.0分（2.5時間）
20～24歳【n=0】	—	—
25～29歳【n=10】	407.0分（6.8時間）	573.2分（9.6時間）
30～34歳【n=18】	261.3分（4.4時間）	351.3分（5.9時間）
35～39歳【n=45】	214.3分（3.6時間）	271.6分（4.5時間）
40～44歳【n=28】	117.9分（2.0時間）	218.6分（3.6時間）
45～49歳【n=23】	71.5分（1.2時間）	201.7分（3.4時間）
50～54歳【n=12】	64.2分（1.1時間）	112.5分（1.9時間）
55～59歳【n=1】	90.0分（1.5時間）	90.0分（1.5時間）
60～64歳【n=1】	60.0分（1.0時間）	0.0分（0.0時間）
65～69歳【n=0】	—	—

※時間数の無回答は除いて算出。

年代別にみると、平日／休日ともに「25～29歳」において、育児に費やす時間は最も長くなっている。

(5) 介護・看護に費やしている時間



介護・看護に該当する家族がいる割合は、全体では6.1%、男性では4.7%、女性では6.9%となっている。

平日に介護・看護に費やす時間は、全体では「0分」(23.2%)が最も多い。男女別で見ると、男性は「0分」(42.9%)、女性では「1時間以上2時間未満」(25.5%)が最も多い。

休日に介護・看護に費やす時間は、全体では「1時間以上2時間未満」(26.1%)が最も多い。男女別では、男性、女性いずれも「1時間以上2時間未満」が最も多い。

●介護・看護に費やす平均時間（1日あたり）

<男女別>

	平日	休日
全体【n=67】	108.9分（1.8時間）	146.6分（2.4時間）
男性【n=20】	49.5分（0.8時間）	74.5分（1.2時間）
女性【n=46】	131.8分（2.2時間）	173.2分（2.9時間）
自由記載【n=1】	240.0分（4.0時間）	360.0分（6.0時間）

※時間数の無回答は除いて算出。

なお、性別未回答者がいるため、男性と女性の合計人数は全体人数とはならない。

介護・看護に費やす1日あたりの平均時間は、全体では、平日が108.9分（1.8時間）、休日が146.6分（2.4時間）となっている。

男女別にみると、平日／休日のいずれにおいても、女性のほうが男性よりも介護・看護に費やす時間は長くなっている。

<年代別>

	平日	休日
18～19歳【n=1】	0.0分（0.0時間）	0.0分（0.0時間）
20～24歳【n=1】	10.0分（0.2時間）	10.0分（0.2時間）
25～29歳【n=7】	33.6分（0.6時間）	44.3分（0.7時間）
30～34歳【n=1】	240.0分（4.0時間）	360.0分（6.0時間）
35～39歳【n=2】	60.0分（1.0時間）	90.0分（1.5時間）
40～44歳【n=7】	32.9分（0.5時間）	34.3分（0.6時間）
45～49歳【n=7】	98.6分（1.6時間）	62.7分（1.0時間）
50～54歳【n=11】	90.0分（1.5時間）	125.5分（2.1時間）
55～59歳【n=13】	98.4分（1.6時間）	135.4分（2.3時間）
60～64歳【n=8】	252.5分（4.2時間）	297.5分（5.0時間）
65～69歳【n=9】	168.9分（2.8時間）	306.7分（5.1時間）

※時間数の無回答は除いて算出。

年代別にみると、年齢階層が上がるにつれて、介護・看護に費やす時間も長くなっている。

3 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

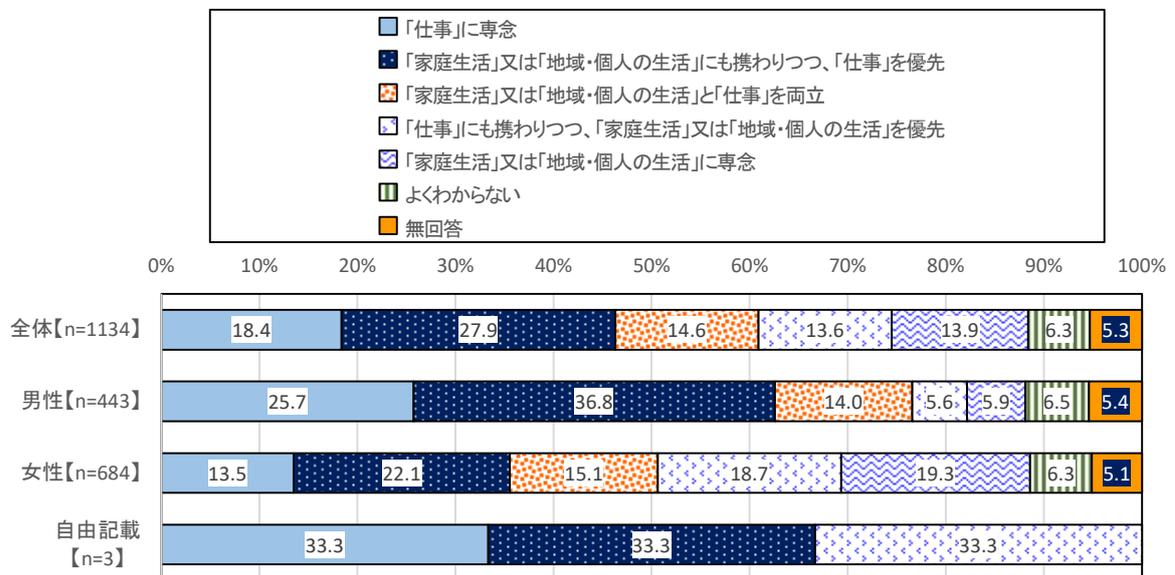
(1) ワーク・ライフ・バランスの理想と現実

問 12 あなたの「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」※の状況について、現実（現状）に最も近いもの、理想（希望）に最も近いものを選んでください。（現在、仕事をしていない方は今後のお考えをお答えください）（理想と現実それぞれに番号を1つだけ記入）

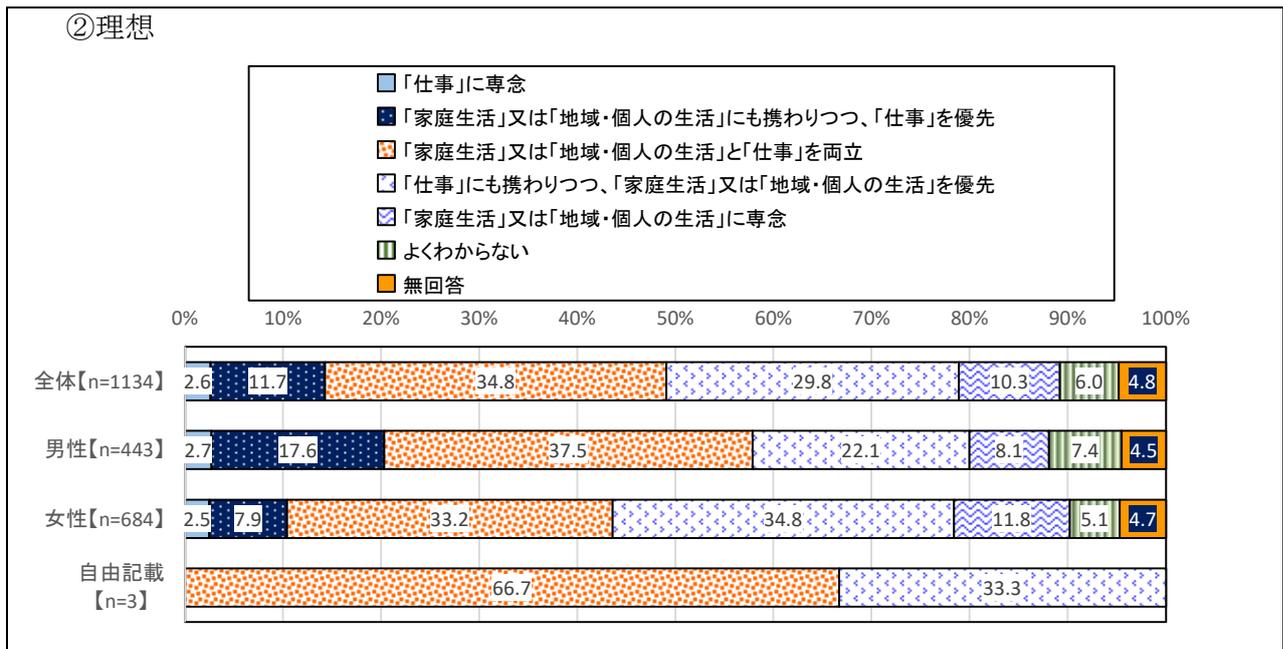
※用語の意味

- ・「仕事」 …自営業主（農林漁業を含む）、家族従業、雇用者として週1時間以上働いていること。常勤、パート、アルバイトなどを問いません。
- ・「家庭生活」 …家族と過ごすこと、家事、育児、介護・看護など。
- ・「地域・個人の生活」 …地域活動（ボランティア活動、交際・つきあいなど）、学習・研究（学業も含む）、趣味・娯楽、スポーツなど。

①現実



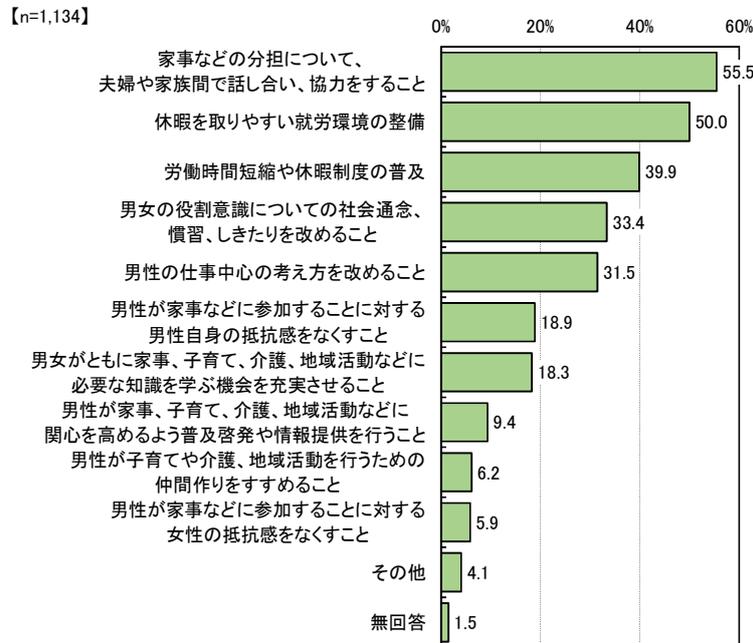
「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」について、①現実としては「『家庭生活』又は『地域・個人の生活』にも携わりつつ、『仕事』を優先」（27.9%）が最も多く、男女別にみても、男性、女性いずれも「『家庭生活』又は『地域・個人の生活』にも携わりつつ、『仕事』を優先」が最も多くなっている。



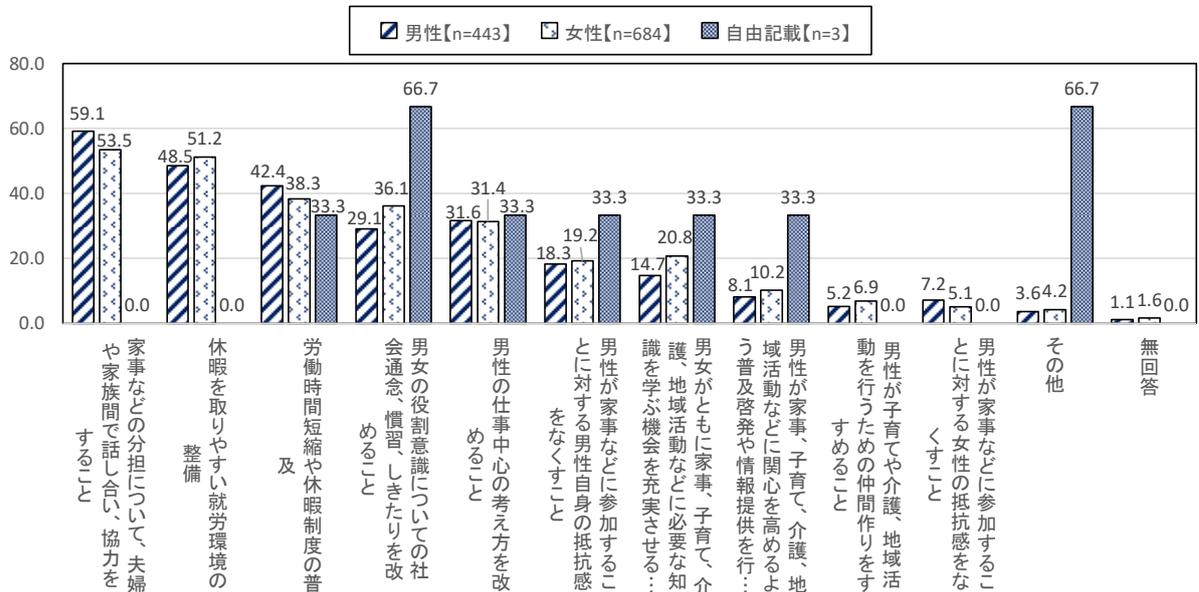
②理想としては、「『家庭生活』又は『地域・個人の生活』と『仕事』を両立」(34.8%)が最も多い。男女別にみると、男性は「『家庭生活』又は『地域・個人の生活』と『仕事』を両立」が、女性は「『仕事』にも携わりつつ、『家庭生活』は『地域・個人の生活』を優先」が最も多くなっている。

(2) 男女がともに家事・育児・介護・地域活動等に参加していくために必要なこと

問 13 2020年版『内閣府男女共同参画白書』では、夫婦共働き世帯が増えているにもかかわらず、家事・子育てにあてる時間が女性は男性の2倍を超えていると報告しています。男女がともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)



<男女別>



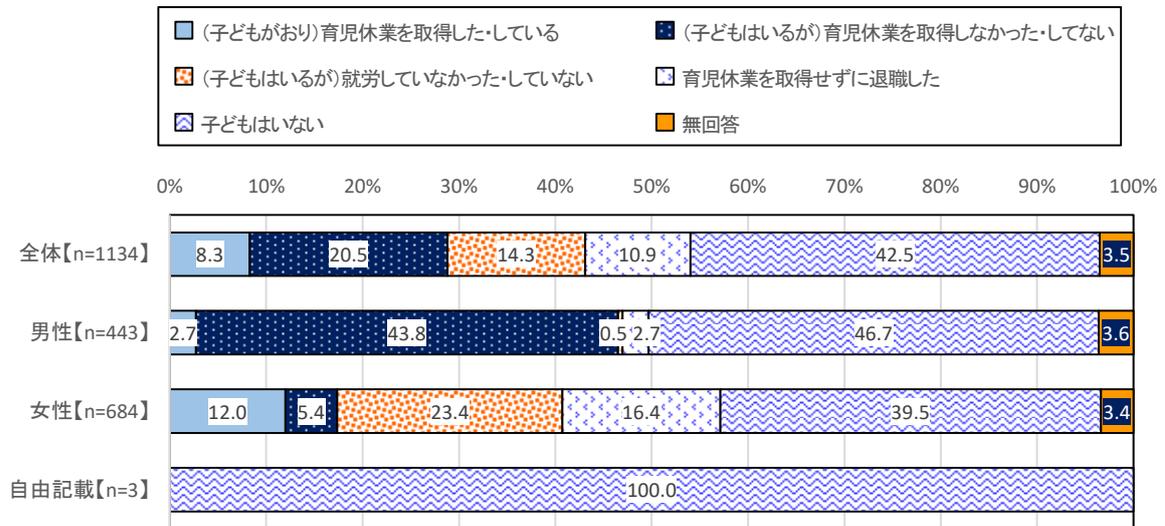
男性と女性がともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくために必要なことを尋ねたところ、「家事などの分担について、夫婦や家族間で話し合い、協力すること」(55.5%)、「休暇を取りやすい就労環境の整備」(50.0%)が特に多く挙げられている。

男女別にみると、男性、女性いずれも「家事などの分担について、夫婦や家族間で話し合い、協力すること」が1位、「休暇を取りやすい就労環境の整備」が2位、「労働時間短縮や休暇制度の普及」が3位となるなど、就労環境・制度に関するテーマが上位に挙げられ

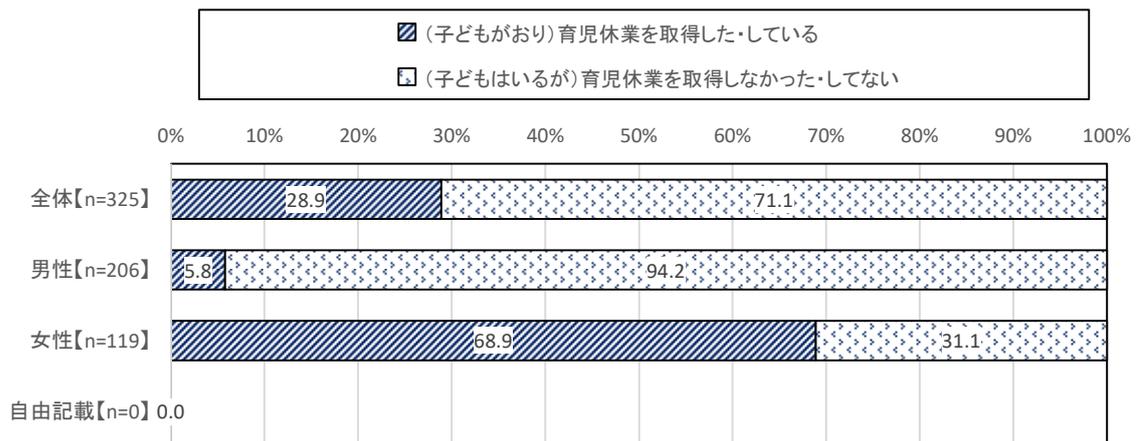
ている。

(3) 育児休業取得の有無

問 14 子どもが生まれた時、あなたは育児休業を取得しましたか。(○は1つ)



<子どもがいて就労している人のみの回答(無回答も除く)>



子どもが生まれた時に育児休業を取得したか尋ねたところ、「(子どもがおり)育児休業を取得した・している」が8.3%となっている。

男女別にみると、「(子どもがおり)育児休業を取得した・している」の回答割合は、男性が2.7%、女性では12.0%となっている。

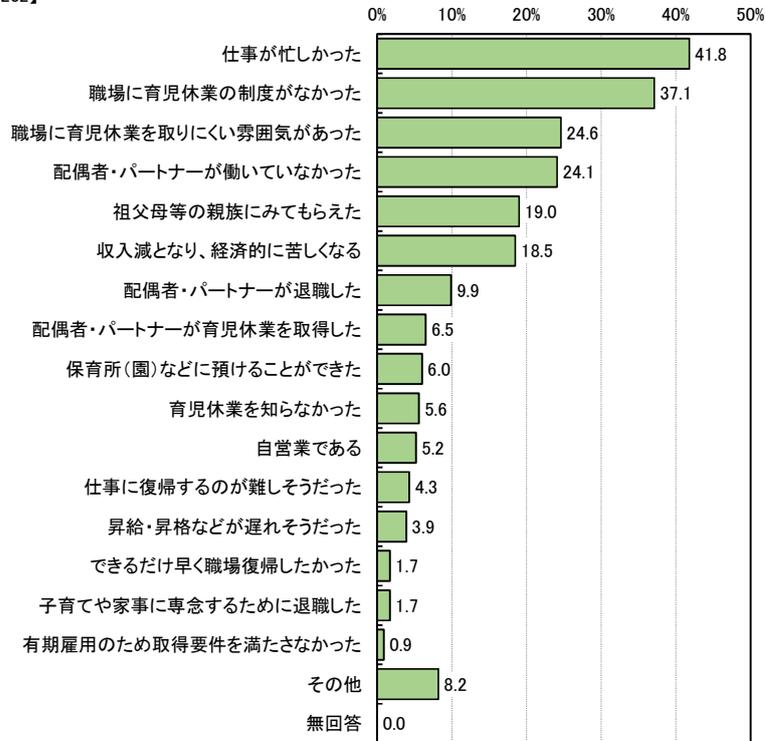
なお、「子どもがいて就労している(いた)人」に限ると、育児休業の取得割合は、全体では28.9%、男性では5.8%、女性では68.9%となる。

(4) 育児休業を取得しなかった理由

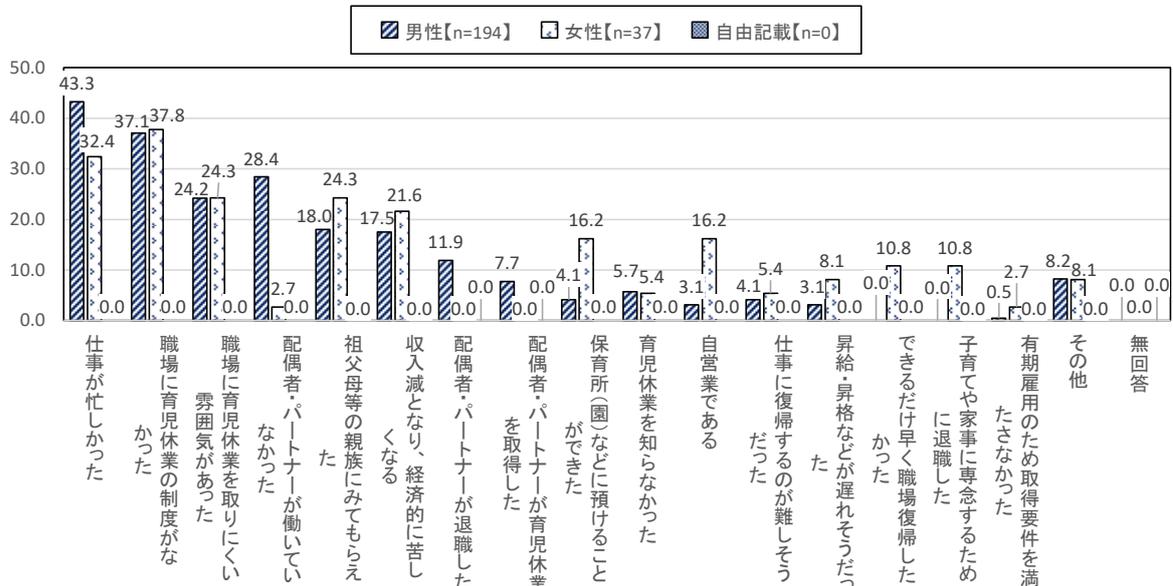
問 14-1 問 14 で「2. (子どもはいるが) 育児休業を取得しなかった・してない」とお答えいただいた方にうかがいます。

育児休業を取得しなかった、取得していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

【n=232】



<男女別>

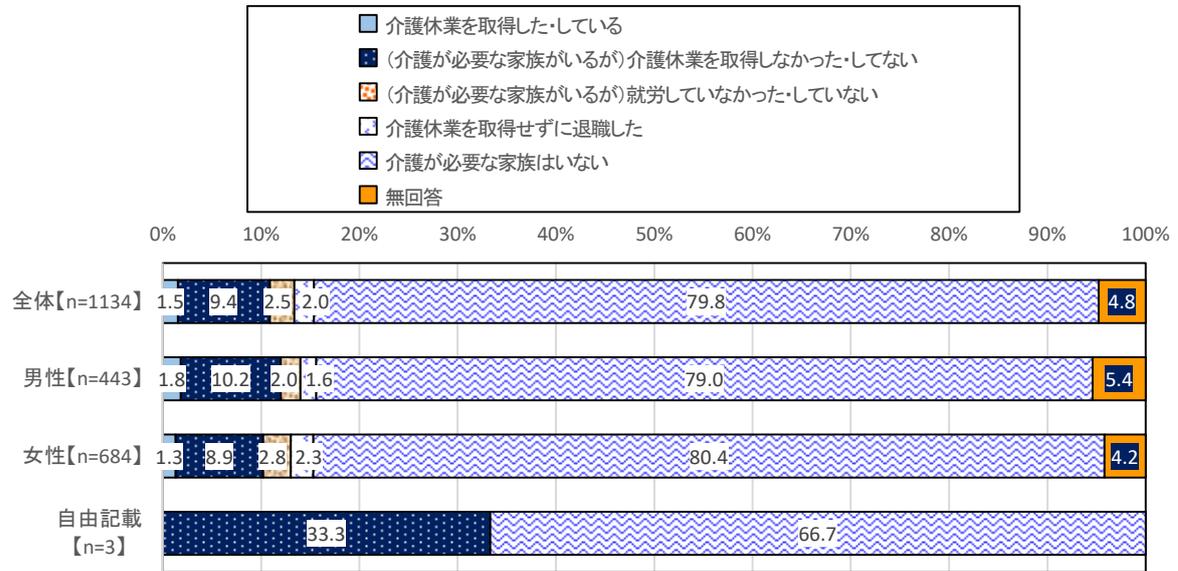


子どもはいるが育児休業を取得しなかった・していないと回答した人に、その理由を尋ねたところ、「仕事が多忙だった」(41.8%)、「職場に育児休業の制度がなかった」(37.1%)、「職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった」(24.6%)、「配偶者・パートナーが働いていなかった」(24.1%)などが比較的多く挙げられている。

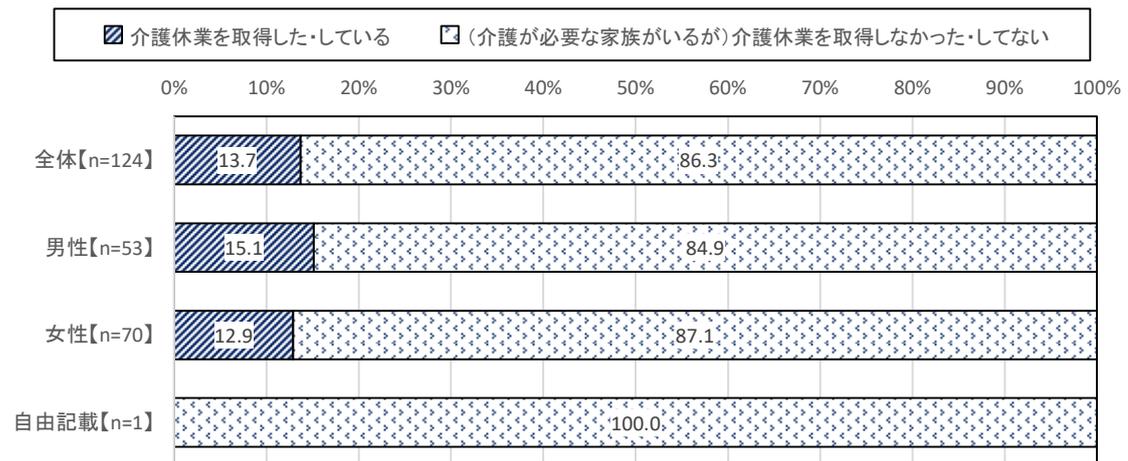
男女別にみると、男性では「仕事が多忙だった」、女性では「職場に育児休業の制度がなかった」が最も多いことをはじめ、男性と女性では取得しなかった理由が異なる。

(5) 介護休業取得の有無

問 15 あなたは介護休業を取得したことはありますか。(〇は1つ)



<介護が必要な家族はいるが就労している人のみの回答(無回答も除く)>



介護が必要な家族がいる・いた時に介護休業を取得したか尋ねたところ、「介護休業を取得した・している」が1.5%となっている。

男女別にみると、「介護休業を取得した・している」割合をみると、男性では1.8%、女性では1.3%となっている。

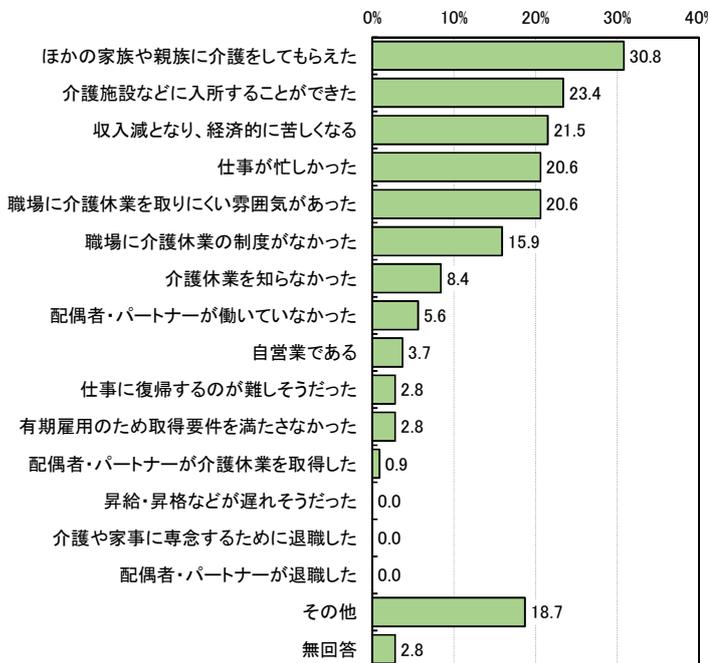
なお、「介護が必要な家族はいるが就労している(いた)人」に限ると、介護休業の取得割合は、全体では13.7%、男性では15.1%、女性では12.9%となる。

(6) 介護休業を取得しなかった理由

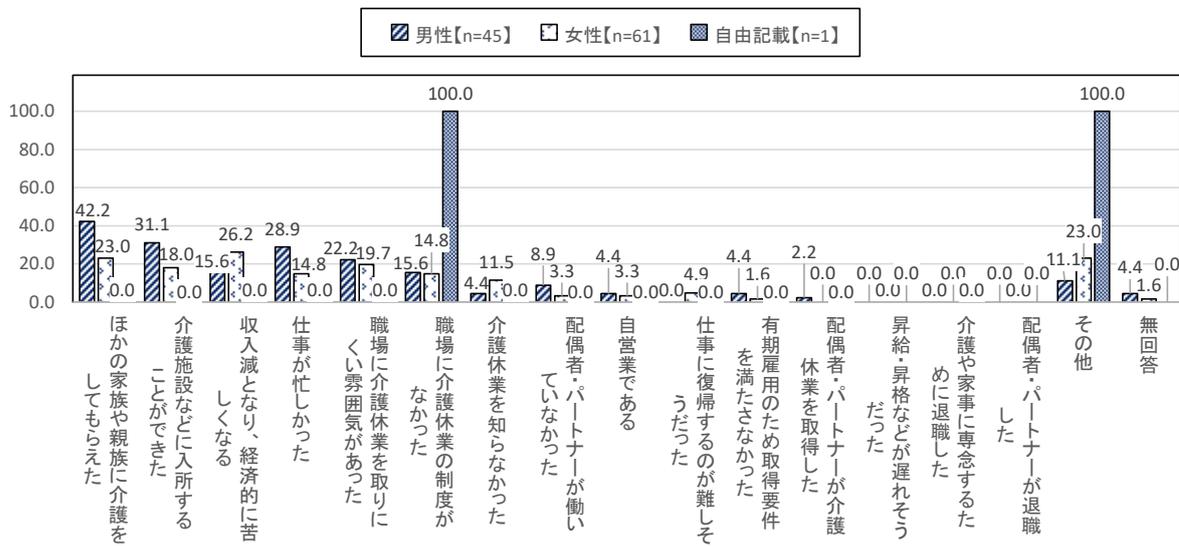
問 15-1 問 15 で「2. (介護が必要な家族がいるが) 介護休業を取得しなかった・していない」とお答えいただいた方にかがいます。

介護休業を取得しなかった、取得していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

【n=107】



<男女別>



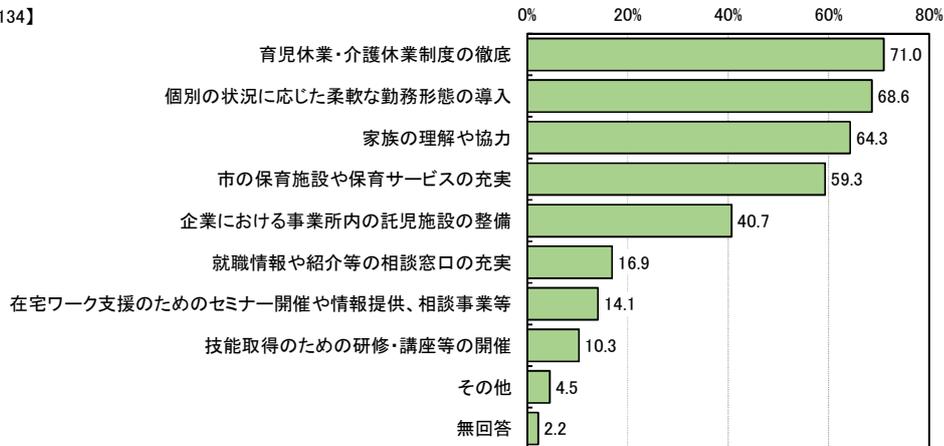
介護や看護が必要な家族がいるが介護休業を取得しなかった・していないと回答した人に、その理由を尋ねたところ、「ほかの家族や親族に介護をしてもらえた」(30.8%)、「介護施設などに入所することができた」(23.4%)、「収入減となり、経済的に苦しくなる」(21.5%)、「仕事が忙しかった」、「職場に介護休業を取りにくい雰囲気があった」(ともに20.6%)などが比較的多く挙げられている。

男女別にみると、男性では「ほかの家族や親族に介護をしてもらえた」、女性では「収入減となり、経済的に苦しくなる」が最も多いことをはじめ、男性と女性では取得しなかった理由が異なっている。

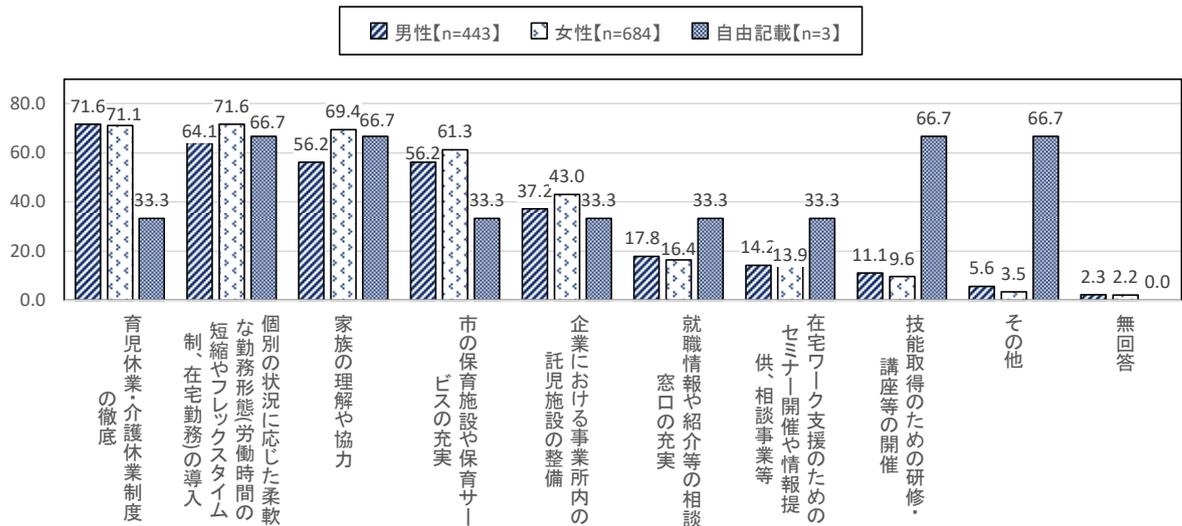
(7) 女性が結婚・妊娠・介護を続けながら働くために必要なこと

問 16 女性が結婚・出産や介護などを続けながら働くため、または再就職するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

【n=1,134】



<男女別>

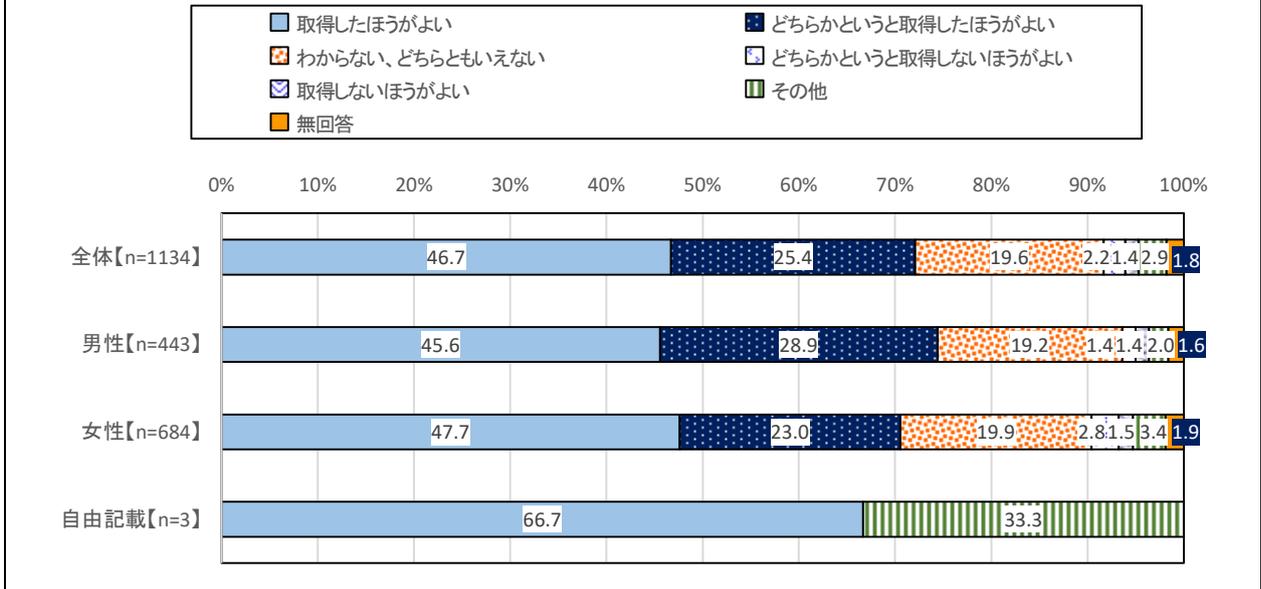


女性が結婚・出産や介護などを続けながら働く、または再就職するために必要なことを尋ねたところ、「育児休業・介護休業制度の徹底」(71.0%)、「個別の状況に応じた柔軟な勤務形態(労働時間の短縮やフレックスタイム制、在宅勤務)の導入」(68.6%)、「家族の理解や協力」(64.3%)、「市の保育施設や保育サービスの充実」(59.3%)などが比較的多く挙げられている。

男女別にみると、男性では「育児休業・介護休業制度の徹底」、女性では「個別の状況に応じた柔軟な勤務形態(労働時間の短縮やフレックスタイム制、在宅勤務)の導入」が最も多くなっている。

(8) 男性の育児休業・介護休業の取得について

問 17 育児休業や介護休業は男女ともに取得することができます。そのなかで、国は男性の育児休業取得を推進中で、2020年までに取得率を13%とする目標を掲げていますが、厚生労働省による2019年調査では7.48%とまだ取得が進んでいません。男性が育児休業や介護休業を取得することについてどう思いますか。(○は1つ)



男性が育児休業や介護休業を取得することについて、大別すると、『取得したほうがよい』（「取得したほうがよい」と「どちらかという取得したほうがよい」の合計）は、全体では72.1%となっている。『取得しないほうがよい』（「取得しないほうがよい」と「どちらかという取得しないほうがよい」の合計）は3.6%、「わからない、どちらともいえない」は19.6%となっている。

男女別に『取得したほうがよい』の回答割合をみると、男性では74.5%、女性では70.7%となっている。

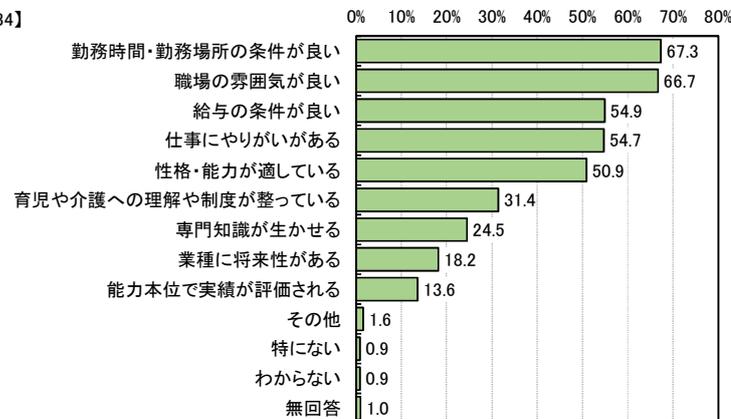
4 就業について

(1) 仕事を選ぶ際に重視すること

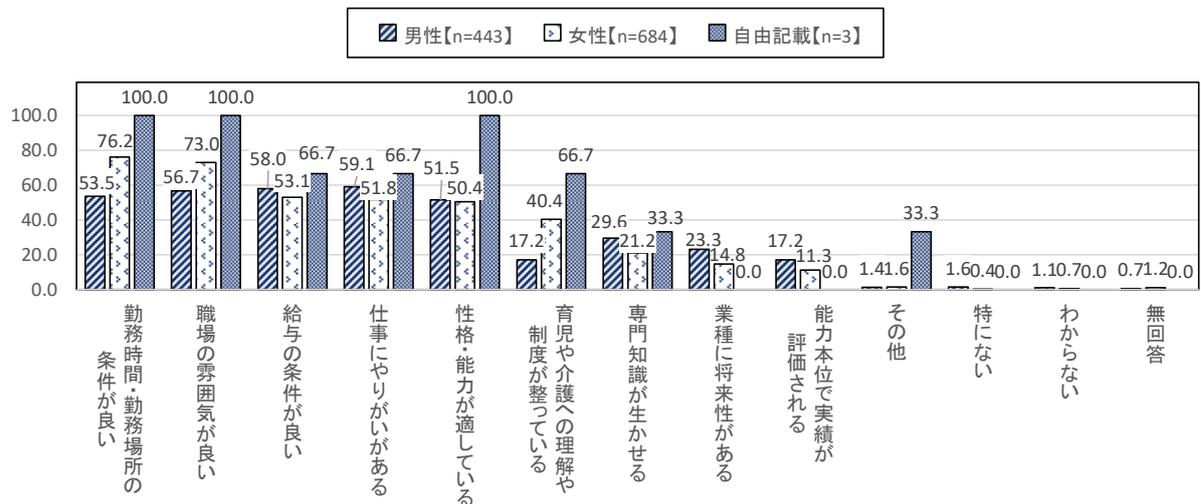
問 18 あなたが仕事を選ぶ際に、重視すること、またはしたいことは何ですか。

(○はいくつでも)

【n=1,134】



<男女別>

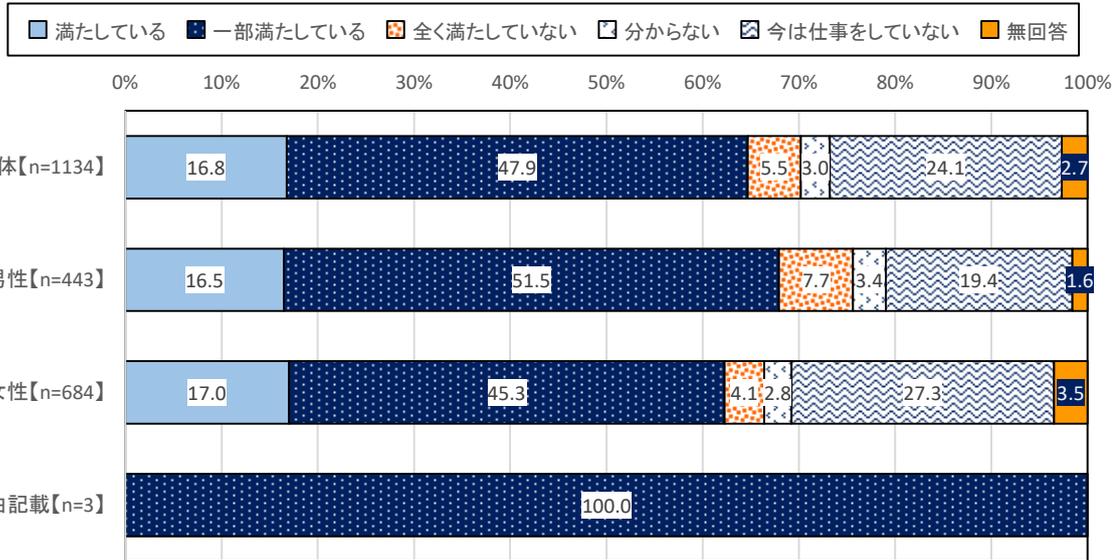


仕事を選ぶ際に重視すること・したいことを尋ねたところ、「勤務時間・勤務場所の条件が良い」（67.3%）、「職場の雰囲気が良い」（66.7%）、「給与の条件が良い」（54.9%）、「仕事にやりがいがある」（54.7%）、「性格・能力が適している」（50.9%）などが多く挙げられている。

男女別にみると、男性では「仕事にやりがいがある」、「給与の条件が良い」、女性では「勤務時間・勤務場所の条件が良い」、「職場の雰囲気が良い」が上位を占めており、男性と女性では仕事を選ぶ際に重視する点が異なる。

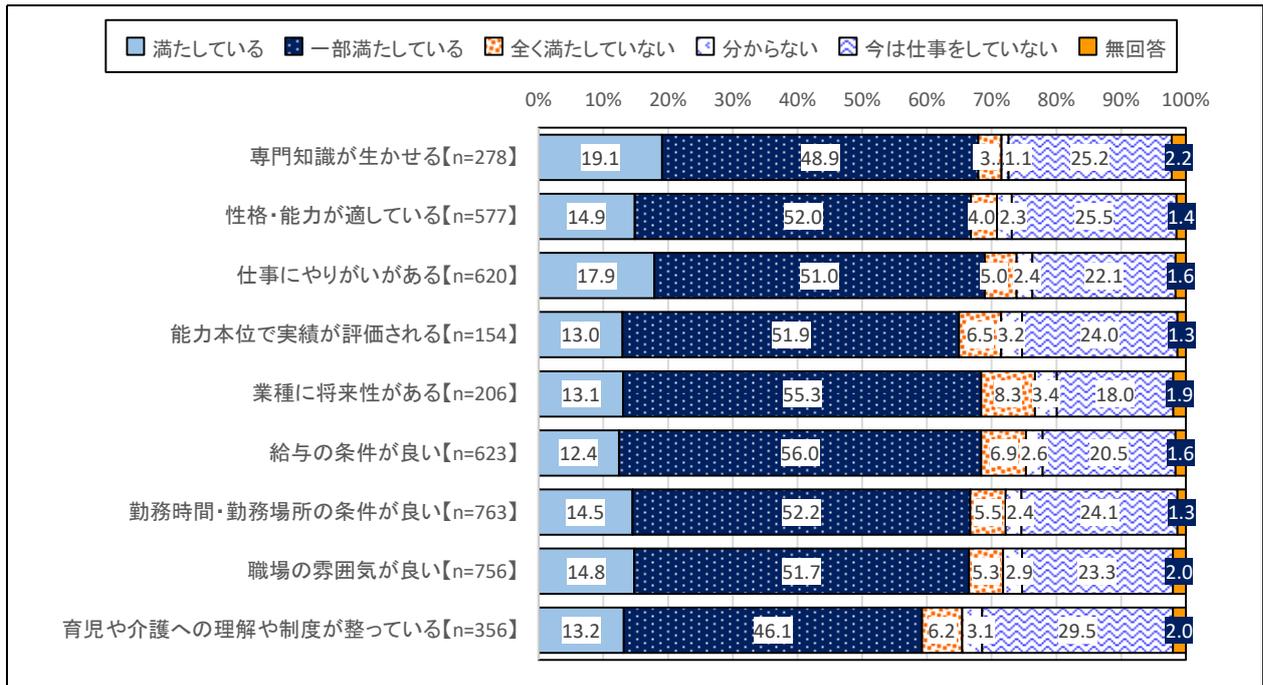
(2) 実際に就いている仕事は仕事選びの要件を満たしているか

問 19 現在、あなたが実際に就いている仕事は、問 18 で回答した仕事を選ぶ際の要件（重視すること、したいこと）を満たしていますか（○は1つ）



現在、あなたが実際に就いている仕事は、仕事を選ぶ際の要件（重視すること、したいこと）を満たしているか尋ねたところ、全体では「一部満たしている」（47.9%）が最も多く、以下、「満たしている」（16.8%）、「全く満たしていない」（5.5%）となっている。一方、3.0%は「わからない」、24.1%は「今は仕事をしていない」と回答している。男女別にみると、男性、女性いずれも、「一部満たしている」が最も多くなっている。

<仕事を選ぶ際に重視すること（問 19）別クロス集計>

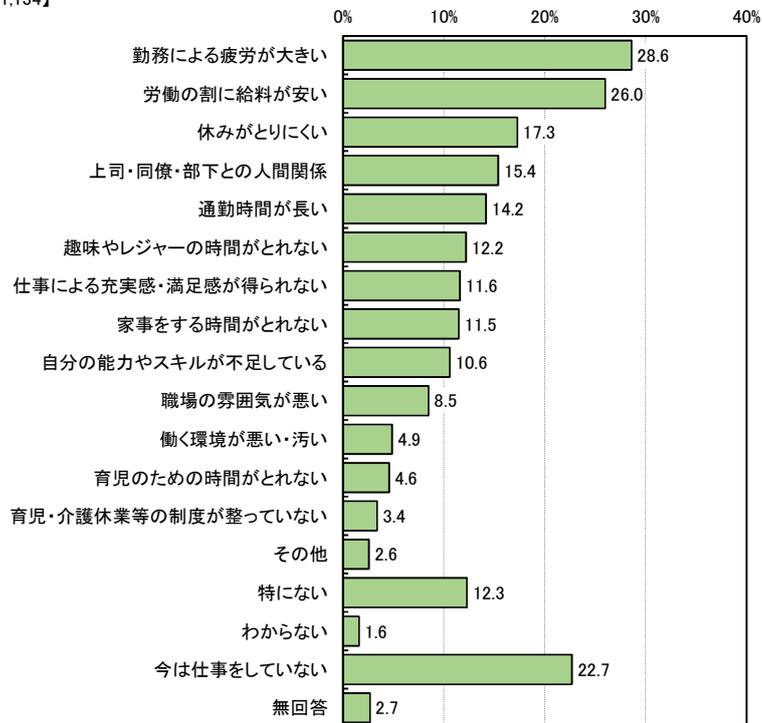


仕事を選ぶ際の要件別にみると、いずれの要件についても「一部満たしている」割合は40%以上を占めている。その中でも、「仕事にやりがいがある」、「専門知識が生かせる」については「満たしている」の回答割合が相対的に高くなっている。一方、「業種に将来性がある」については「全く満たしていない」の回答割合が相対的に高くなっている。

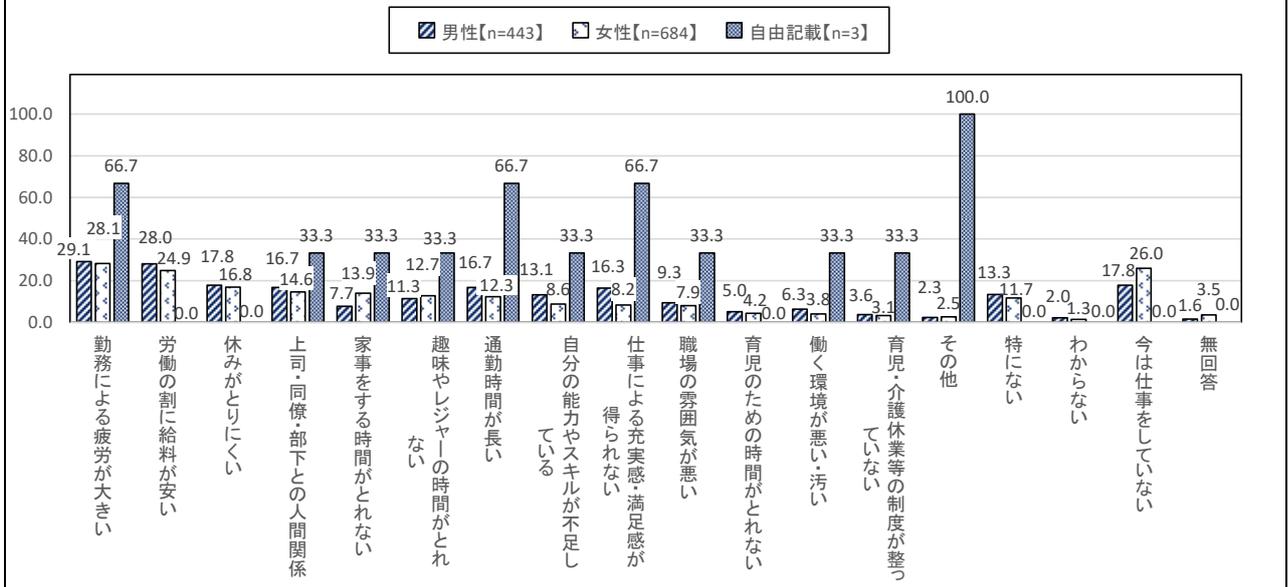
(3) 仕事をする上での問題

問 20 あなたにとって仕事をする中で困っていることや大変だと感じていることは何ですか。
(〇はいくつでも)

【n=1,134】



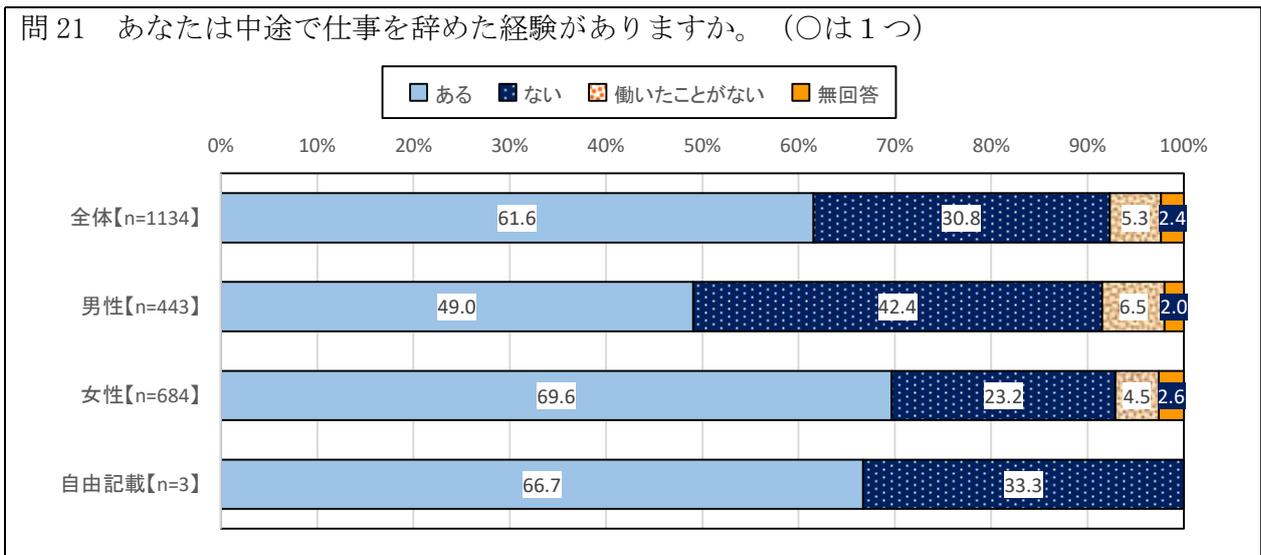
<男女別>



仕事をする中で、自分にとって問題と感じていることを尋ねたところ、「勤務による疲労が大きい」(28.6%)、「労働の割に給料が安い」(26.0%)が特に多く、以下、「休みがとりにくい」(17.3%)、「上司・同僚・部下との人間関係」(15.4%)、「通勤時間が長い」(14.2%)、「趣味やレジャーの時間がとれない」(12.2%)などの順となっている。

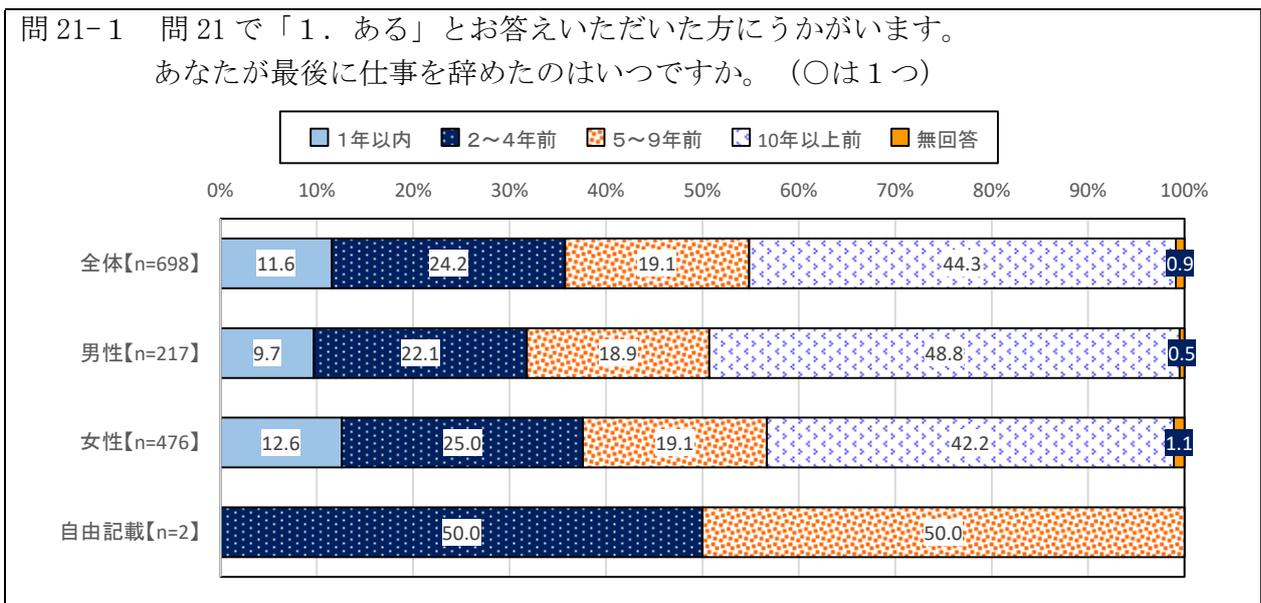
男女別にみると、男性、女性いずれも「勤務による疲労が大きい」が1位、「労働の割に給料が安い」が2位となっている。

(4) 仕事を辞めた経験の有無



仕事を途中で辞めた経験については、全体では61.6%が「ある」と回答している。男女別に「ある」の回答割合をみると、男性では49.0%、女性では69.6%となっている。

(5) 《仕事を辞めた経験がある人》仕事を辞めた時期と理由

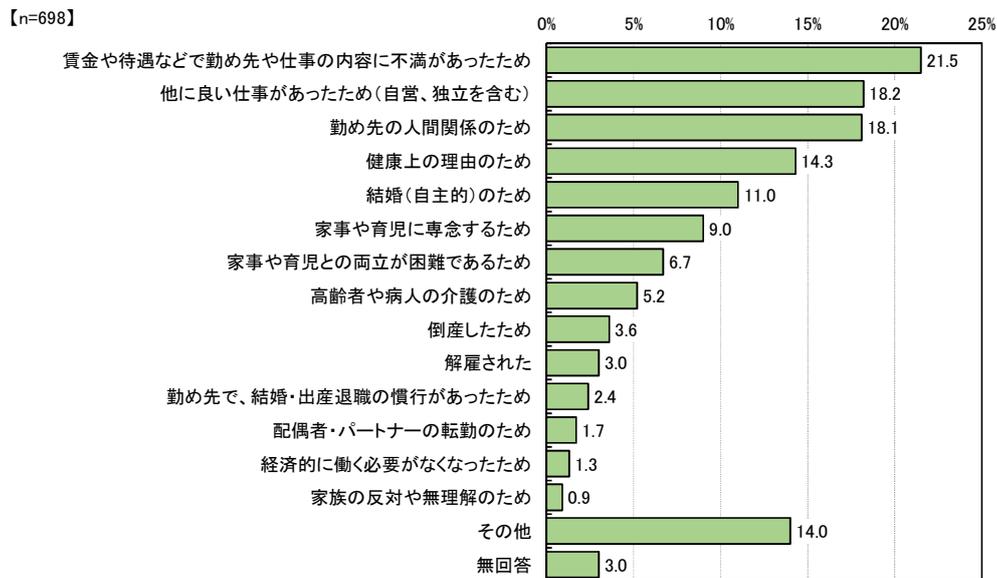


仕事を途中でやめた経験があると回答した人に仕事を辞めた時期について尋ねたところ、全体では、「10年以上前」(44.3%)が最も多く、次いで、「2~4年前」(24.2%)、「5~9年前」(19.1%)、「1年以内」(11.6%)となっている。

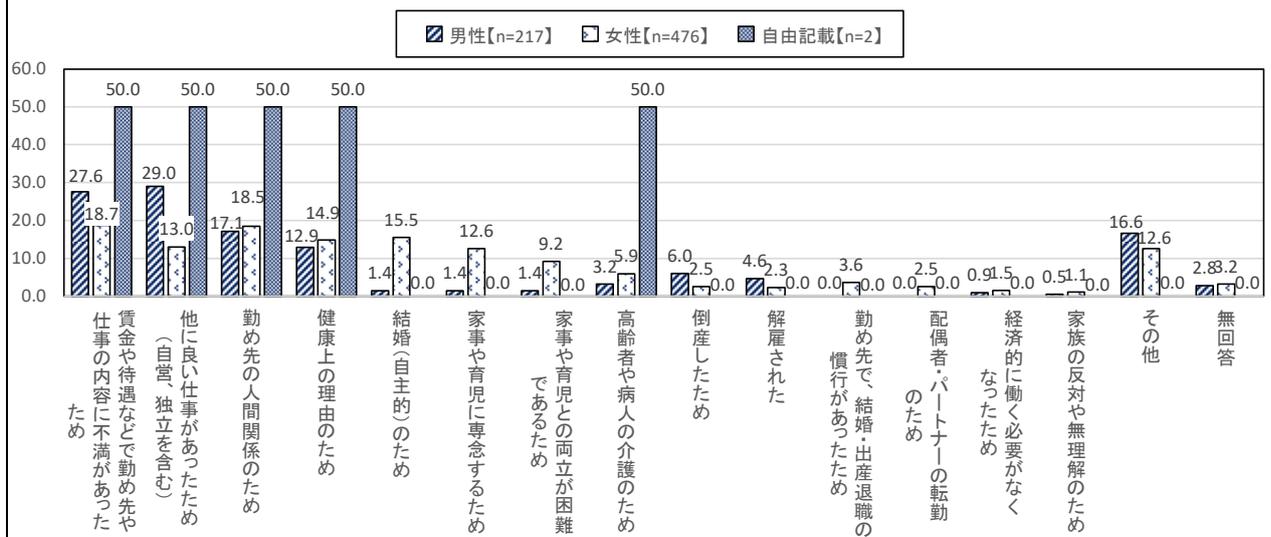
男女別にみると、男性、女性いずれも全体と同じ構成比となっているが、「2~4年前」と「1年以内」の回答割合は、男性よりも女性の方が多くなっている。

問 21-2 問 21 で「1. ある」とお答えいただいた方にかがいます。

あなたが最後に仕事を辞めた主な理由は何ですか。（○は3つまで）



<男女別>



仕事を途中で辞めたことがあると回答した人にその理由を尋ねたところ、「賃金や待遇などで勤め先や仕事の内容に不満があったため」(21.5%)、「他に良い仕事があったため(自営、独立を含む)」(18.2%)、「勤め先の人間関係のため」(18.1%)が特に多く挙げられている。以下、「健康上の理由のため」(14.3%)、「結婚(自主的)のため」(11.0%)などの順となっている。

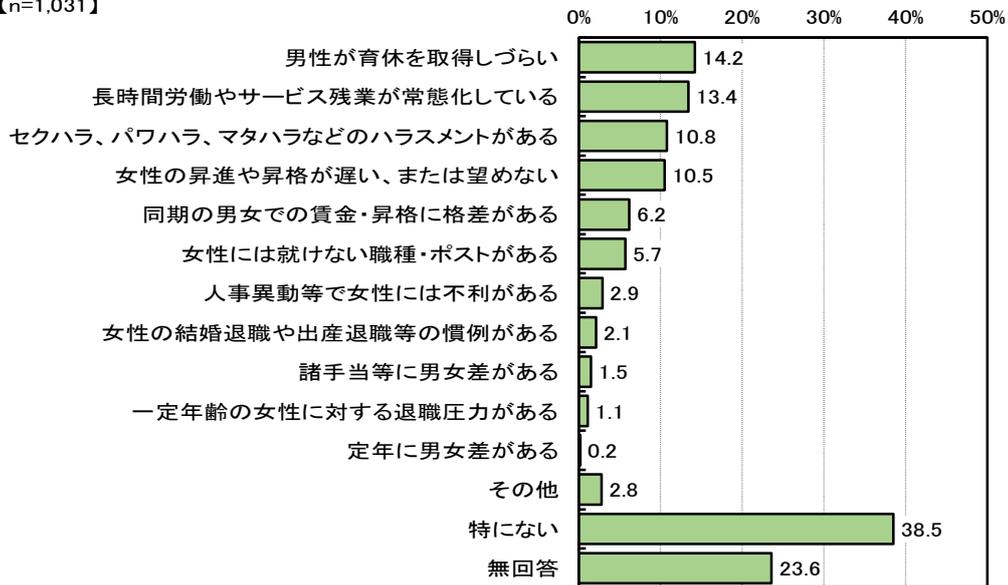
男女別にみると、男性は、「他に良い仕事があったため(自営、独立を含む)」が1位、「賃金や待遇などで勤め先や仕事の内容に不満があったため」が2位となっている。女性は、「賃金や待遇などで勤め先や仕事の内容に不満があったため」が僅差で2位の「勤め先の人間関係のため」を上回り1位となったが、回答割合は男性よりも低くなっている。

(6) 職場が抱える問題

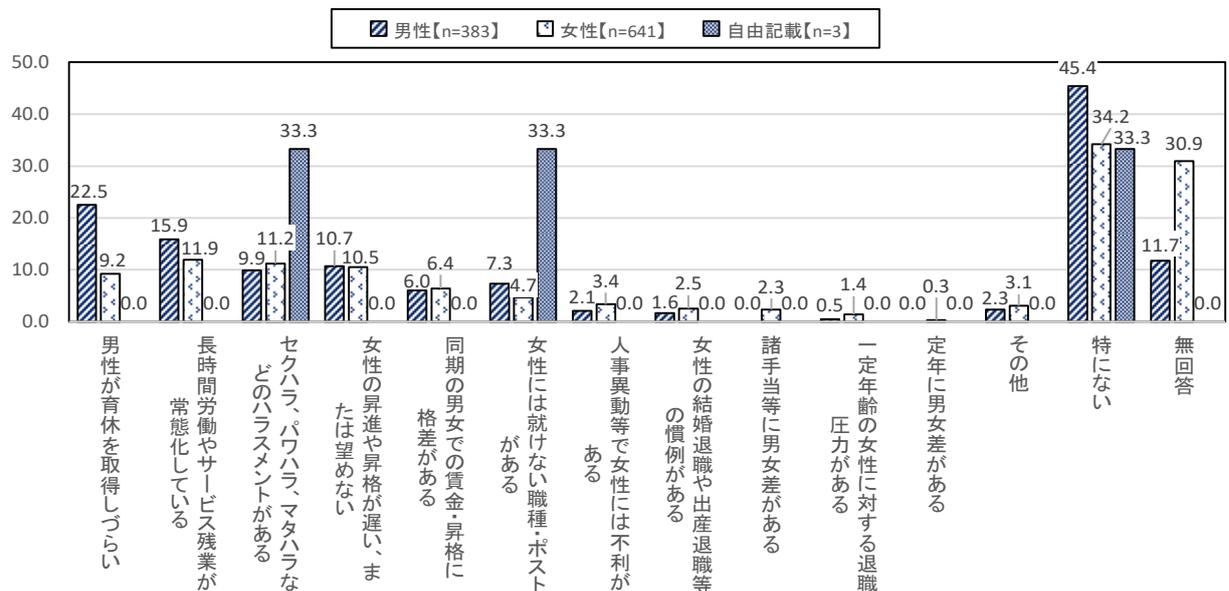
問 22 現在、仕事をしている方のみお答えください。

あなたの職場では現在、次にあげるような問題がありますか。(〇はいくつでも)

【n=1,031】



<男女別>



職場が抱える潜在的な問題について尋ねたところ、「男性が育休を取得しづらい」(14.2%)、「長時間労働やサービス残業が常態化している」(13.4%)が特に多く、以下、「セクハラ、パワハラ、マタハラなどのハラスメントがある」(10.8%)、「女性の昇進や昇格が遅い、または望めない」(10.5%)、「同期の男女での賃金・昇格に格差がある」(6.2%)、「女性には就けない職種・ポストがある」(5.7%)などの順となっている。

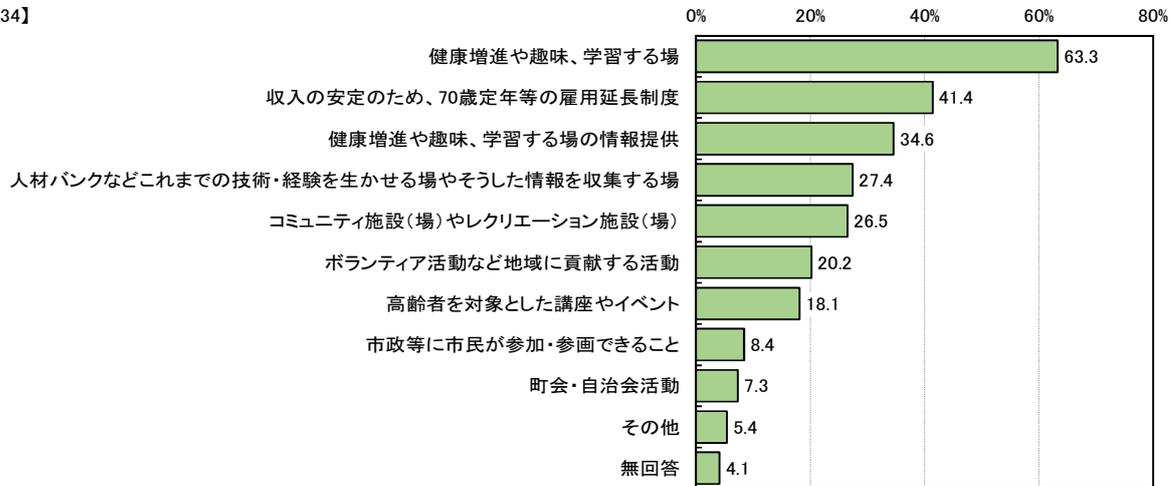
男女別にみると、男性は「男性が育休を取得しづらい」が1位、「長時間労働やサービス残業が常態化している」が2位となっている。

また、女性では「長時間労働やサービス残業が常態化している」が1位、「セクハラ、パワハラ、マタハラなどのハラスメントがある」が2位であった。男性の1位「男性が育休を取得しづらい」は22.5%と女性の9.2%と比べて回答比率が多くなっている。

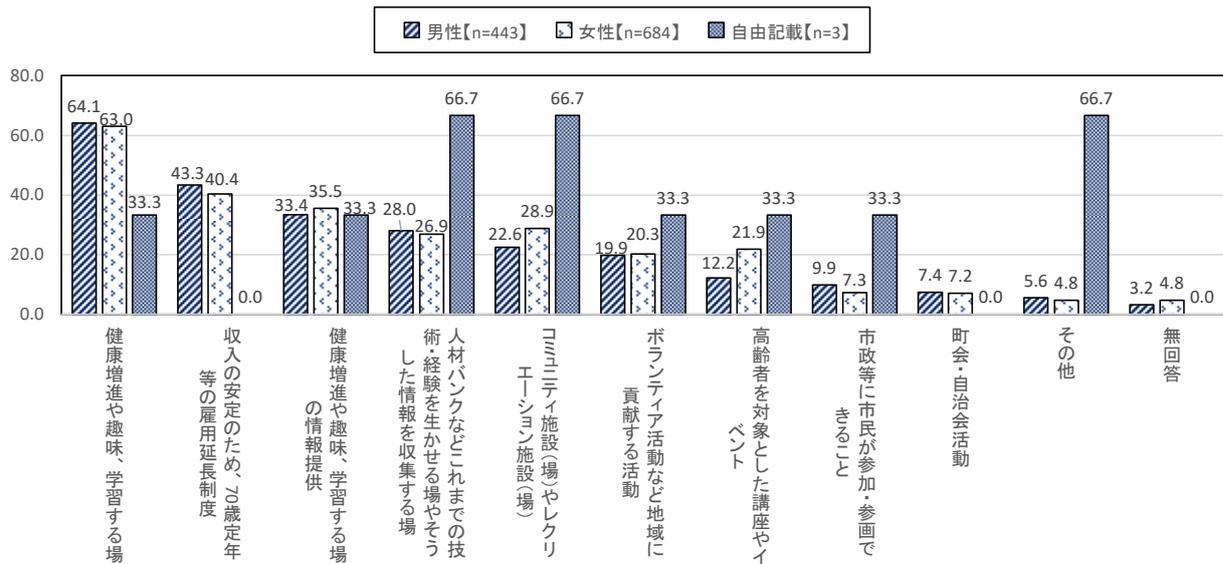
(7) 定年後の人生を豊かに過ごすために必要なこと

問 23 定年後の人生を豊かに過ごすために、必要・有効だと思うことは何ですか。(〇はいくつでも)

【n=1,134】



<男女別>



定年後の人生を豊かに過ごすために、必要・有効だと思うことを尋ねたところ、「健康増進や趣味、学習する場」(63.3%)が最も多く、次いで、「収入安定のため、70歳定年等の雇用延長制度」(41.4%)、「健康増進や趣味、学習する場の情報提供」(34.6%)、「人材バンクなどこれまでの技術・経験を生かせる場やそうした情報を収集する場」(27.4%)、「コミュニティ施設(場)やレクリエーション施設(場)」(26.5%)などの順となっている。

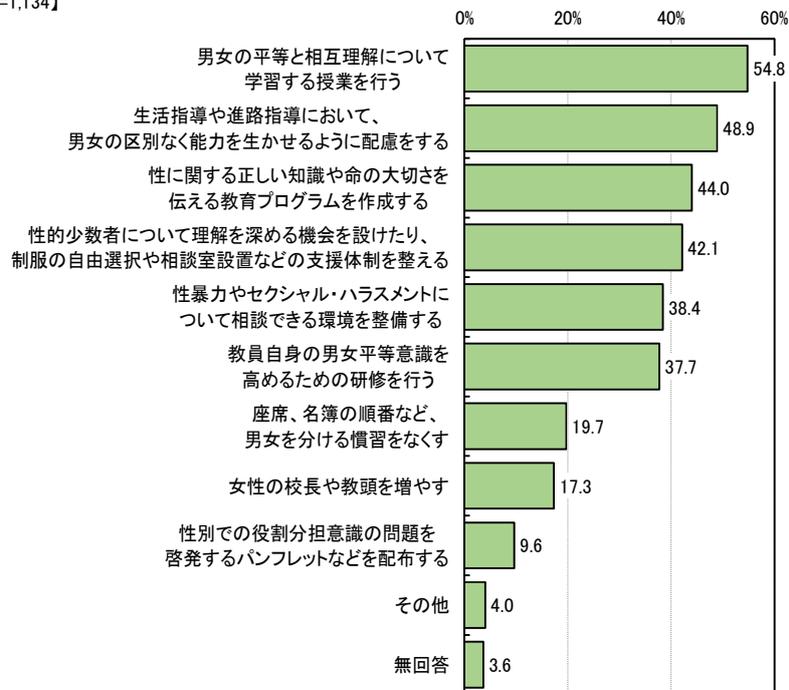
男女別にみると、男性、女性いずれも「健康増進や趣味、学習する場」が1位、「収入安定のため、70歳定年等の雇用延長制度」が2位、「健康増進や趣味、学習する場の情報提供」が3位と共通している。

5 子どもへの男女共同参画教育について

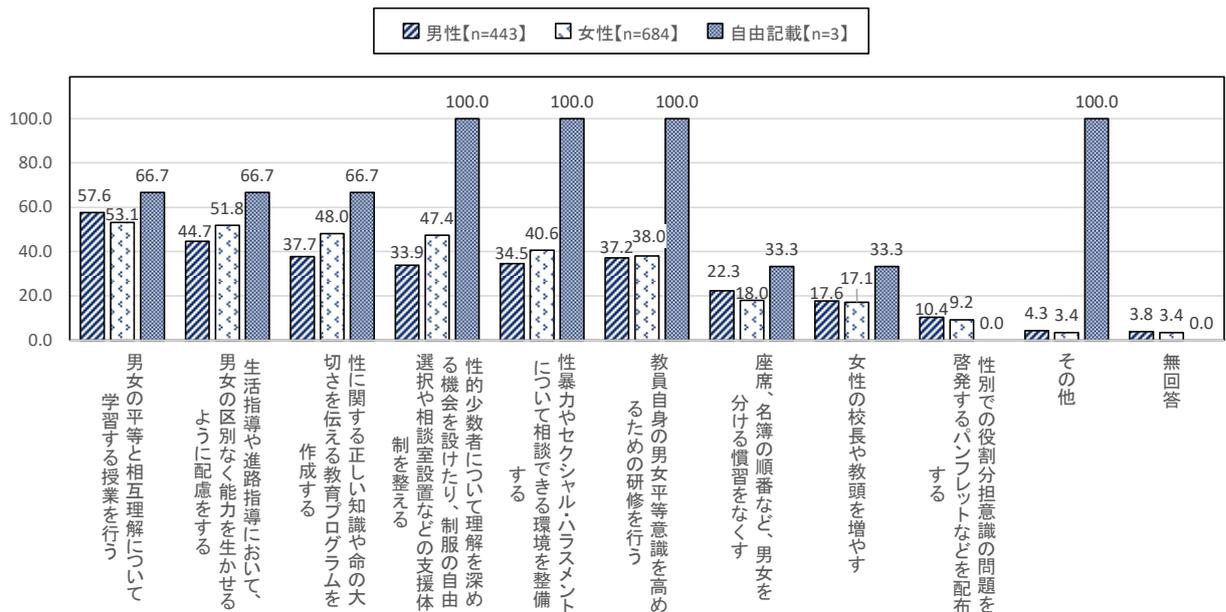
(1) 男女平等推進のために学校教育において重要な取組

問 24 学校教育（小・中学校）の中で男女平等を進めるための取組として、何に力を入れるべきだと思いますか。（〇はいくつでも）

【n=1,134】



<男女別>



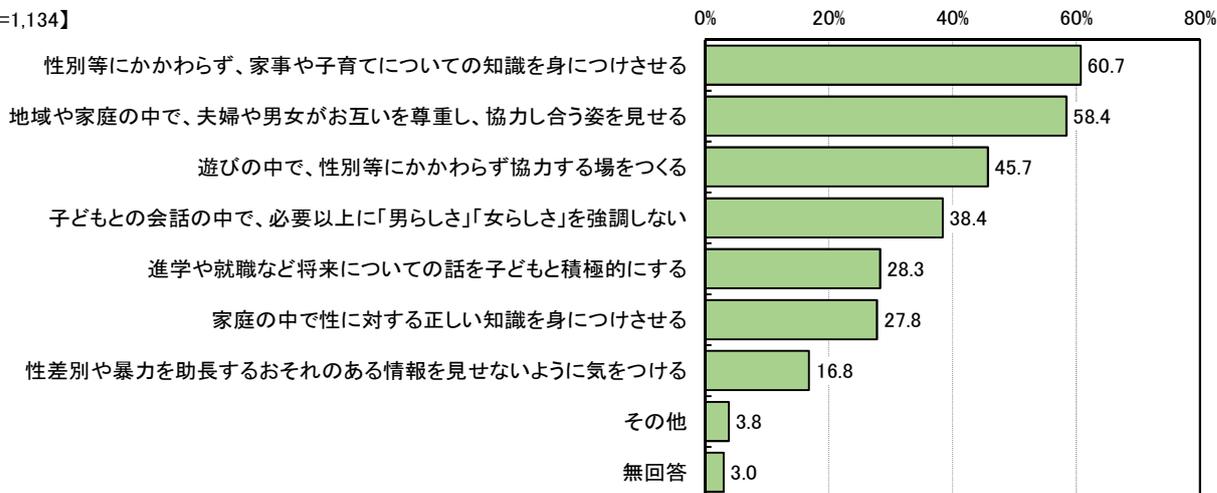
学校教育の中で男女平等を推進するために力を入れるべき取組を尋ねたところ、「男女の平等と相互理解について学習する授業を行う」（54.8%）、「生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるように配慮をする」（48.9%）が特に多く挙げられている。

男女別にみると、男性、女性ともに「男女の平等と相互理解について学習する授業を行う」が最も多くなっている。

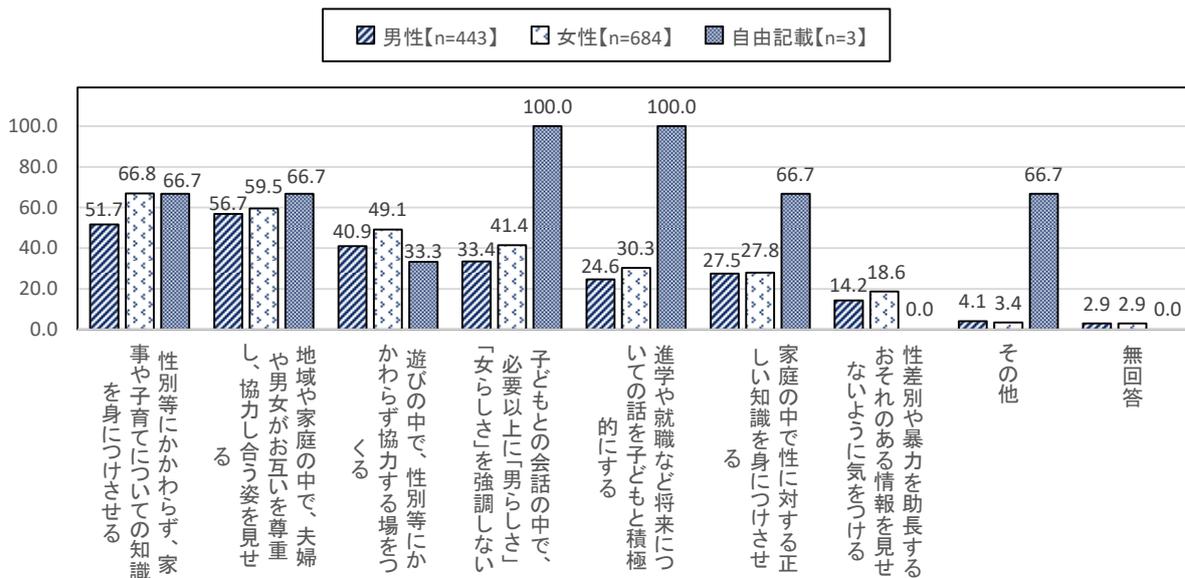
(2) 子ども達が性別を意識しない人間関係をつくるために大人が心がけるべきこと

問 25 子ども達が性別を意識しない人間関係をつくっていくために、親や大人はどのようなことを心がけるべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

【n=1,134】



<男女別>



子ども達が性別を意識しない人間関係をつくっていくために、親や大人はどのようなことを心がけるべきか尋ねたところ、「性別等にかかわらず、家事や子育てについての知識を身につけさせる」(60.7%)、「地域や家庭の中で、夫婦や男女がお互いを尊重し、協力し合う姿を見せる」(58.4%)が特に多く、以下、「遊びの中で、性別等にかかわらず協力する場を作る」(45.7%)、「子どもとの会話の中で、必要以上に『男らしさ』『女らしさ』を強調しない」(38.4%)などの順となっている。

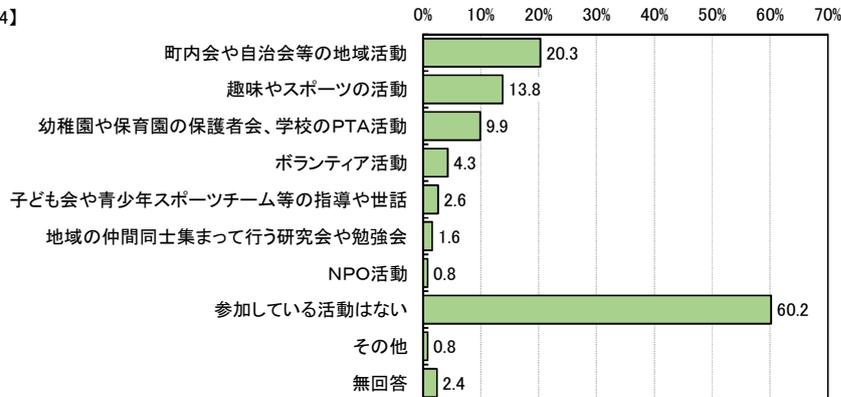
男女別にみると、男性では、「地域や家庭の中で、夫婦や男女がお互いを尊重し、協力し合う姿を見せる」が1位、「性別等にかかわらず、家事や子育てについての知識を身につけさせる」が2位となっているが、女性では順位が逆転しており、さらに1位の「性別等にかかわらず、家事や子育てについての知識を身につけさせる」の回答割合における差が15.1ポイントと開きがある。

6 地域活動、防災・避難について

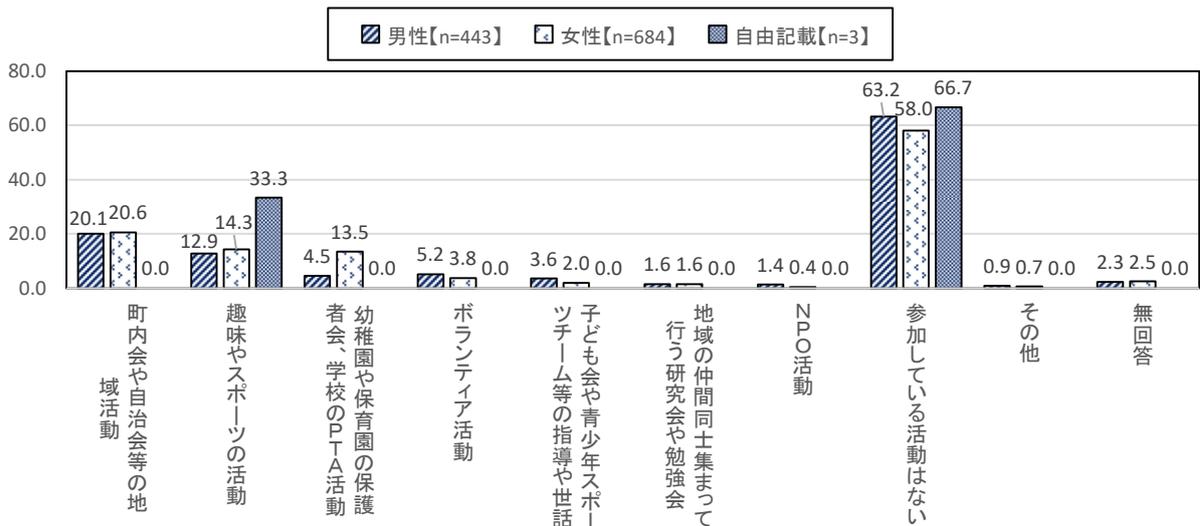
(1) 現在参加している地域活動

問 26 次にあげる地域活動の中であなたが現在参加しているものを選んでください。
(○はいくつでも)

【n=1,134】



<男女別>

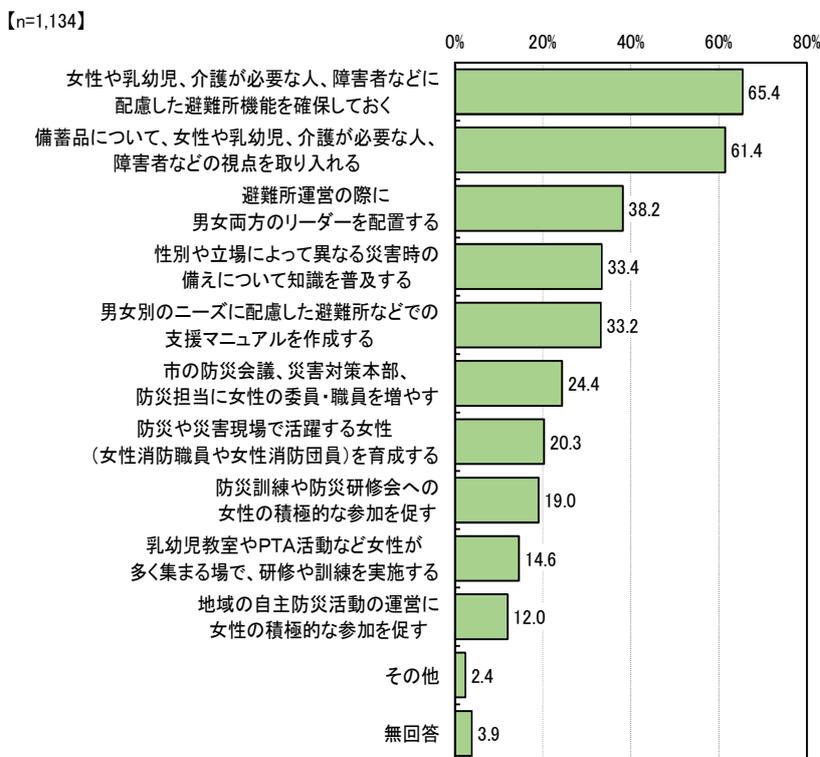


現在参加している地域活動について尋ねたところ、全体では「町内会や自治会等の地域活動」(20.3%)が最も多く、以下、「趣味やスポーツの活動」(13.8%)、「幼稚園や保育園の保護者会、学校のPTA活動」(9.9%)、「ボランティア活動」(4.3%)などとなっている。

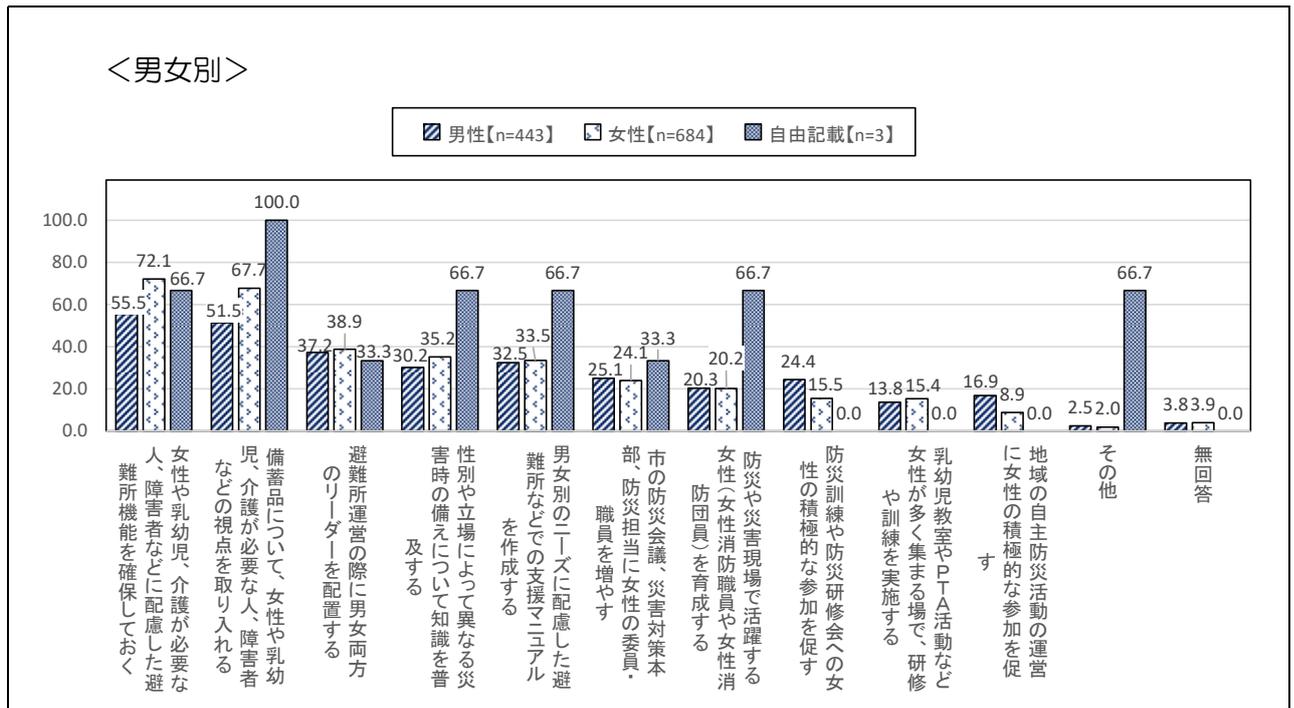
男女別にみると、男性、女性いずれも「町内会や自治会等の地域活動」が1位、「趣味やスポーツの活動」が2位と共通しており、回答割合も大きな差は見られない。そのなかで、女性の3位「幼稚園や保育園の保護者会、学校のPTA活動」は、13.5%であるのに対し、男性は4.5%と9.0ポイントの差がみられた。

(2) 防災・災害復興対策の中で取り入れるべき男女共同参画の視点

問 27 東日本大震災などの教訓から、災害発生に伴う避難や平時の防災体制について男女共同参画の視点を取り入れることが必要だと指摘されています。そのためには、今後の防災や災害復興対策においてどのような施策が必要だと思いますか。（〇はいくつでも）



男女共同参画の視点を取り入れた今後の防災や災害復興対策について、どのような施策が必要か尋ねたところ、全体では「女性や乳幼児、介護が必要な人、障害者などに配慮した避難所機能を確保しておく」（65.4%）、「備蓄品について、女性や乳幼児、介護が必要な人、障害者などの視点を取り入れる」（61.4%）が特に多く挙げられている。次いで、「避難所運営の際に男女両方のリーダーを配置する」（38.2%）、「性別や立場によって異なる災害時の備えについて知識を普及する」（33.4%）、「男女別のニーズに配慮した避難所などでの支援マニュアルを作成する」（33.2%）などの順となっている。



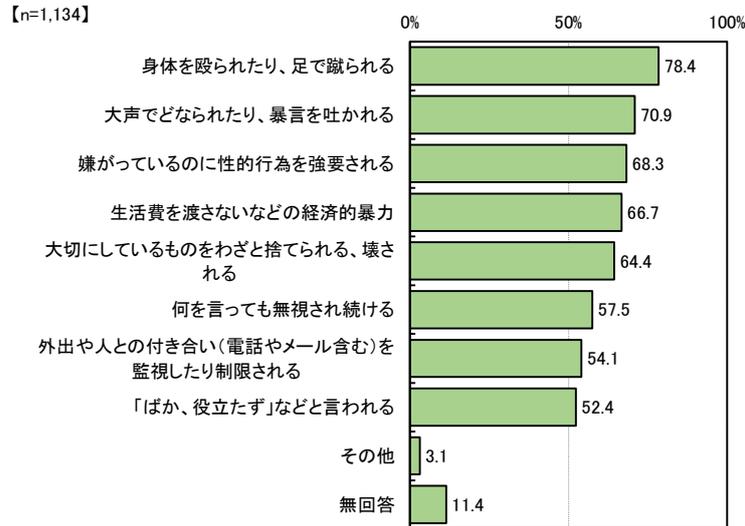
男女別では、男性、女性いずれも上位3位まで共通しているが、1位の「女性や乳幼児、介護が必要な人、障害者などに配慮した避難所機能を確保しておく」、2位の「備蓄品について、女性や乳幼児、介護が必要な人、障害者などの視点を取り入れる」について、女性の回答割合がいずれも16ポイント以上高くなっており、女性の関心の高さが窺える結果となった。

7 配偶者などからの暴力について

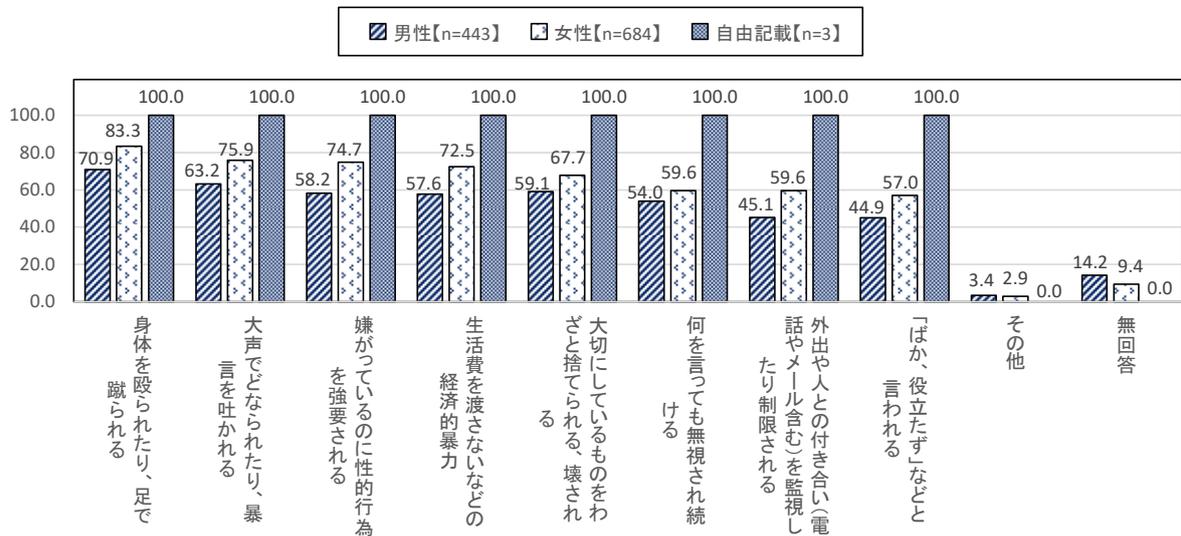
※以下の設問にある「配偶者など」には、婚姻届けを出していない事実婚、別居中の夫婦、元配偶者、交際相手も含まれます。

(1) DV（ドメスティックバイオレンス）だと感じることを

問 28 配偶者などから次のようなことが行われた場合、あなたが暴力だと感じることをお答えください。（〇はいくつでも）



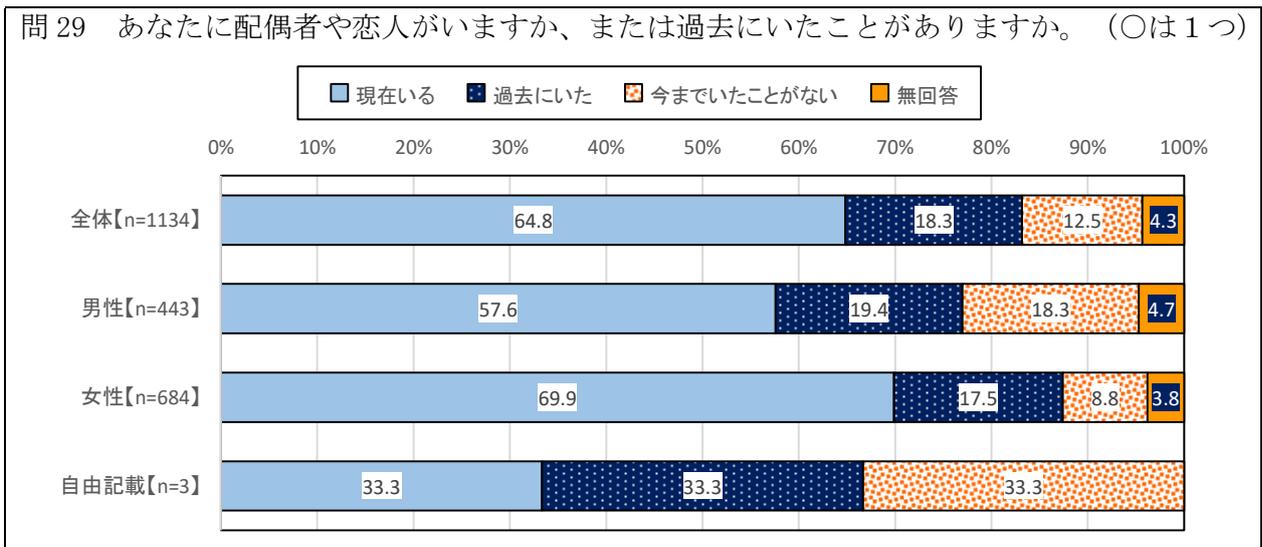
<男女別>



配偶者などからの暴力だと感じることを尋ねたところ、全体では「身体を殴られたり、足で蹴られる」（78.4%）、「大声でどなられたり、暴言を吐かれる」（70.9%）が特に多く挙げられている。以下、「嫌がっているのに性的行為を強要される」（68.3%）、「生活費を渡さないなどの経済的暴力」（66.7%）、「大切にしているものをわざと捨てられる、壊される」（64.4%）などの順となっている。

男女別にみると、すべての選択肢の回答割合について、女性の数値が男性の数値を上回っているほか、「嫌がっているのに性的行為を強要される」の回答割合については男女間の差が16.5ポイントと最も大きくなっている。

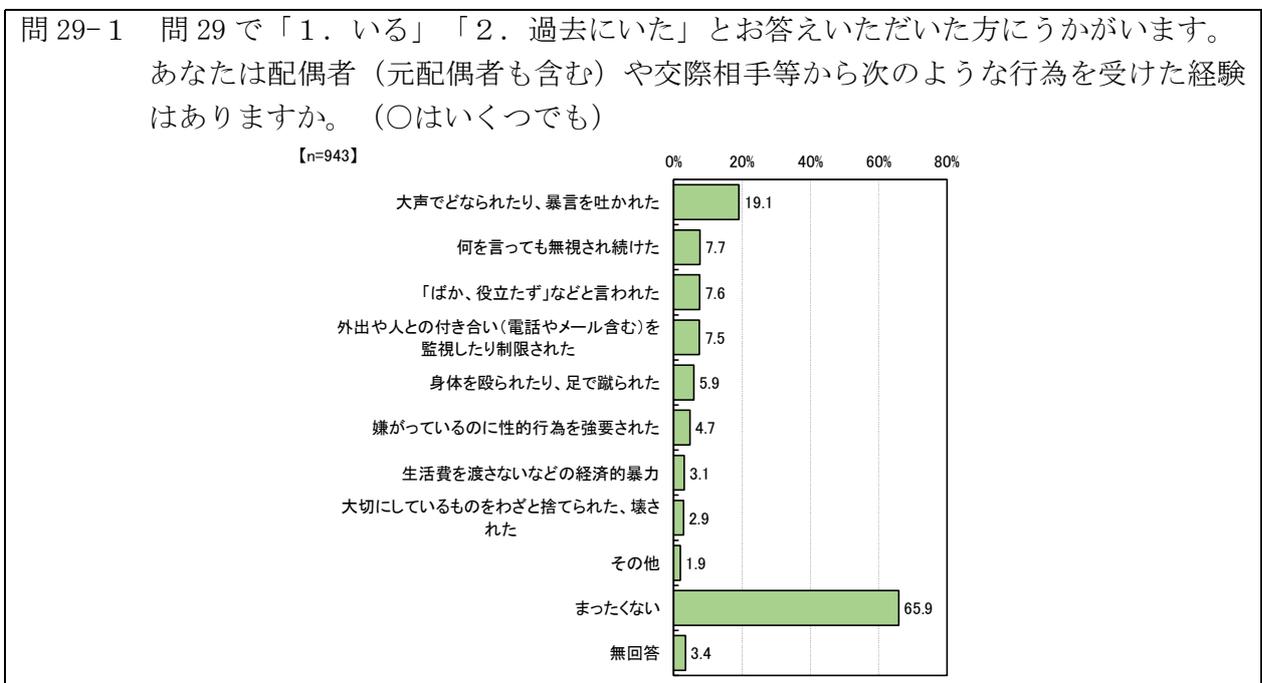
(2) 配偶者や恋人がいるか・過去にいたか



配偶者や恋人について尋ねたところ、全体では「現在いる」が64.8%、「過去にいた」が18.3%、「今までいたことがない」が12.5%となっている。

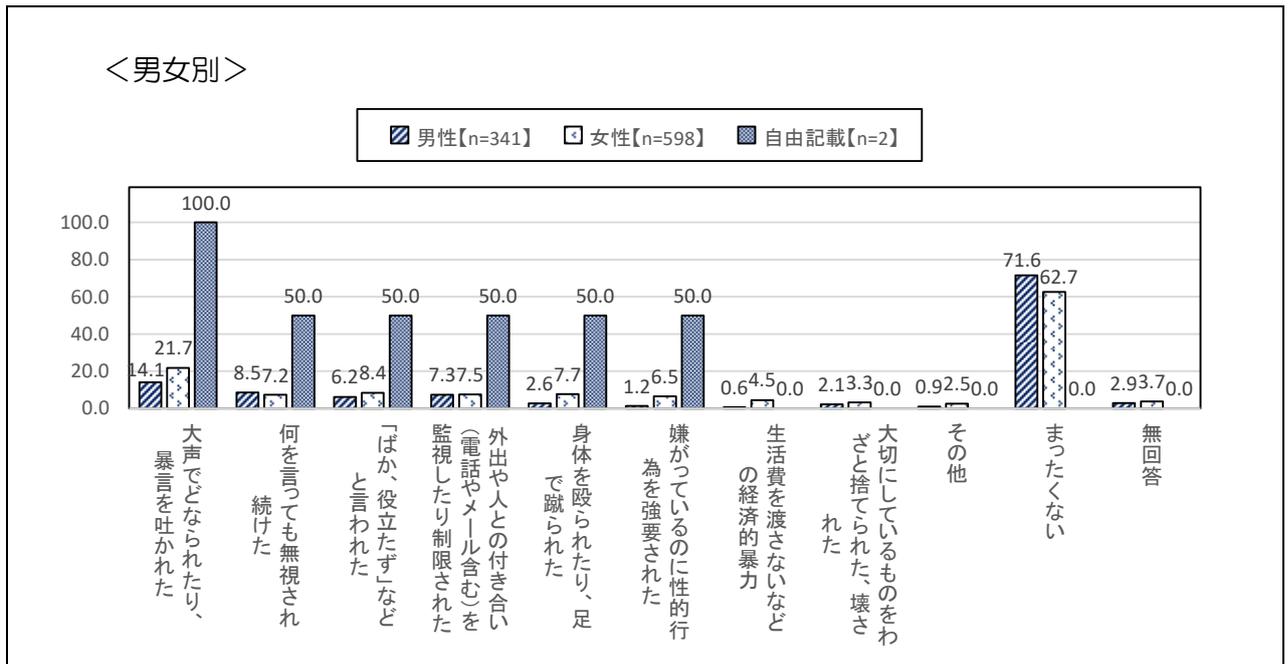
男女別にみると、「現在いる」が男性では57.6%、女性では69.9%、「過去にいた」が男性では19.4%、女性では17.5%、「今までいたことがない」が男性では18.3%、女性では8.8%となっている。

(3) 《配偶者や恋人がいるか・過去にいた人》DVを受けた経験の有無



配偶者や恋人がいるもしくは過去にいたと回答した人に、配偶者（元配偶者も含む）や恋人から受けたハラスメント行為を尋ねたところ、「大声でどなられたり、暴言を吐かれた」(19.1%)が最も多く、以下、「何を言っても無視され続けた」(7.7%)、「『ばか、役立たず』などと言われた」(7.6%)、「外出や人との付き合い(電話やメール含む)を監視したり制限された」(7.5%)などとなっている。また、65.9%は「まったくない」と回答して

いる。

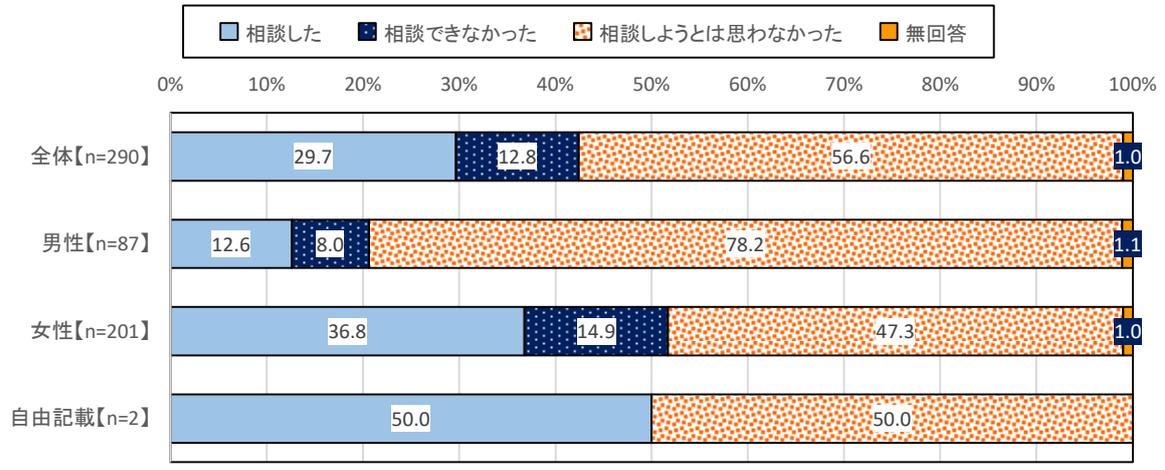


男女別にみると、男性、女性いずれも「大声でどなられたり、暴言を吐かれた」が最も多くなっているが、回答割合は女性が男性を大きく上回っている。また、「嫌がっているのに性的行為を強要された」では 5.3 ポイント、「身体を殴られたり、足で蹴られた」では 5.1 ポイントと回答割合の男女差が大きくなっている。

また、男性の 71.6%、女性の 62.7%が「まったくくない」と回答しており、回答割合についても男性、女性間で差がみられた。

(4) 《DVを受けたことがある人》 受けたDVについて相談したか

問 29-2 問 29-1で「1.」～「9.」とお答えいただいた方にうかがいます。
 あなたの受けた行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。
 (○は1つ)

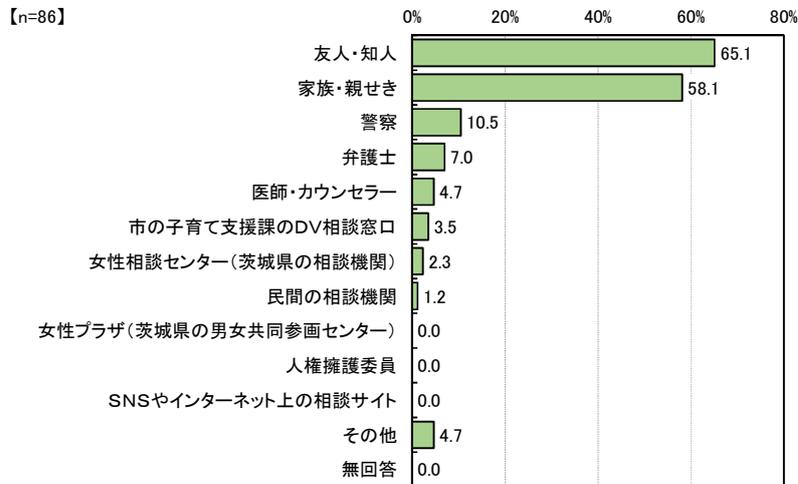


配偶者（元配偶者も含む）や恋人から暴力を受けことがあると回答した人に、受けた行為について誰かに相談したか尋ねたところ、全体では「相談した」が29.7%、「相談しようとは思わなかった」が56.6%、「相談できなかった」が12.8%となっている。

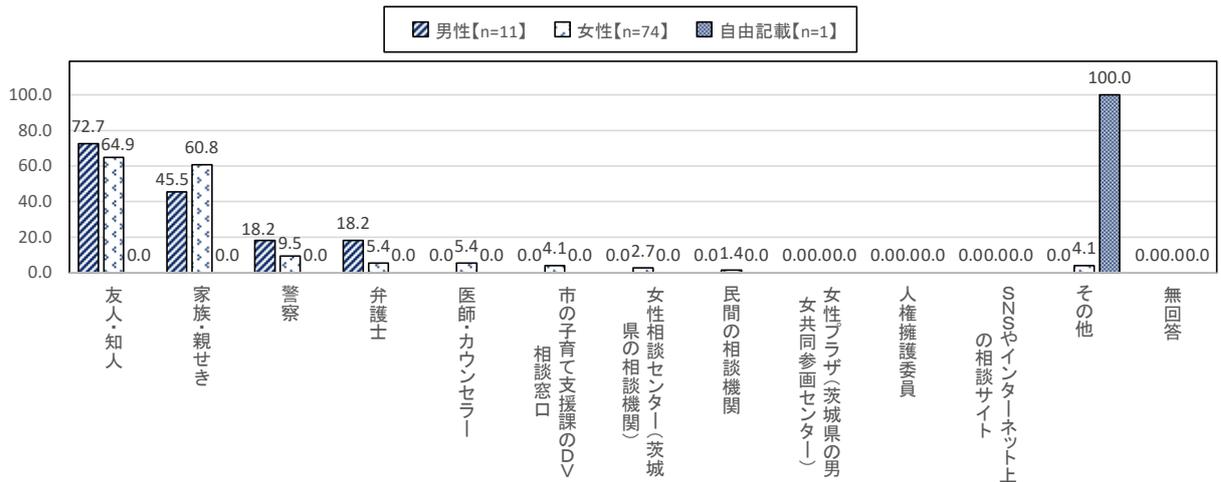
男女別に「相談した」割合をみると、男性では12.6%、女性では36.8%となっている。また、男性では「相談しようとは思わなかった」が8割近くを占めている。

(5) 《受けたDVについて相談した人》相談した人（場所）について

問 29-3 問 29-2 で「1. 相談した」とお答えいただいた方にうかがいます。
 あなたが相談した人（場所）を教えてください。（〇はいくつでも）



<男女別>



配偶者（元配偶者も含む）や恋人から暴力を受けことがあり、受けた行為について誰かに相談したと回答した人に、相談した人（場所）を尋ねたところ、「友人・知人」（65.1%）が最も多く、次いで「家族・親せき」（58.1%）が続いている。以下、「警察」（10.5%）、「弁護士」（7.0%）、「医師・カウンセラー」（4.7%）、「市の子育て支援課のDV相談窓口」（3.5%）などの順となっている。

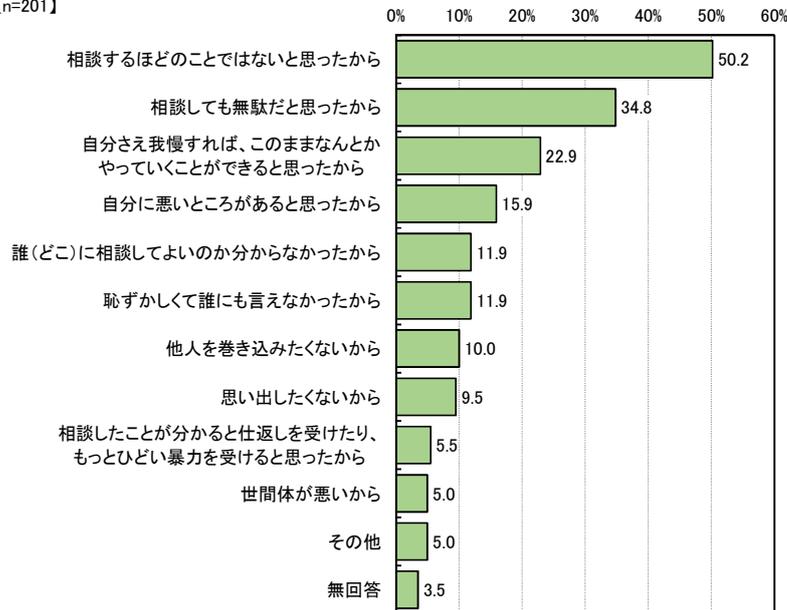
男女別にみると、男性、女性いずれも「友人・知人」が1位、「家族・親せき」が2位と共通しているが、回答割合でみると、「友人・知人」は男性の回答割合が高いのに対し、「家族・親戚」は女性の回答割合が高いうえに、15.3ポイントの差がみられた。

(6) 《受けたDVについて相談できなかった人》相談できなかった理由

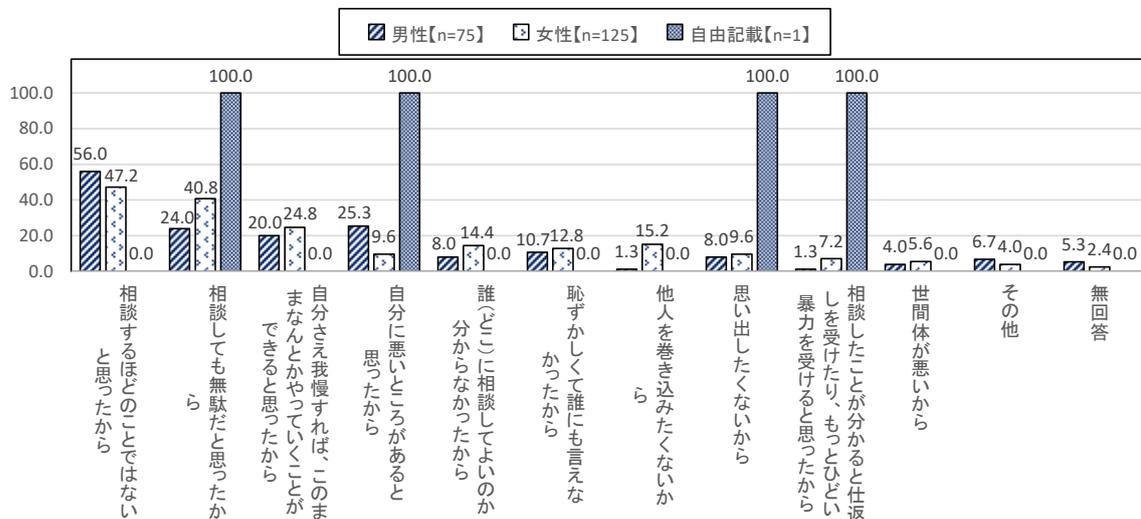
問 29-4 問 29-2 で「2. 相談できなかった」または「3. 相談しようとは思わなかった」とお答えいただいた方にうかがいます。

あなたが誰（どこ）にも相談できなかったのはなぜですか。（○はいくつでも）

【n=201】



<男女別>



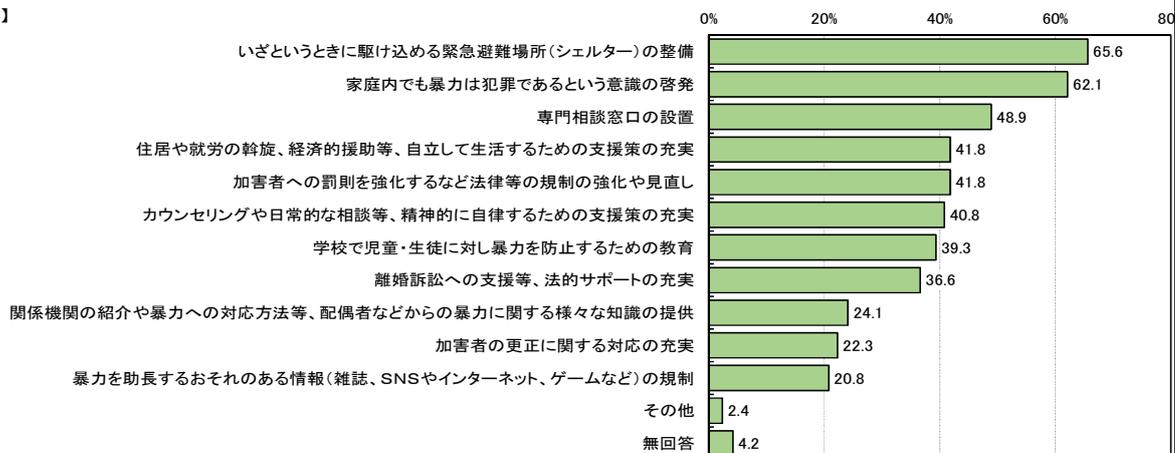
配偶者（元配偶者も含む）や恋人から暴力を受けことがあり、受けた行為について誰にも相談できなかった、相談しようと思わなかったと回答した人に、相談できなかった理由を尋ねたところ、「相談するほどのことではないと思ったから」（50.2%）が最も多く、以下、「相談しても無駄だと思ったから」（34.8%）、「自分さえ我慢すればこのまま何とかやっていくことができると思ったから」（22.9%）、「自分に悪いところがあると思ったから」（15.9%）などの順となっている。

男女別にみると、男性、女性いずれも1位の「相談するほどのことではないと思ったから」は共通しているが、2位以降、男性は「自分に悪いところがあると思ったから」、「相談しても無駄だと思ったから」の順に対し、女性は「相談しても無駄だと思ったから」、「自分さえ我慢すれば、このまま何とかやっていくことができると思ったから」であった。

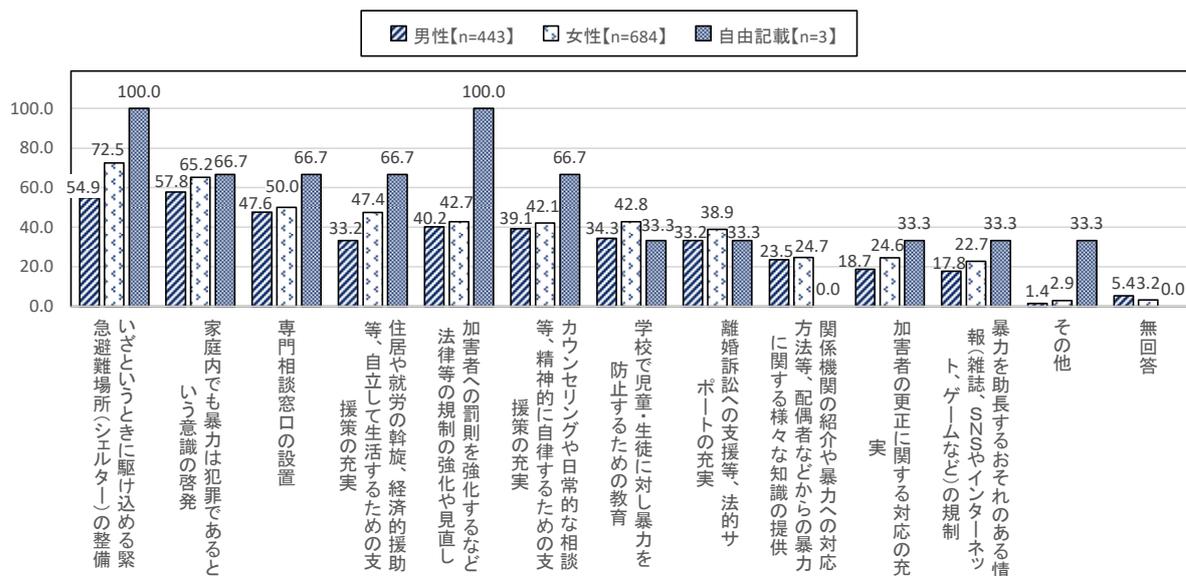
(7) DVの防止や被害者支援のために必要な対策

問 30 配偶者や交際相手等からの暴力の防止や被害者支援のために、どのような対策が必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

[n=1,134]



<男女別>



配偶者や交際相手等からの暴力の防止や被害者支援のために必要な施策について尋ねたところ、全体では、「いざというときに駆け込める緊急避難場所(シェルター)の整備」(65.6%)、「家庭内でも暴力は犯罪であるという意識の啓発」(62.1%)が最も多く挙げられている。

男女別にみると、無回答を除くすべての回答項目において、男性よりも女性の回答割合が高い傾向がみられた。その中でも、全体で1位であった「いざというときに駆け込める緊急避難場所(シェルター)の整備」の回答割合は、男性は54.9%に対し、女性は72.5%と17.6ポイントの差がみられた。

8 人権・性的少数者について

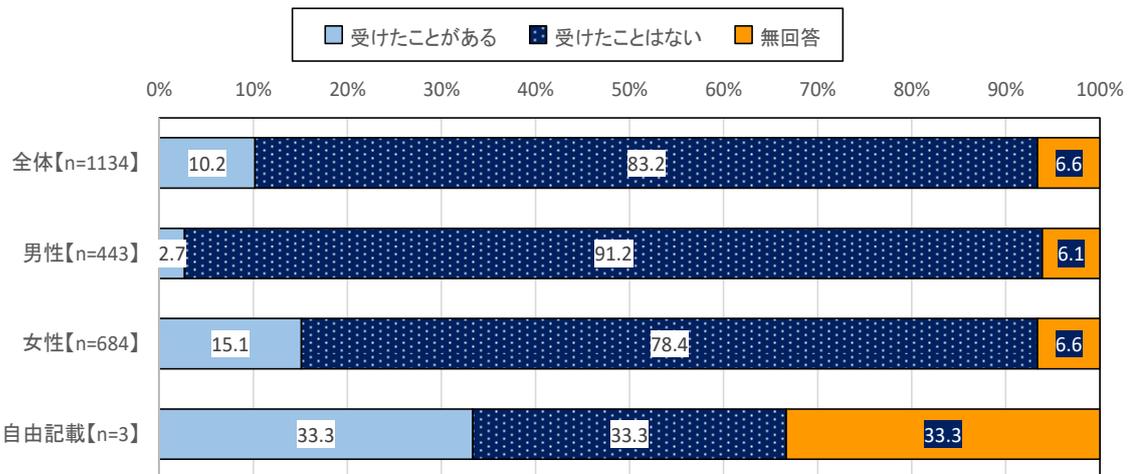
(1) ハラスメントの経験の有無

問 31 最近3年の間に、職場・学校・地域でハラスメントを受けた、または周囲の方が被害を受けたのを見たり、聞いたりしたことがありますか。(①～④についてそれぞれ該当する選択肢に○を1つ)

①セクシャル・ハラスメント被害について

(相手の意思に反し不快・不安な状態に追い込む性的な言葉や行為)

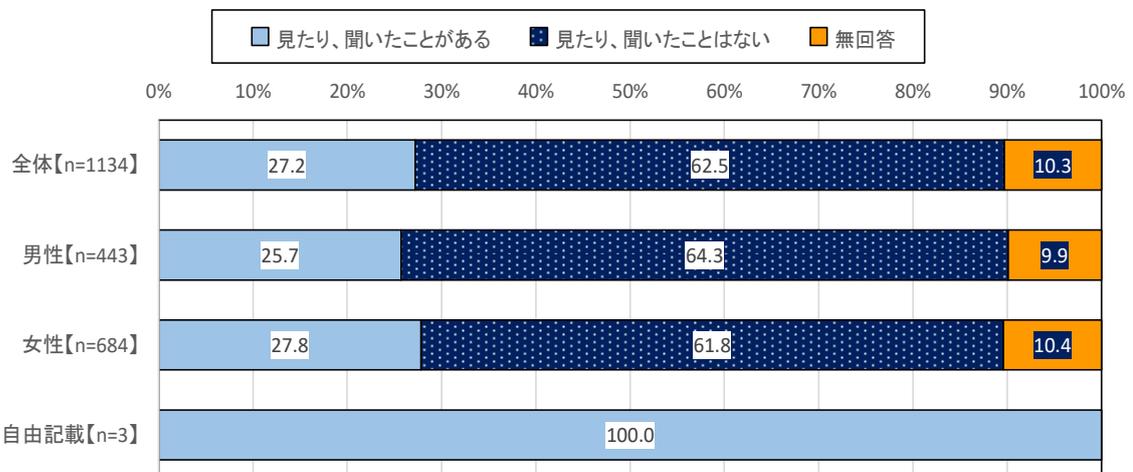
<あなた自身>



あなたが『①セクシャル・ハラスメント』を受けたことがあるか尋ねたところ、全体では「受けたことがある」割合は10.2%となっている。

男女別にみると、「受けたことがある」割合は、男性では2.7%、女性では15.1%となっている。

<あなたの周囲>



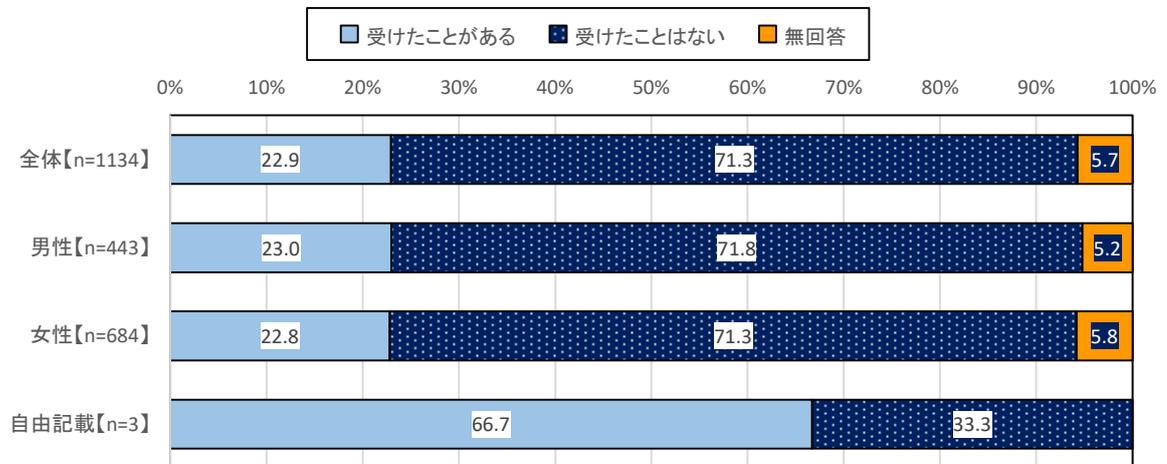
あなたの周囲で『①セクシャル・ハラスメント』を受けるのを見たり、聞いたことがあるか尋ねたところ、全体では「見たり、聞いたことがある」は27.2%となっている。

男女別にみると、「見たり、聞いたことがある」は、男性では25.7%、女性では27.8%となっている。

②パワー・ハラスメント被害について

(職場内の優位性を背景に、精神的・身体的苦痛を与える行為)

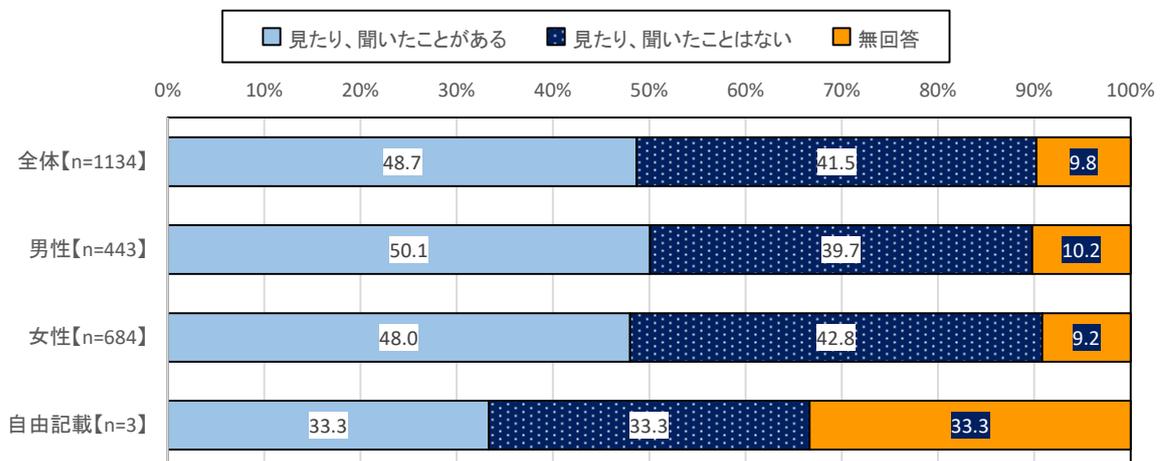
<あなた自身>



あなたが『②パワー・ハラスメント』を受けたことがあるか尋ねたところ、全体では「受けたことがある」は22.9%となっている。

男女別にみると、「受けたことがある」は、男性では23.0%、女性では22.8%となっている。

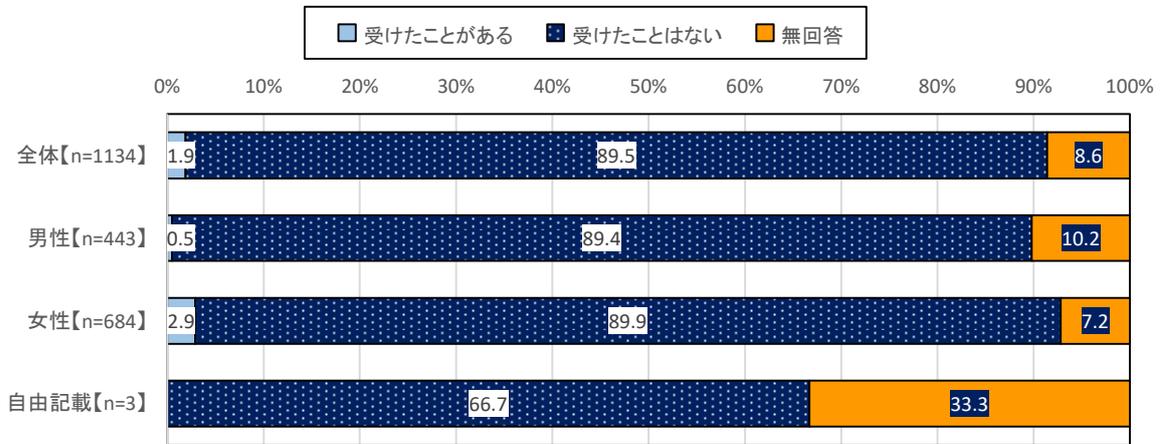
<あなたの周囲>



あなたの周囲で『②パワー・ハラスメント』受けるのを見たり、聞いたことがあるか尋ねたところ、全体では「見たり、聞いたことがある」は48.7%となっている。

男女別にみると、「見たり、聞いたことがある」は、男性では50.1%、女性では48.0%となっている。

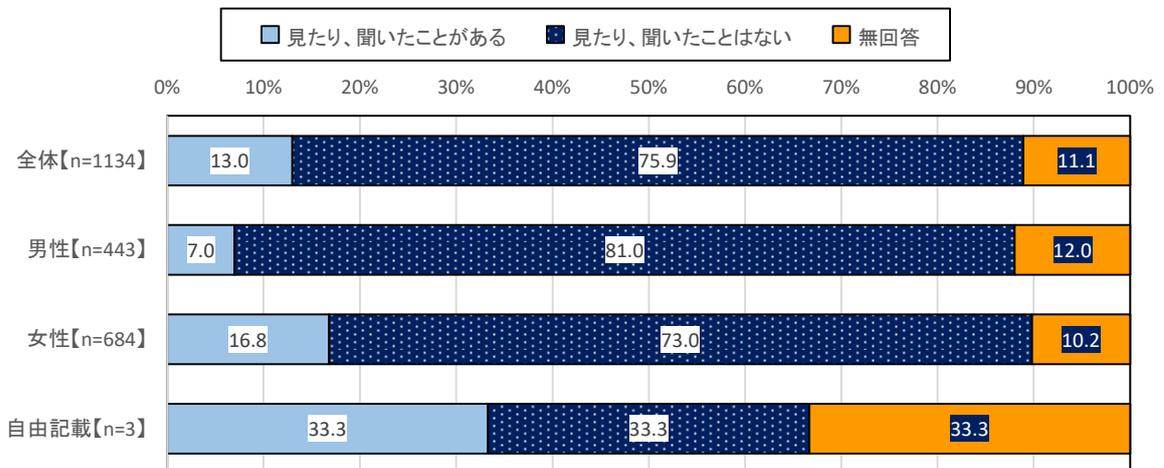
③マタニティ・ハラスメント被害について
 (妊娠・出産を理由として、精神的・身体的苦痛を与える行為)
 <あなた自身>



あなた自身が『③マタニティ・ハラスメント』を受けたことがあるか尋ねたところ、全体では「受けたことがある」は1.9%となっている。

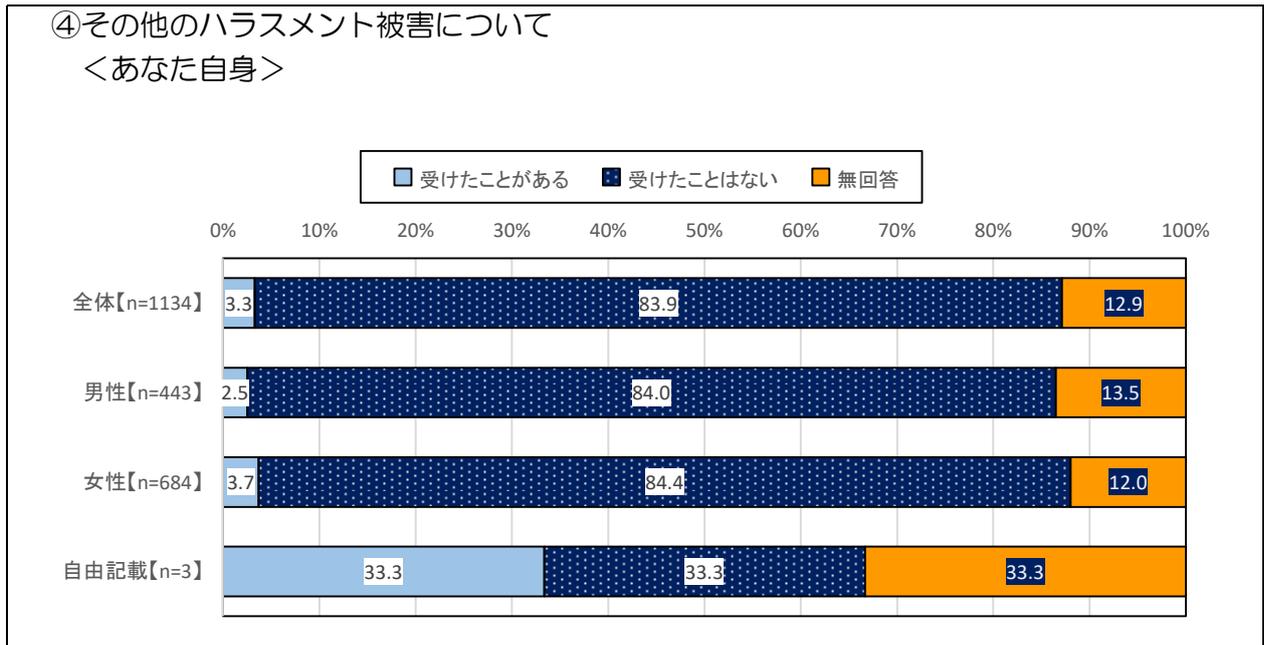
男女別にみると、「受けたことがある」は、男性では0.5%、女性では2.9%となっている。

<あなたの周囲>



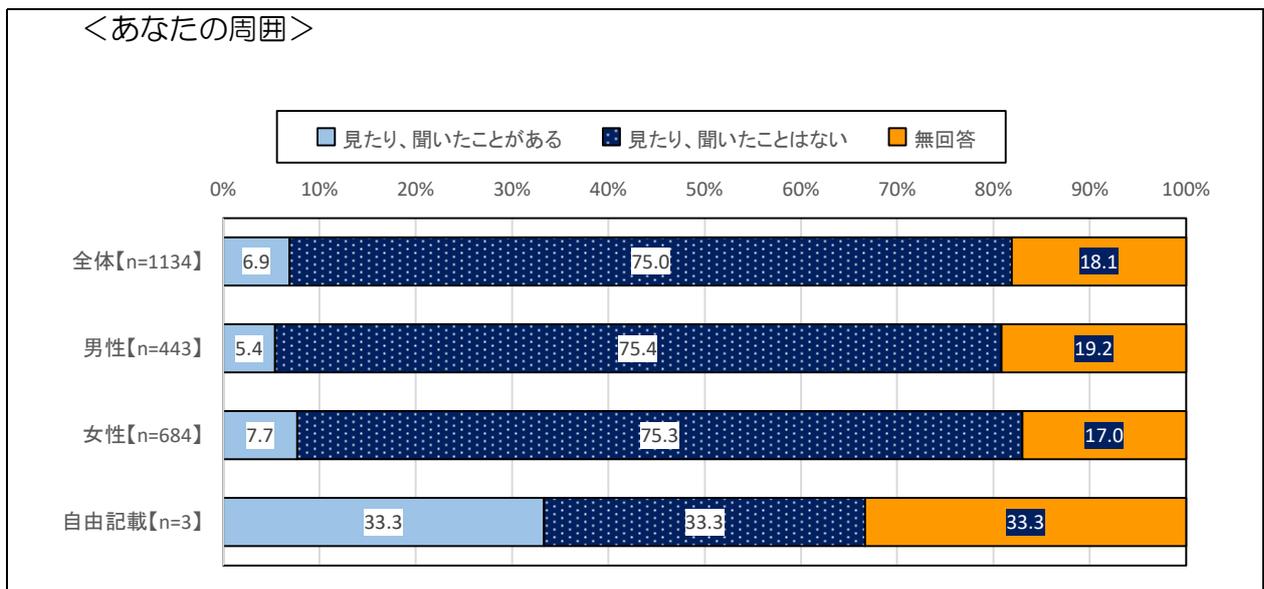
あなたの周囲で『③マタニティ・ハラスメント』を受けるのを見たり、聞いたことがあるか尋ねたところ、全体では「見たり、聞いたことがある」は13.0%となっている。

男女別にみると、「見たり、聞いたことがある」は、男性では7.0%、女性では16.8%となっている。



あなたが『④その他のハラスメント被害』を受けたことがあるか尋ねたところ、全体では「受けたことがある」は3.3%となっている。

男女別にみると、「受けたことがある」は、男性では2.5%、女性では3.7%となっている。



あなたの周囲で『④その他のハラスメント被害』を受けるのを見たり、聞いたことがあるか尋ねたところ、全体では「見たり、聞いたことがある」は6.9%となっている。

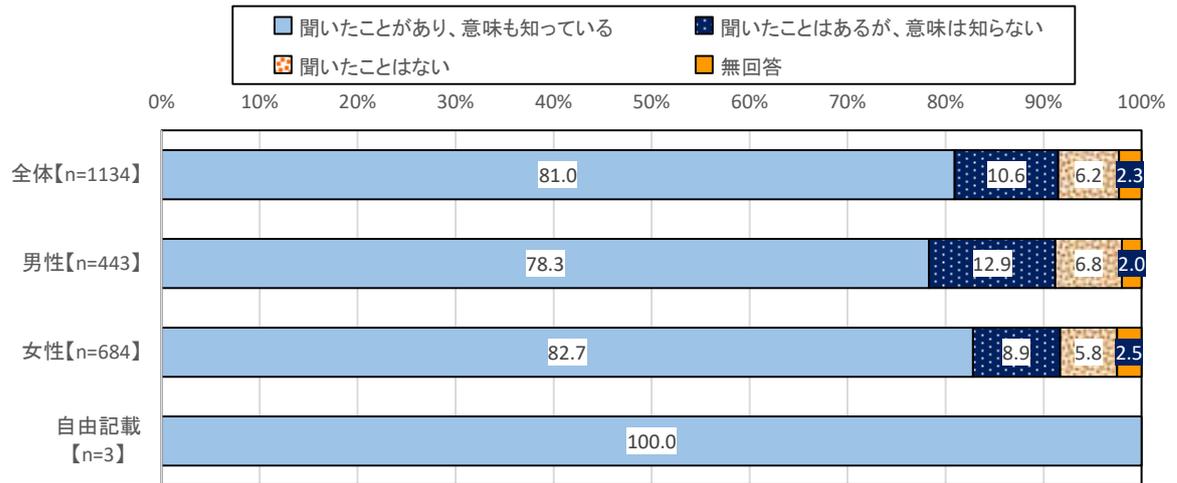
男女別にみると、「見たり、聞いたことがある」は、男性では5.4%、女性では7.7%となっている。

(2) 「性的少数者」の認識度

問 32 「性的少数者※（性的マイノリティ、LGBT等）」という言葉を知っているかどうか。（○は1つ）

※用語の意味

性同一性障害など、「身体の性」と自分が認識する「心の性」が一致しない人や、恋愛感情など性的な意識が同性や両性に向う人、身体的な性別が不明瞭な人などのこと



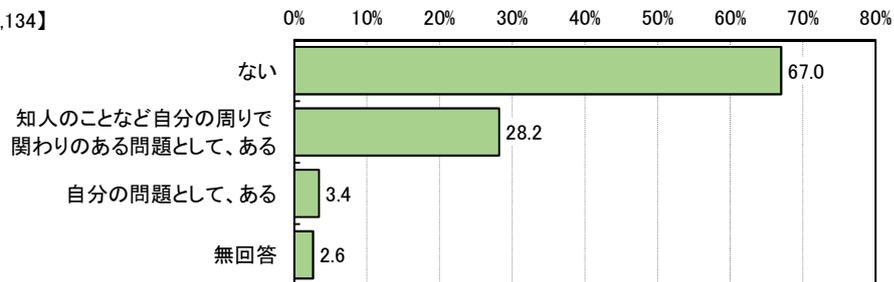
「性的少数者（性的マイノリティ、LGBT等）」という言葉を知っているかどうかを尋ねたところ、全体では「聞いたことがあり、意味も知っている」は81.0%となっている。

男女別にみると、「聞いたことがあり、意味も知っている」は、男性では78.3%、女性では82.7%となっている。また、「聞いたことはあるが、意味は知らない」は、男性では12.9%、女性では8.9%、「聞いたことはない」は、男性では6.8%、女性では5.8%となっている。

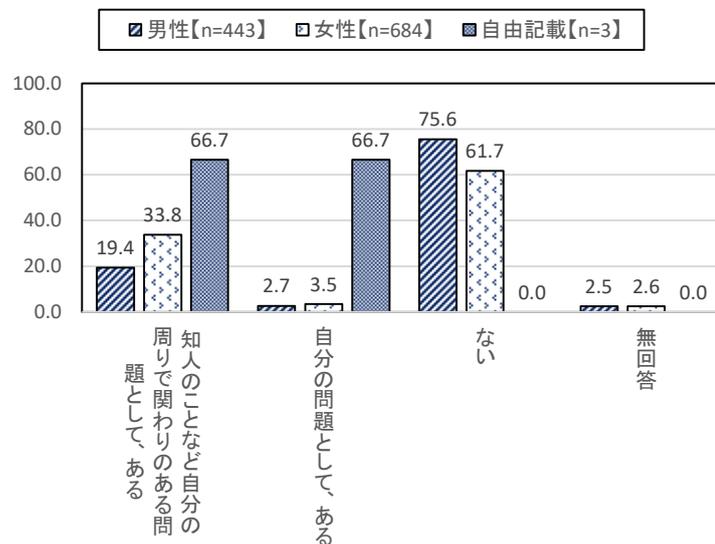
(3) 「性的少数者」に対する意識

問 33 あなたは、「性的少数者」のことを、自分や自分の周りがかかわりのある問題として、意識したり、考えたりしたことはありますか。(〇はいくつでも)

【n=1,134】



<男女別>



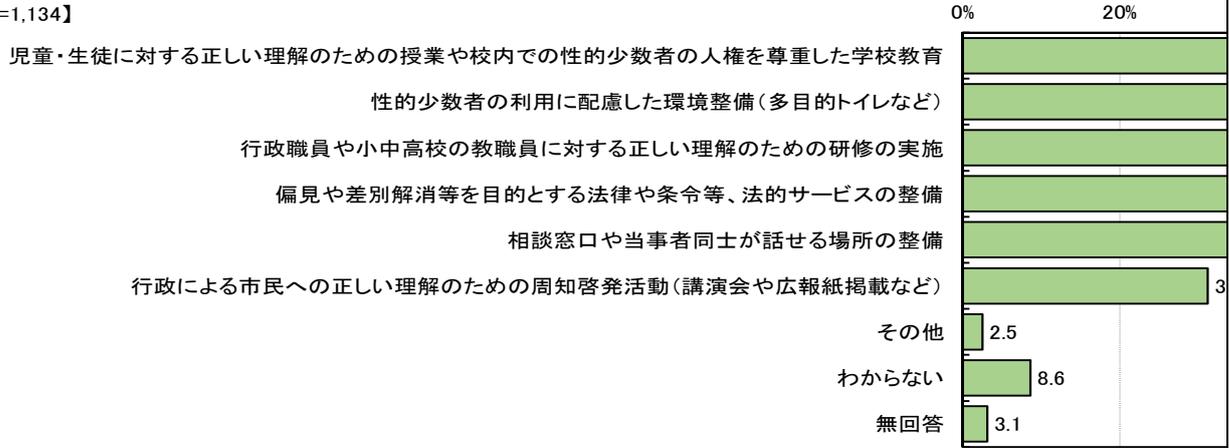
「性的少数者」のことを、自分や自分の周りがかかわりのある問題として、意識したり、考えたりしたことはあるか尋ねたところ、全体では「ない」は67.0%、「知人のことなど自分の周りがかかわりのある問題として、ある」は28.2%、「自分の問題として、ある」は、3.4%となっている。

男女別にみると、「知人のことなど自分の周りがかかわりのある問題として、ある」は、男性が19.4%、女性では33.8%となっている。また、「自分の問題として、ある」は、男性が2.7%、女性では3.5%となっている。

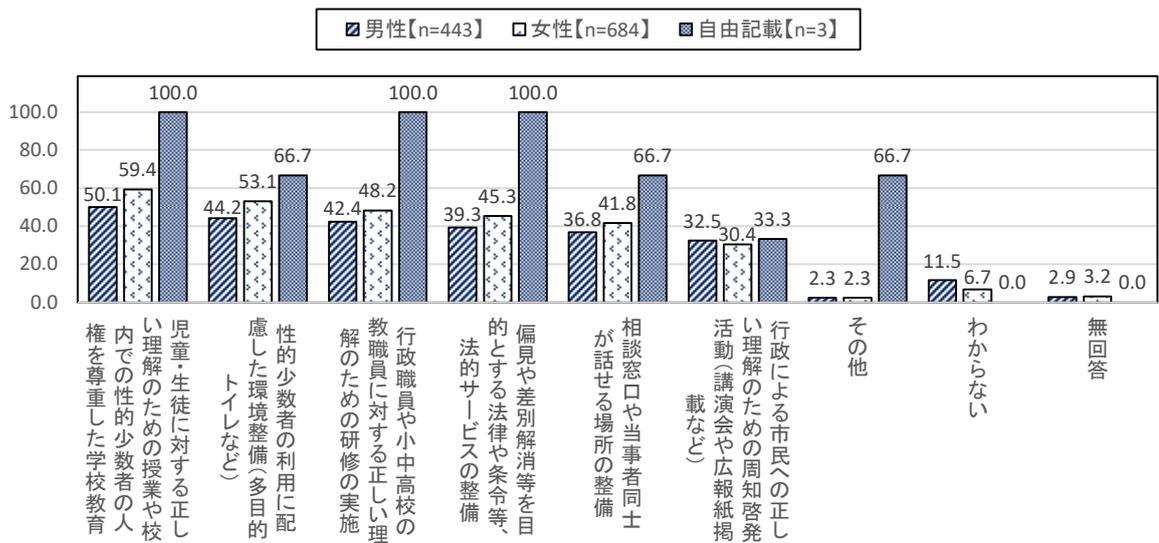
(4) 「性的少数者」の人権を守るために必要な取組

問 34 「性的少数者」の人権を守るために、どのような取組が必要だと思いますか。
(〇はいくつでも)

【n=1,134】



<男女別>



「性的少数者」の人権を守るために、どのような取組が必要か尋ねたところ、全体では「児童・生徒に対する正しい理解のための授業や校内での性的少数者の人権を尊重した学校教育」(55.7%)が最も多く、以下、「性的少数者の利用に配慮した環境整備(多目的トイレなど)」(49.6%)、「行政職員や小中高校の教職員に対する正しい理解のための研修の実施」(46.1%)、「偏見や差別解消等を目的とする法律や条令等、法的サービスの整備」(43.2%)などの順となっている。

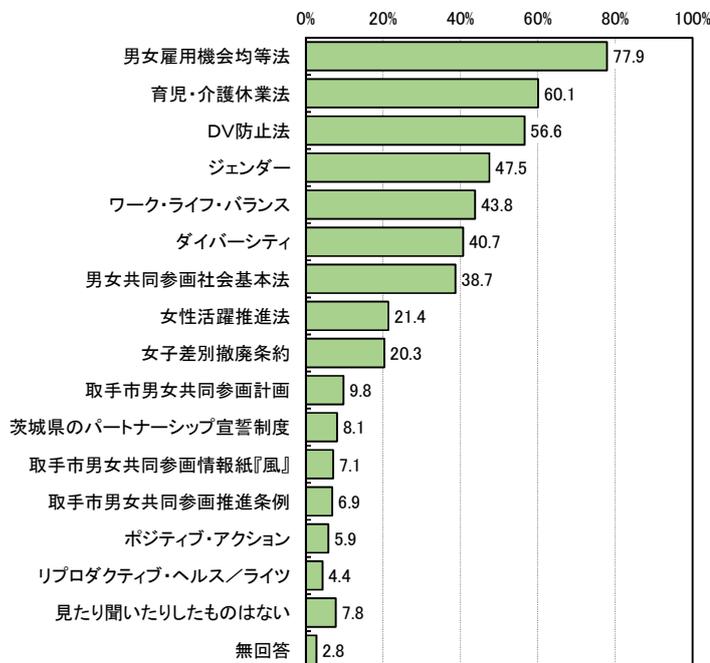
男女別にみると、男性、女性いずれも「児童・生徒に対する正しい理解のための授業や校内での性的少数者の人権を尊重した学校教育」が1位、「性的少数者の利用に配慮した環境整備(多目的トイレなど)」が2位など共通しているが、男性よりも女性の回答割合が多くなっている。

9 男女共同参画社会について

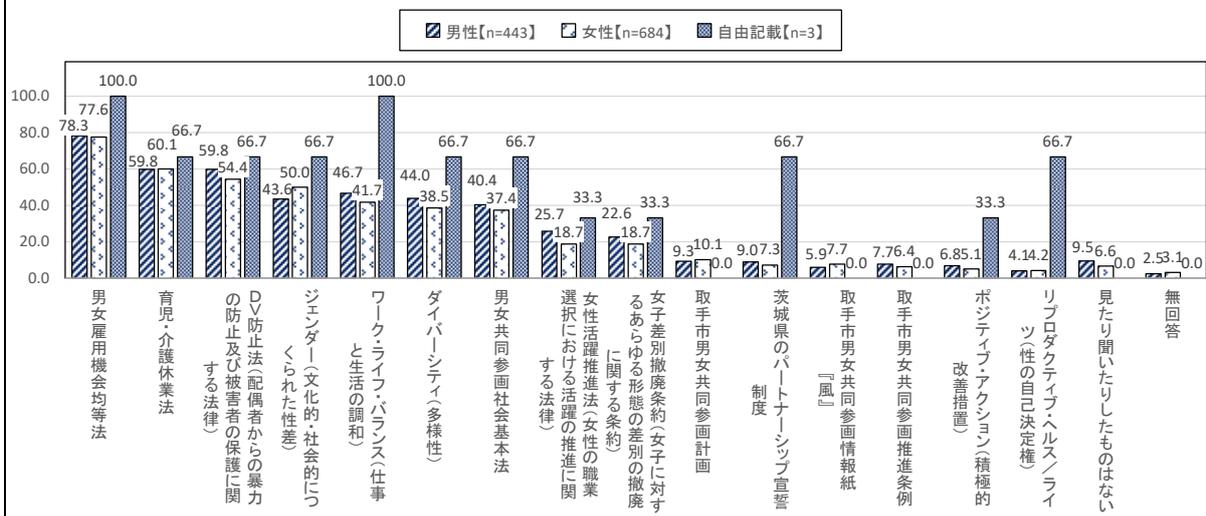
(1) 男女共同参画に関する言葉や施策等の認知度

問 35 以下の言葉や施策等の中で、あなたが見たり聞いたりしたものはありますか。
(〇はいくつでも)

【n=1,134】



<男女別>



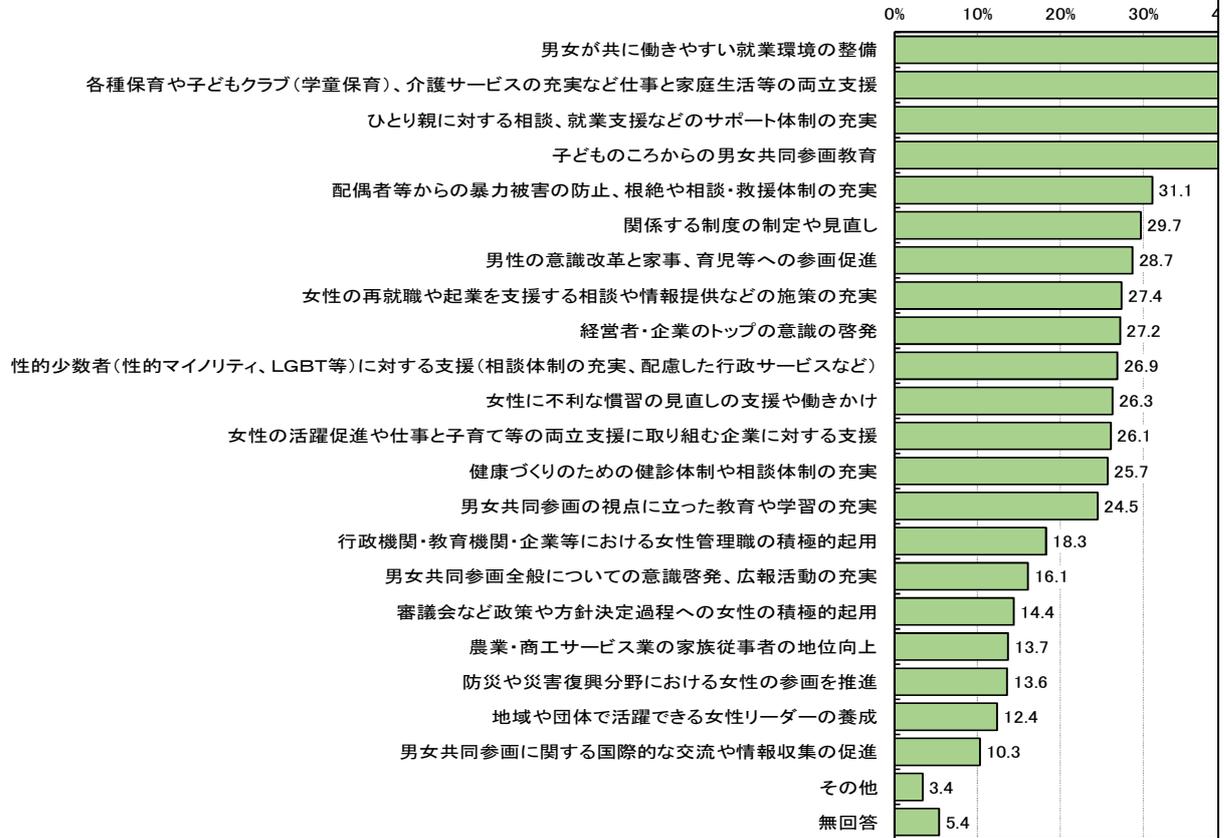
男女共同参画に関する言葉や施策等の認知度をみると、全体では「男女雇用機会均等法」が77.9%で最も高く、以下、「育児・介護休業法」(60.1%)、「DV防止法」(56.6%)、「ジェンダー」(47.5%)、「ワーク・ライフ・バランス」(43.8%)、「ダイバーシティ」(40.7%)などが上位に挙げられている。一方、7.8%は「見たり聞いたりしたものはない」と回答している。

男女別にみると、男女共同参画に関する言葉や施策等の認知度について、男女差はそれほど大きくない状況がうかがえる。

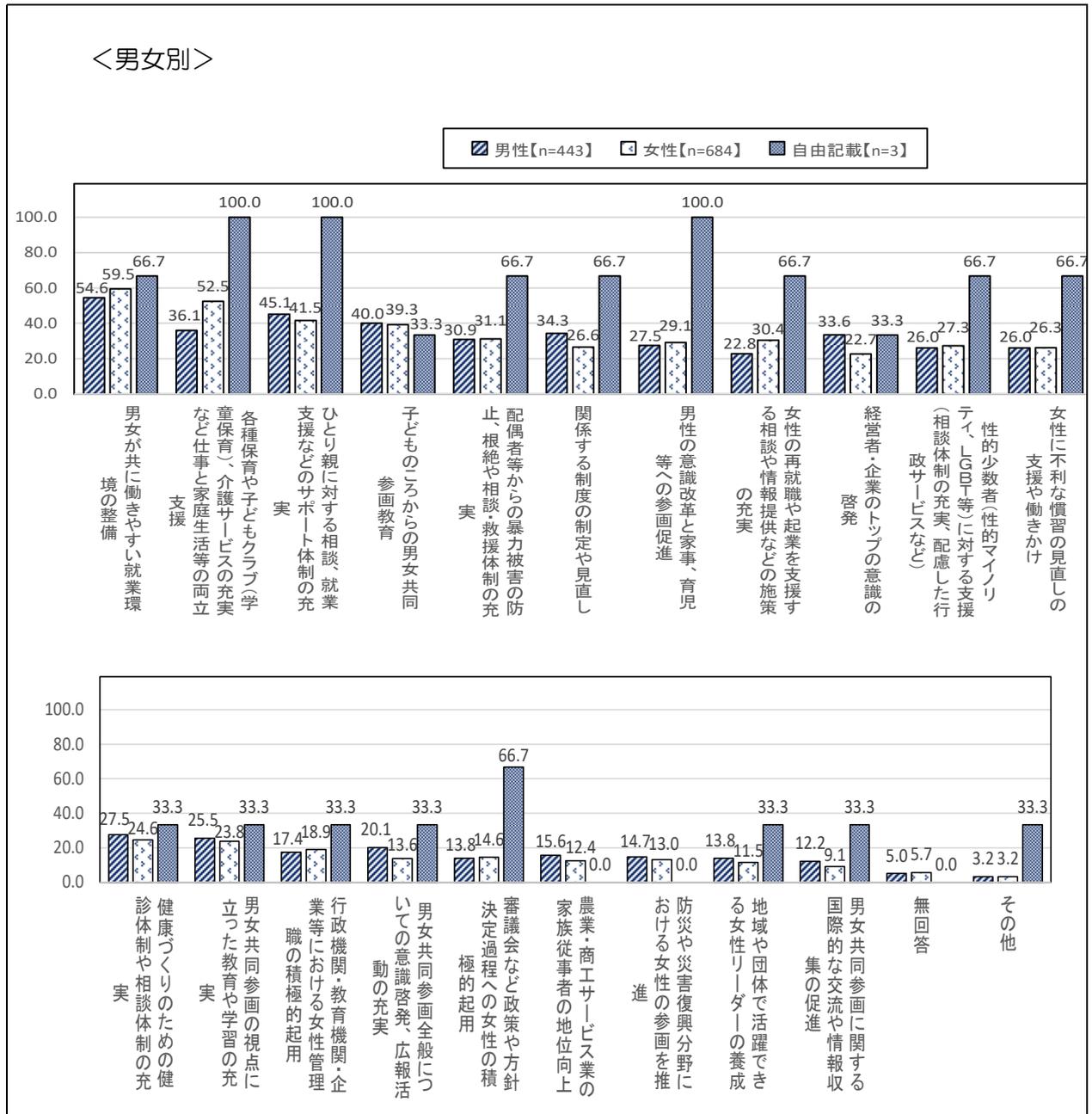
(2) 取手市（行政）が力を入れるべきこと

問 36 「誰もが自分らしく幸せに暮らせるまち取手」を実現するため、取手市（行政）は、今後どのようなことに力を入れていくべきだと思いますか。
 (〇はいくつでも)

【n=1,134】



「誰もが自分らしく幸せに暮らせるまち取手」の実現のために、取手市（行政）が力を入れていくべきことを尋ねたところ、全体では「男女が共に働きやすい就業環境の整備」（57.5%）が特に多く挙げられている。以下、「各種保育や子どもクラブ（学童保育）、介護サービスの充実など仕事と家庭生活等の両立支援」（46.1%）、「ひとり親に対する相談、就業支援などのサポート体制の充実」（43.0%）、「子どものころからの男女共同参画教育」（39.5%）、「配偶者等からの暴力被害の防止、根絶や相談・救援体制の充実」（31.1%）などの順となっている。



男女別にみると、男性、女性ともに「男女が共に働きやすい就業環境の整備」が多く挙げられている。以下、男性は「ひとり親に対する相談、就業支援などのサポート体制の充実」、
「子どもころからの男女共同参画教育」、「各種保育や子どもクラブ（学童保育）、介護サービスの充実など仕事と家庭生活等の両立支援」の順となっている。女性では、「各種保育や子どもクラブ（学童保育）、介護サービスの充実など仕事と家庭生活等の両立支援」、
「ひとり親に対する相談、就業支援などのサポート体制の充実」、「子どもころからの男女共同参画教育」の順となっており、その中でも「各種保育や子どもクラブ（学童保育）、介護サービスの充実など仕事と家庭生活等の両立支援」の回答割合は男性よりも16.4ポイント高くなっている。

●年代別クロス集計（上位回答）

（単位：％）

		男女が共に働きやすい就業環境の整備	各種保育や子どもクラブ(学童保育)、介護サービスの充実など仕事と家庭生活等の両立支援	ひとり親に対する相談、就業支援などのサポート体制の充実	子どもからの男女共同参画教育	配偶者等からの暴力被害の防止、根絶や相談・救援体制の充実	関係する制度の制定や見直し	男性の意識改革と家事、育児等への参画促進
年齢	18～19歳【n=29】	69.0	48.3	58.6	31.0	34.5	31.0	41.4
	20～24歳【n=89】	71.9	31.5	51.7	39.3	32.6	36.0	32.6
	25～29歳【n=94】	70.2	43.6	48.9	43.6	39.4	29.8	34.0
	30～34歳【n=88】	48.9	42.0	46.6	42.0	26.1	30.7	23.9
	35～39歳【n=131】	60.3	48.9	41.2	35.9	34.4	20.6	29.8
	40～44歳【n=88】	48.9	50.0	42.0	38.6	29.5	27.3	19.3
	45～49歳【n=135】	47.4	45.2	34.1	44.4	32.6	38.5	26.7
	50～54歳【n=145】	57.2	49.0	42.8	37.2	29.0	27.6	22.8
	55～59歳【n=122】	59.8	45.9	43.4	41.0	32.8	29.5	33.6
	60～64歳【n=80】	50.0	51.3	38.8	41.3	35.0	36.3	37.5
65～69歳【n=130】	58.5	50.0	41.5	36.2	22.3	25.4	25.4	

年代別に上位回答をみると、18～19歳、20～24歳、25～29歳の各年代は、ほかの年代と比べて「男女が共に働きやすい就業環境の整備」の回答割合が多くなっている。30～34歳では、上位4項目の回答割合に大きな差がみられなかった。35～39歳、40～44歳、45～49歳、50～54歳、55～59歳、60～64歳、65～69歳の各年代では、若年層と比較して、「各種保育や子どもクラブ（学童保育）、介護サービスの充実など仕事と家庭生活等の両立支援」の回答割合が多くなっている。

資料編

1 調査票

取手市男女共同参画に関する市民意識調査

調査ご協力をお願い

市民の皆様には、日頃から市政に対して格別のご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、取手市では、男女共同参画社会の実現を重要課題の一つとして、さまざまな取組を進めています。

本調査は、「第四次取手市男女共同参画計画」策定に当たり、取手市にお住まいの皆様の男女共同参画社会に関する意識やご意見をお聞きし、今後の取組への反映を図るために実施するものです。

調査の実施につきましては、回答は無記名とし、18歳以上の市民の皆様から2,500名を無作為に選ばせていただき、ご協力をお願いしています。ご回答いただいた調査内容は統計的に処理し、本調査の目的以外に利用することはありません。個人にかかわる情報が公表されることは一切ありません。

お忙しいところ恐縮ですが、本調査の趣意をご理解の上、率直なご意見をお聞かせください。

令和2年10月

取手市長 藤井 信吾

《ご記入に当たってのお願い》

1. 宛名のご本人様がお答えください。(何らかのご事情によりご本人様がお答えできない場合は、ご本人様の代わりに同居のご家族の方がアンケートにお答えいただいても結構です。)
2. 当てはまる答えの番号を○で囲んでいただくか、番号、数字を記入してください。設問ごとに(○は1つ)(○は3つまで)など指定されていますので、お間違えのないようお願いいたします。
3. 設問によっては、回答していただく方が限られる場合がありますので、問**で「**」と回答した方 などに注意書きをよくお読みください。
4. ご記入いただいた調査票(全16ページ)は、令和2年10月31日(土)までに同封の返信用封筒(切手不要)に入れて投函してください。

◎本調査についてのお問い合わせは、下記をお願いします。

取手市役所 総務部 市民協働課
TEL: 0297-74-2141 (内線: 1172)
FAX: 0297-73-5995
E-mail: a-shien@city.tonide.ibaraki.jp

問6 あなた又はあなたの配偶者は、就業調整*をしていますか。(〇はそれぞれ1つ)

*就業調整とは、本来ならもっと働けるが、税や社会保険料負担などを考慮して、働く時間や年収額を自主的に抑えることをいいます。

	あなた	配偶者
年収が103万円を超えないように働いている	1	1
年収が130万円を超えないように働いている	2	2
就業調整はしておらず、年収が130万円を超えている	3	3
就業調整はしておらず、年収が104～130万円	4	4
就業調整はしておらず、年収が103万円以下	5	5
働いていない	6	6
その他	7	7
	()	()
配偶者はいない		8

問7 結婚(事実婚を含む)されていますか。(〇は1つ)

1. 結婚している	2. 離別・死別した	3. 結婚していない
-----------	------------	------------

問7で「1. 結婚している」とお答えいただいた方にうかがいます。

問7-1 あなたの配偶者・パートナーの職業はどのような内容ですか。(〇は1つ)(2つ以上仕事をお持ちの方は主なものを1つ)

1. 自営業主・会社などの経営者・役員(農業を含む)	2. 自営業の手伝い・自宅での内職
3. 正規社員	4. 契約社員・派遣社員
5. パート・アルバイト	6. 家事専業
7. 学生	8. 無職
9. その他()	

問8 子どもの人数について、現実と理想をお答えください。(数字を記入)

現実の人数 (実際にいる人数)	理想の人数 (もちたい人数)
□ 人	□ 人

1人以上とお答えの方

子どもの年代(〇はいくつでも)						
1. 3歳未満	2. 3歳以上就学前	3. 小学生	4. 中学生			
5. 高校生	6. 大学生、大学院生(短大・専門学校等含む)	7. 社会人				

問8で実際の子どもの人数が1人以上と回答した方(子どもがいる方)にうかがいます。

問8-1 現在のあなたの配偶者・パートナーの働き方と子育ては次のどれに近いですか。(〇は1つ)

1. 仕事を優先	2. どちらかといえば仕事優先	
3. 仕事と育児を同時に重視	4. どちらかといえば育児優先	5. 育児を優先
6. 配偶者・パートナーはいない		



問8で実際の子どもの人数が1人以上と回答した方（子どもがいる方）にうかがいます。

問8-2 あなたと配偶者・パートナーの子育て・家事への関わりは十分だと思いますか。

（①～④について、それぞれ該当する番号に○を1つ）

	十分である	ある程度は十分である	あまり十分ではない	十分でない	配偶者・パートナーはいない
①あなたの子育てへの関わり	1	2	3	4	
②あなたの家事への関わり	1	2	3	4	
③配偶者・パートナーの子育てへの関わり	1	2	3	4	5
④配偶者・パートナーの家事への関わり	1	2	3	4	5

2 男女の生き方や家庭生活に関する意識について

問9 結婚や子どもを持つこと、家庭生活等についてどう思いますか。（①～⑩についてそれぞれ該当する「1～5」に○を1つ）

	とてもよい	よい	どちらでもない	よくない	とてもよくない
①人は結婚する方がよい	1	2	3	4	5
②結婚は個人の自由であるから結婚してもしなくてもよい	1	2	3	4	5
③結婚しても相手に満足できないときは離婚すればよい	1	2	3	4	5
④結婚しても、必ず子どもを持つ必要はない	1	2	3	4	5
⑤結婚しないで子どもを持ってもよい	1	2	3	4	5
⑥結婚して名字（姓）が変わっても、働くときに旧姓を通称として使用してもよい	1	2	3	4	5
⑦男性は仕事をし、女性は家庭を守るべき	1	2	3	4	5
⑧子どもが小さいうちは、母親は仕事をしないで、育児に専念したほうがよい	1	2	3	4	5
⑨家事や育児、介護は男女で分担したほうがよい	1	2	3	4	5
⑩話し合いを経たうえで、最終的に子どもの数や出産間隔を決めるのは女性である	1	2	3	4	5

問10 次にあげる分野において、男女の地位はどのようになっていると思いますか。(①～④についてそれぞれ該当する「1～6」に○を1つ)

	男性の方が非常に優遇されている	どちらかといえば男性の方が優遇されている	平等になっている	どちらかといえば女性の方が優遇されている	女性の方が非常に優遇されている	わからない
①家庭生活	1	2	3	4	5	6
②学校教育	1	2	3	4	5	6
③職場	1	2	3	4	5	6
④社会全体	1	2	3	4	5	6

問11 次にあげる①～③について、あなたはどれくらい時間をかけていますか。平日（月曜日～金曜日）、休日（土曜日、日曜日、祝日）それぞれの1日あたり平均時間をご記入ください。

※時間をかけていない場合は0分としてください。

※次のa～dは①～③に含めないでください。

「a：洗顔・入浴・トイレ・身支度など自分のための時間」、「b：食事・飲食の時間」、「c：家族との団らんやお茶の時間など休養の時間」、「d：ペットの世話」

※シフト制で土日祝日も勤務の方は、平日を勤務日に、休日を休曜日に置き換えて回答してください。

① 家事	家事の時間は 平日 休日 _____ 分 _____ 分 (例) 炊事、食事の後片付け、掃除、洗濯、衣類整理、家計簿の記入、皿の華とり、通勤・通学などの送迎、単身者が行う炊事・掃除・洗濯等、家族の身の回りの世話（ただし、小学校入学前の子どもの身の回りの世話は「②育児」とする。）
② 育児	1. 育児に該当する子どもはいない 2. 育児の時間は 平日 休日 _____ 分 _____ 分 (例) 乳幼児・小学校入学前の子どもの身の回りの世話、子どものつきそい、子どもの勉強相手、子どもの遊び相手
③ 介護・看護	1. 介護・看護を必要とする家族等はいない 2. 介護・看護の時間 平日 休日 _____ 分 _____ 分 (例) 日常生活における家族・親族の入浴・トイレ・移動・食事などの手助け、看病、一時的な病気などで寝ている家族の介護・看護

3 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）について

問12 あなたの「仕事」「家庭生活」「地域・個人の生活」*の優先度について、現実（現状）に最も近いもの、理想（希望）に最も近いものを選んでください。（現在、仕事をしていない方は今後のお考えをお答えください）（理想と現実それぞれに番号を1つだけ記入）

※用語の意味

- ・「仕事」 一自営業主（農林漁業を含む）、家族従業、雇用者として週1時間以上働いていること、常勤、パート、アルバイトなどは問いません。
- ・「家庭生活」 一家族と過ごすこと、家事、育児、介護・看護など。
- ・「地域・個人の生活」 一地域活動（ボランティア活動、交際・つきあいなど）、学習・研究（学業も含む）、趣味・娯楽、スポーツなど。

	現実	理想
1. 「仕事」に専念	<input type="text"/>	<input type="text"/>
2. 「家庭生活」又は「地域・個人の生活」にも携わりつつ、「仕事」を優先		
3. 「家庭生活」又は「地域・個人の生活」と「仕事」を均立		
4. 「仕事」にも携わりつつ、「家庭生活」又は「地域・個人の生活」を優先		
5. 「家庭生活」又は「地域・個人の生活」に専念		
6. よくわからない		

問13 2020年版『内閣府男女共同参画白書』では、夫婦共働き世帯が増えているにもかかわらず、家事・子育てにあてる時間が女性は男性の2倍を超えていると報告しています。

男女がともに家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためには、どのようなことが必要だと思えますか。（○は3つまで）

1. 家事などの分担について、夫婦や家族間で話し合い、協力をすること	<input type="text"/>
2. 男女の役割意識についての社会通念、慣習、しきたりを改めること	
3. 男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと	
4. 男性が家事などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと	
5. 男性の仕事中心の考え方を改めること	
6. 男性が子育てや介護、地域活動を行うための仲間作りをすすめること	
7. 男性が家事、子育て、介護、地域活動などに関心を高めるよう普及啓発や情報提供を行うこと	
8. 男女がともに家事、子育て、介護、地域活動などに必要な知識を学ぶ機会を充実させること	
9. 労働時間短縮や休暇制度の普及	
10. 休暇を取りやすい就労環境の整備	
11. その他（	

問14 子どもが生まれた時、あなたは育児休業を取得しましたか。(〇は1つ)

1. (子どもがおり) 育児休業を取得した・している
2. (子どもはいるが) 育児休業を取得しなかった・していない
3. (子どもはいるが) 就労していなかった・していない
4. 育児休業を取得せずに退職した
5. 子どもはいない

問14で「2. (子どもはいるが) 育児休業を取得しなかった・していない」とお答えいただいた方
 にかがいます。

問14-1 育児休業を取得しなかった、取得していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1. 仕事が忙しかった | 2. 職場に育児休業を取りにくい雰囲気があった |
| 3. 昇給・昇格などが遅れそうだった | 4. 仕事に復帰するのが難しそうだった |
| 5. できるだけ早く職場復帰したかった | 6. 収入減となり、経済的に苦しくなる |
| 7. 祖父母等の親族にみてもらえた | 8. 保育所(園)などに預けることができた |
| 9. 職場に育児休業の制度がなかった | 10. 有期雇用のため取得要件を満たさなかった |
| 11. 育児休業を知らなかった | 12. 子育てや家事に専念するために退職した |
| 13. 配偶者・パートナーが育児休業を取得した | |
| 14. 配偶者・パートナーが退職した | |
| 15. 配偶者・パートナーが働いていなかった | 16. 自営業である |
| 17. その他() | |

問15 あなたは介護休業を取得したことはありますか。(〇は1つ)

1. 介護休業を取得した・している
2. (介護が必要な家族がいるが) 介護休業を取得しなかった・していない
3. (介護が必要な家族がいるが) 就労していなかった・していない
4. 介護休業を取得せずに退職した
5. 介護が必要な家族はいない

問15で「2. (介護が必要な家族がいるが) 介護休業を取得しなかった・していない」とお答えい
 たいただいた方にかがいます。

問15-1 介護休業を取得しなかった、取得していない理由は何ですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------------------|-------------------------|
| 1. 仕事が忙しかった | 2. 職場に介護休業を取りにくい雰囲気があった |
| 3. 昇給・昇格などが遅れそうだった | 4. 仕事に復帰するのが難しそうだった |
| 5. 収入減となり、経済的に苦しくなる | 6. ほかの家族や親族に介護をしてもらえた |
| 7. 介護施設などに入所することができた | 8. 職場に介護休業の制度がなかった |
| 9. 有期雇用のため取得要件を満たさなかった | |
| 10. 介護休業を知らなかった | 11. 介護や家事に専念するために退職した |
| 12. 配偶者・パートナーが介護休業を取得した | 13. 配偶者・パートナーが退職した |
| 14. 配偶者・パートナーが働いていなかった | 15. 自営業である |
| 16. その他() | |

問16 女性が結婚・出産や介護などを続けながら働くため、または再就職するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|--|-----------------------|
| 1. 育児休業・介護休業制度の徹底 | 2. 家族の理解や協力 |
| 3. 市の保育施設や保育サービスの充実 | 4. 企業における事業所内の託児施設の整備 |
| 5. 個別の状況に応じた柔軟な勤務形態(労働時間の短縮やフレックスタイム制、在宅勤務)の導入 | |
| 6. 技能取得のための研修・講座等の開催 | 7. 就職情報や紹介等の相談窓口の充実 |
| 8. 在宅ワーク支援のためのセミナー開催や情報提供、相談事業等 | |
| 9. その他() | |

問17 育児休業や介護休業は男女ともに取得することができます。そのなかで、国は男性の育児休業取得を推進中で、2020年までに取得率を13%とする目標を掲げていますが、厚生労働省による2019年調査では7.48%とまだ取得が進んでいません。

男性が育児休業や介護休業を取得することについてどう思いますか。(〇は1つ)

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1. 取得したほうがよい | 2. どちらかという取得したほうがよい |
| 3. わからない、どちらともいえない | 4. どちらかという取得しないほうがよい |
| 5. 取得しないほうがよい | 6. その他() |

4 就業について

問18 あなたが仕事を選ぶ際に、重視すること、またはしたいことは何ですか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-----------------------|------------------|
| 1. 専門知識が活かせる | 2. 性格・能力が適している |
| 3. 仕事にやりがいがある | 4. 能力本位で実績が評価される |
| 5. 業種に将来性がある | 6. 給与の条件が良い |
| 7. 勤務時間・勤務場所の条件が良い | 8. 職場の雰囲気が良い |
| 9. 育児や介護への理解や制度が整っている | 10. その他() |
| 11. 特になし | 12. わからない |

問19 現在、あなたが実際に就いている仕事は、問18で回答した仕事を選ぶ際の要件(重視すること、したいこと)を満たしていますか。(〇は1つ)

- | | | |
|-----------|---------------|--------------|
| 1. 満たしている | 2. 一部満たしている | 3. 全く満たしていない |
| 4. 分からない | 5. 今は仕事をしていない | |

問20 あなたにとって、仕事をする中で困っていることや大変だと感じていることは何ですか。(〇はいくつでも)

1. 勤務による疲労が大きい	2. 通勤時間が長い
3. 家事をする時間がとれない	4. 育児のための時間がとれない
5. 趣味やレジャーの時間がとれない	6. 労働の割に給料が安い
7. 自分の能力やスキルが不足している	8. 仕事による充実感・満足感が得られない
9. 上司・同僚・部下との人間関係	10. 職場の雰囲気が悪い
11. 働く環境が悪い・汚い	12. 育児・介護休業等の制度が整っていない
13. 休みがとりにくい	14. その他()
15. 特になし	16. わからない
17. 今は仕事をしていない	

問21 あなたは途中で仕事を辞めた経験がありますか。(〇は1つ)

1. ある	2. ない	3. 働いたことがない
-------	-------	-------------

問21で「1. ある」とお答えいただいた方にうかがいます。

問21-1 あなたが最後に仕事を辞めたのはいつですか。(〇は1つ)

1. 1年以内	2. 2～4年前	3. 5～9年前	4. 10年以上前
---------	----------	----------	-----------

問21で「1. ある」とお答えいただいた方にうかがいます。

問21-2 あなたが最後に仕事を辞めた主な理由は何ですか。(〇は3つまで)

1. 他に良い仕事があったため(自営、独立を含む)	
2. 賃金や待遇などで勤め先や仕事の内容に不満があったため (具体的に:)	
3. 健康上の理由のため	4. 家事や育児に専念するため
5. 家事や育児との両立が困難であるため	6. 高齢者や病人の介護のため
7. 経済的に働く必要がなくなったため	8. 勤め先の人間関係のため
9. 結婚(自主的)のため	10. 勤め先で、結婚・出産退職の慣行があったため
11. 配偶者・パートナーの転勤のため	12. 家族の反対や無理解のため
13. 倒産したため	14. 解雇された
15. その他()	

問22 現在、仕事をしている方のみお答えください。あなたの職場では現在、次にあげるような問題がありますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|---|--------------------------|
| 1. 女性の昇進や昇格が遅い、または望めない | 2. 同期の男女での賃金・昇格に格差がある |
| 3. 女性には就けない職種・ポストがある | 4. 人事異動等で女性には不利がある |
| 5. 定年に男女差がある | 6. 女性の結婚退職や出産退職等の慣例がある |
| 7. 請手当等に男女差がある | 8. 一定年齢の女性に対する退職圧力がある |
| 9. セクハラ ^{※1} 、パワーハラ ^{※2} 、マタハラ ^{※3} などのハラスメントがある | |
| 10. 男性が育休を取得しづらい | 11. 長時間労働やサービス残業が常態化している |
| 12. その他 () | |
| 13. 特にない | |

※1 セクシャル・ハラスメントとは…相手の意思に反し不快・不安な状態に追い込む性的な言葉や行為

※2 パワー・ハラスメントとは…職場内の優位性を背景に、精神的・身体的苦痛を与える行為

※3 マタニティ・ハラスメントとは…妊娠・出産を理由として、精神的・身体的苦痛を与える行為

問23 定年後の人生を豊かに過ごすために、必要・有効だと思うことは何ですか。(〇はいくつでも)

- | |
|---|
| 1. 健康増進や趣味、学習する場 |
| 2. 健康増進や趣味、学習する場の情報提供 |
| 3. 人材バンクなどこれまでの技術・経験を生かせる場やそうした情報を収集する場 |
| 4. 収入の安定のため、70歳定年等の雇用延長制度 |
| 5. 高齢者を対象とした講座やイベント |
| 6. 町会・自治会活動 |
| 7. ボランティア活動など地域に貢献する活動 |
| 8. 市政等に市民が参加・参画できること |
| 9. コミュニティ施設(場)やレクリエーション施設(場) |
| 10. その他 () |

5 子どもへの男女共同参画教育について

問24 学校教育(小・中学校)の中で男女平等を進めるための取組として、何に力を入れるべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

- | |
|--|
| 1. 性別での役割分担意識の問題を啓発するパンフレットなどを配布する |
| 2. 男女の平等と相互理解について学習する授業を行う |
| 3. 生活指導や進路指導において、男女の区別なく能力を生かせるように配慮をする |
| 4. 座席、名簿の順番など、男女を分ける慣習をなくす |
| 5. 性に関する正しい知識や命の大切さを伝える教育プログラムを作成する |
| 6. 性的少数者 [※] (性的マイノリティ、LGBT等)について理解を深める機会を設けたり、制服の自由選択や相談室設置などの支援体制を整える |
| 7. 教員自身の男女平等意識を高めるための研修を行う |
| 8. 女性の校長や教頭を増やす |
| 9. 性暴力やセクシャル・ハラスメントについて相談できる環境を整備する |
| 10. その他 () |

※性的少数者(性的マイノリティ、LGBT等)とは…性同一性障害など、「身体の性」と自分が認識する「心の性」が一致しない人や、恋愛感情など性的な意識が同性や両性に向かう人、身体的な性別が不明瞭な人などのこと。

問25 子ども達が性別を意識しない人間関係をつくっていくために、親や大人はどのようなことを心がけるべきだと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 子どもとの会話の中で、必要以上に「男らしさ」「女らしさ」を強調しない
2. 遊びの中で、性別等にかかわらず協力する場をつくる
3. 家庭の中で性に対する正しい知識を身につけさせる
4. 地域や家庭の中で、夫婦や男女がお互いを尊重し、協力し合う姿を見せる
5. 進学や就職など将来についての話を子どもと積極的にする
6. 性別等にかかわらず、家事や子育てについての知識を身につけさせる
7. 性差別や暴力を助長するおそれのある情報(雑誌、SNSやインターネット、ゲームなど)を見せないように気をつける
8. その他()

6 地域活動、防災・避難について

問26 次にあげる地域活動の中であなたが現在参加しているものを選んでください。(〇はいくつでも)

1. 町内会や自治会等の地域活動
2. 幼稚園や保育園の保護者会、学校のPTA活動
3. 子ども会や青少年スポーツチーム等の指導や世話
4. 趣味やスポーツの活動
5. 地域の仲間同士集まって行う研究会や勉強会
6. ボランティア活動
7. NPO活動
8. 参加している活動はない
9. その他()

問27 東日本大震災などの教訓から、災害発生に伴う避難や平時の防災体制について男女共同参画の視点を取り入れることが必要だと指摘されています。そのためには、今後の防災や災害復興対策においてどのような施策が必要とだと思いますか。(〇はいくつでも)

1. 防災訓練や防災研修会への女性の積極的な参加を促す
2. 市の防災会議、災害対策本部、防災担当に女性の委員・職員を増やす
3. 避難所運営の際に男女両方のリーダーを配置する
4. 防災や災害現場で活躍する女性(女性消防職員や女性消防団員)を育成する
5. 女性や乳幼児、介護が必要な人、障害者などに配慮した避難所機能を確保しておく
6. 備蓄品について、女性や乳幼児、介護が必要な人、障害者などの視点を取り入れる
7. 男女別のニーズに配慮した避難所などでの支援マニュアルを作成する
8. 地域の自主防災活動の運営に女性の積極的な参加を促す
9. 乳幼児教室やPTA活動など女性が多く集まる場で、研修や訓練を実施する
10. 性別や立場によって異なる災害時の備えについて知識を普及する
11. その他()

7 配偶者など*からの暴力について

*以下の設問にある「配偶者など」には、婚姻届を出していない事実婚、別居中の夫婦、元配偶者、交際相手も含みます。

問28 配偶者などから次のようなことが行われた場合、あなたが暴力だと感じることをお答えください。(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------------------------------|----------------------------|
| 1. 「ばか、役に立たず」などと言われる | 2. 大声でどなられたり、暴言を吐かれる |
| 3. 何を言っても無視され続ける | 4. 大切にしているものをわざと捨てられる、壊される |
| 5. 外出や人との付き合い(電話やメール含む)を監視したりを制限される | |
| 6. 身体を殴られたり、足で蹴られる | 7. 嫌がっているのに性的行為を強要される |
| 8. 生活費を渡さないなどの経済的暴力 | |
| 9. その他() | |

問29 あなたに配偶者や恋人がいますか、または過去にいたことがありますか。(〇は1つ)

- | | | |
|---------|----------|---------------|
| 1. 現在いる | 2. 過去にいた | 3. 今までいたことがない |
|---------|----------|---------------|

問29で「1. いる」「2. 過去にいた」とお答えいただいた方にうかがいます。

問29-1 あなたは配偶者(元配偶者も含む)や交際相手等から次のような行為を受けた経験はありますか。(〇はいくつでも)

- | | |
|-------------------------------------|----------------------------|
| 1. 「ばか、役に立たず」などと言われた | 2. 大声でどなられたり、暴言を吐かれた |
| 3. 何を言っても無視され続けた | 4. 大切にしているものをわざと捨てられた、壊された |
| 5. 外出や人との付き合い(電話やメール含む)を監視したりを制限された | |
| 6. 身体を殴られたり、足で蹴られた | 7. 嫌がっているのに性的行為を強要された |
| 8. 生活費を渡さないなどの経済的暴力 | |
| 9. その他() | |
| 10. まったくない | |

問29-1で「1」～「9」のいずれかをお答えいただいた方にうかがいます。

問29-2 あなたの受けた行為について、誰かに打ち明けたり、相談したりしましたか。(〇は1つ)

- | | | |
|---------|-------------|------------------|
| 1. 相談した | 2. 相談できなかった | 3. 相談しようとは思わなかった |
|---------|-------------|------------------|



問29-2で「1. 相談した」とお答えいただいた方うかがいます。

問29-3 あなたが相談した人（場所）を教えてください。（〇はいくつでも）

- | | | |
|-------------------------------------|--------------------------|--------------------|
| 1. 家族・親せき | 2. 友人・知人 | 3. 市の子育て支援課のDV相談窓口 |
| 4. 警察 | 5. 医師・カウンセラー | |
| 6. 女性相談センター [※] （茨城県の相談機関） | 7. 女性プラザ（茨城県の男女共同参画センター） | |
| 8. 人権擁護委員 | 9. 弁護士 | 10. 民間の相談機関 |
| 11. SNSやインターネット上の相談サイト | | |
| 12. その他（ | | ） |

※茨城県の女性相談センターは「配偶者暴力相談支援センター」の機能も併せもっています。



問29-2で、「2. 相談できなかった」または「3. 相談しようとは思わなかった」とお答えいただいた方うかがいます。

問29-4 あなたが誰（どこ）にも相談できなかったのはなぜですか。（〇はいくつでも）

- | | |
|---|---|
| 1. 誰（どこ）に相談してよいのか分からなかったから | |
| 2. 恥ずかしくて誰にも言えなかったから | |
| 3. 相談しても無駄だと思ったから | |
| 4. 相談したことが分かると思返しを受けたり、もっとひどい暴力を受けると思ったから | |
| 5. 自分さえ我慢すれば、このままなんとかやっていくことができると思ったから | |
| 6. 世間体が悪いから | |
| 7. 他人を巻き込みたくないから | |
| 8. 思い出したくないから | |
| 9. 自分に悪いところがあると思ったから | |
| 10. 相談するほどのことではないと思ったから | |
| 11. その他（ | ） |

問30 配偶者や交際相手等からの暴力の防止や被害者支援のために、どのような対策が必要だと思いますか。（〇はいくつでも）

- | | |
|--|---|
| 1. 家庭内でも暴力は犯罪であるという意識の啓発 | |
| 2. いざというときに駆け込める緊急避難場所（シェルター）の整備 | |
| 3. 住居や就労の斡旋、経済的援助等、自立して生活するための支援策の充実 | |
| 4. カウンセリングや日常的な相談等、精神的に自律するための支援策の充実 | |
| 5. 専門相談窓口の設置 | |
| 6. 関係機関の紹介や暴力への対応方法等、配偶者などからの暴力に関する様々な知識の提供 | |
| 7. 離婚訴訟への支援等、法的サポートの充実 | |
| 8. 加害者の更正に関する対応の充実 | |
| 9. 学校で児童・生徒に対し暴力を防止するための教育 | |
| 10. 加害者への罰則を強化するなど法律等の規制の強化や見直し | |
| 11. 暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、SNSやインターネット、ゲームなど）の規制 | |
| 12. その他（ | ） |

8 人権・性的少数者について

問31 最近3年の間に、職場・学校・地域でハラスメントを受けた、または周囲の方が被害を受けたのを見たり、聞いたりしたことがありますか。(①～④についてそれぞれ該当する選択肢に○を1つ)

	あなた自身	あなたの周囲
①セクシャル・ハラスメント ^{※1} 被害について	1. 受けたことがある 2. 受けたことはない	1. 見たり、聞いたことがある 2. 見たり、聞いたことはない
②パワー・ハラスメント ^{※2} 被害について	1. 受けたことがある 2. 受けたことはない	1. 見たり、聞いたことがある 2. 見たり、聞いたことはない
③マタニティ・ハラスメント ^{※3} 被害について	1. 受けたことがある 2. 受けたことはない	1. 見たり、聞いたことがある 2. 見たり、聞いたことはない
④その他のハラスメント被害について	1. 受けたことがある () 2. 受けたことはない	1. 見たり、聞いたことがある () 2. 見たり、聞いたことはない

※1 セクシャル・ハラスメントとは…相手の意思に反し不快・不安な状態に追い込む性的な言葉や行為

※2 パワー・ハラスメントとは…職場内の優位性を背景に、精神的・身体的苦痛を与える行為

※3 マタニティ・ハラスメントとは…妊娠・出産を理由として、精神的・身体的苦痛を与える行為

問32 「性的少数者^{*}(性的マイノリティ、LGBT等)」という言葉を知っていますか。(○は1つ)

1. 聞いたことがあり、意味も知っている
2. 聞いたことはあるが、意味は知らない
3. 聞いたことはない

※性的少数者(性的マイノリティ、LGBT等)とは…性同一性障害など、「身体の性」と自分が認識する「心の性」が一致しない人や、恋愛感情など性的な意識が同性や両性に向かう人、身体的な性別が不明瞭な人などのこと。

問33 あなたは、「性的少数者(性的マイノリティ、LGBT等)」のことを、自分や自分の周りで関わりのある問題として、意識したり、考えたりしたことはありますか。(○はいくつでも)

1. 自分の問題として、ある
2. 知人のことなど自分の周りで関わりのある問題として、ある
3. ない

問34 「性的少数者(性的マイノリティ、LGBT等)」の人権を守るために、どのような取組が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

1. 行政による市民への正しい理解のための周知啓発活動(講演会や広報紙掲載など)
2. 行政職員や小中高校の教職員に対する正しい理解のための研修の実施
3. 児童・生徒に対する正しい理解のための授業や校内での性的少数者の人権を尊重した学校教育
4. 相談窓口や当事者同士が話せる場所の整備
5. 偏見や差別解消等を目的とする法律や条例等、法的サービスの整備
6. 性的少数者の利用に配慮した環境整備(多目的トイレなど)
7. その他()
8. わからない

9 男女共同参画社会について

問35 以下の言葉や施策等の中で、あなたが見たり聞いたりしたものはありますか。(〇はいくつでも)

1. 女子差別撤廃条約（女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約）
2. 男女共同参画社会基本法
3. 男女雇用機会均等法
4. 育児・介護休業法
5. DV防止法（配偶者からの暴力の防止及び被害者の保護に関する法律）
6. 女性活躍推進法（女性の職業選択における活躍の推進に関する法律）
7. 取手市男女共同参画推進条例
8. 取手市男女共同参画計画
9. 取手市男女共同参画情報誌『風』
10. 茨城県のパートナーシップ宣誓制度
11. ポジティブ・アクション（積極的改善措置）
12. ジェンダー（文化的・社会的につくられた性差）
13. ワーク・ライフ・バランス（仕事と生活の調和）
14. ダイバーシティ（多様性）
15. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ（性の自己決定権）
16. 見たり聞いたりしたものはない

2 自由回答

(1) 性別に関する意識や考え方に関する意見

回答内容	性別	年齢
詳しくは知りませんが、市内唯一の公立保育所が閉所すると聞きました。それに代わる施設やサービスを充実させてほしいと思います。プールの更衣室が女子はあるが男子はなく、プールサイドの外から見えてしまうところで着がえさせられていてどうかと思った経験がある。また、生理でずっとプールを休んでいたら仮病を疑われ男性教員に怒られたという友人がいる。教育者こそ性に対する理解をしてほしいと思う。(7年ほど前の話ですが)	女性	20～24歳
男女という思想は身体機能による負担にとどめるものであって、LGBT+も含め、あくまで人間性や能力で判断されるだけの社会であればいいと思います。「性別」にとられない、判断が大事。	自由記載	30～34歳
男女の差別をなくすことも大切ですが、男性と女性、それぞれの特徴をお互いが理解し協力し合う社会であることが大切だと思います。他国では進んでいますが、小さいころからの性教育の必要性を感じます。人間であることは同じですが、やはり男性、女性は違う生き物です。お互いの違いを理解することが、差別をなくすことにもつながると思います。そしてお互いを大切に支え合える関係になれると思います。	女性	35～39歳
私は、取手に41年程住んでいるが、取手にいることで特に女性だから不利だったと思ったことは一度もない。しかし、このことで悩みを抱えている人がいるなら、それは改善すべきと思う。余談だが、私は昨年、実母のために長年勤めた職場を介護離職しました。介護関係の悩みも今後多くの人が抱える課題だと思っています。	女性	40～44歳
小学校へ通う子供が、男の子を「～さん」と呼ぶようになりました。男女平等ってそういう事ですか？「～君」でも良いと思いますが。上手い方法がみつかりますように。	女性	40～44歳
公共の場でどちらでも入れるトイレが増えると、女子トイレは混みがちなので、マイノリティの方にも女性にも使いやすくないと思う。	女性	44～49歳
自治会活動1つとっても、「女性はこうあるべきだ」という男性の考え方があり、それを押し付けられることで苦痛でしかない。核家族、共働き世帯の中、自治会の活動を行うことは、精神的にも時間的制約もある。防災のためにも活動は必要と言いますが、本当にそうでしょうか。自治会をやめていく人も多く、かえって地域コミュニティができていく状況になっています。様々な原因はあると思いますが、高齢者が多い取手市、その価値観の押し付けは若い世代の住みづらさにつながっていると思います。	女性	44～49歳
自分が勤めて来た(今の会社はのぞく)は、男性上位の会社が多かったですが、女性が起業したり自立したりする際の行政や周りのサポートは男性それよりも手厚くして頂いているように感じました。それは女性が弱いからという考えからなのかもしれませんが、男女性的マイノリティ等、意識しすぎなところが、平等にはつながらない気がします。それからマタハラ、セクハラされる女性の傾向としては仕事ができない、やらない、性格が悪いという話もあります。できる人には会社は辞めてほしくないのに、神経質になっている人ほど、そういう人が多かったので重要視していません。	女性	44～49歳
子どもを産めるのは女性だけという現実をふまえて、男女の平等とは何か考えるべきだと思う。	女性	30～34歳
性差上の区別は生物として絶対的なものであり、(ex. 出産能力、筋力差など)全ての事項で同一の扱いは逆にある意味で暴力的、強制的思想である。(声は大きい全体数から見れば少数の者の意見に迎合してはならない)一方で性差があると思えない要素(ex. 身体差のない労働、サービス、家庭内の協力分担など)については、男女平等の思想をさらに進めるべきと考える。	男性	65～69歳
息子がまだ小さい頃、話しかけてこられた高齢の女性から、「男の子で良かったな。女は役に立たねっからな。」と言われ驚いたことがあります。取手市には農家が多く、男の子があとをつぐ慣習が普通に残っており、男の子に恵まれなかった家はむこを取ったり、男女平等を目指すには非常に困難な背景があると思いますが、女の子が女の子に生まれたからといってやすい思いをするような社会でなくなって欲しいと思います。	女性	50～54歳

回答内容	性別	年齢
男女という性差による問題があるとしたら、それは組織内の問題、社会的には平等である。特に女性優遇ばかりを打ち出しているが、事実として男性は声を上げていないだけ。	男性	55～59歳
男性と女性は基本的に同じではないと思う。それぞれのいい所を出し合って、助け合って生活できれば良いと思う。みんなが幸せに生きられるよう願います。	女性	65～69歳
平等といっても男性と女性と身体の造りや感情面でもまったく同じでないで、その辺をふまえての平等がうれしいです。	女性	65～69歳
男性にとか女性にとか考えることがまず違っているのでは。役割を決めつけているように見えます。	男性	50～54歳

(2) 男女共同参画社会に関する意見

回答内容	性別	年齢
男女がお互いに協力し合える機会をつくれるよう、研修などがあるといいのかなと思います。	女性	20～24歳
大学のころに男女共同参画についての研究をしていたこともあり、取手市での取り組みにはとても興味があると感じました。女性が働きやすい環境づくりと、復帰しやすい職場の環境が大切だと思っています。今後の様々な取り組みを楽しみにしています。	女性	20～24歳
教育現場の男女共同参画推進不足は、非常に大きな問題だと思います。市の未来のためにも積極的に改善に取り組んでいただきたいです。お願いします。	女性	20～24歳
学校教育では、可能な限り教師よりも有識者、専門家を登用すべき。	男性	20～24歳
個人的には、啓発などは意味はないと思う。少数派を冷たい目で見ようような人に何を言っても無駄だと思う。こういうアンケートをしているのだから取手市はちゃんとしている自治体だと思う。	男性	20～24歳
取手市が男女共同参画を推進していることを知らなかったので、このような活動を行っていることを広く周知させる必要があると感じました。	男性	20～24歳
男女共同参画、男女共同参画社会の推進を叫ばなくても良い社会を望む。若者より高齢者の意識改革を。	男性	25～29歳
男女平等というが、理想論だと思う。ある程度の男らしさ、女らしさについて教えることは悪いことではないと思う。女性は、生理・出産があったり、力も男より弱いし、精神的な面でもやはり違いはある。それを前提にした上で、LGBTなどいろんな人がいて、そのような考えの人のことも尊重することが良いと思う。LGBTだから差別するのではなく「個人」を大切にすることがより重要。	女性	25～29歳
女性を審議会に積極的に起用するのは良いかと思いますが、ただただ感情的に発言するような方を起用するのはちがうと思います。	女性	25～29歳
男女間でどうしても肉体的な差(筋力、出産可否等)があり、完全に平等な男女共同参画は不可と考える。バランスの取れた参画の検討要。	男性	50～54歳
子育て世帯が便利な施設を増やし、子育て支援センターなどで、パパと子どもの日や時間を作ると、子育てに男性が参加する時間が増えたらよいと思います。	女性	25～29歳
・企業や自治体で「管理職女性比率〇%目標」とかかかげるところがよくある。それは、真の意味で、男女平等ではない。・女性活躍の環境や制度は整ってきているが、一番の課題は、家庭での男性の家事や育児への不参加。男性への意識改革を、自治体や企業で行っていく必要がある。	女性	25～29歳
女性に対する差別も男性に対する差別もLGBTに対する差別も、無意識であろうとなかろうとなくなると思います。まず親世代から変わってほしいです。親が偏見に塗られてとても息苦しいです。自分でも推進に協力していこうと思います。	女性	18～19歳
女性の市議会議員を増やす。	男性	50～54歳

回答内容	性別	年齢
このような問題は家庭での教育や環境が根本的に大事だと思います。(次に学校での環境)私は市に求めるのは、学校での教育とバックアップ。制度見直し、セーフティーネットだと思います。	女性	30～34 歳
男女共同参画の推進の策は女性に負担が増えるものばかりで、このアンケートは矛盾している。	女性	30～34 歳
男女ではなく全ての人々、大人から子供までが毎日幸せにくらせるように…とにかく力強さがない、生き生きしていない市、町、のんびりすぎではないか…。お年寄りの生活に大切なものをもっと増やして…。とにかく、とにかく元気がない市、町です。	—	60～64 歳
今回のアンケート調査が届くまで取手市の男女共同参画について全く知りませんでした。このことで自身が知るきっかけにはなりましたが、市としてもっと積極的に発信をするべきだと思います。また、小中学校で性的マイノリティのことなど話をし、家庭で話をするきっかけを作ったりできればいいと思いました。簡単な問題ではないので、大変な道のりですが、取手市がよりよい街になることを期待しています。	男性	35～39 歳
男女が共に働きやすく、家族において協力して住みやすくする中で、保育や子どもクラブ等を充実させる反面、子どもと過ごす時間が非常に少なくなっている今、そこも問題視していく必要があると感じます。	女性	35～39 歳
「教育現場や行政・企業における女性管理職の積極的起用」と良く耳にしますが、これは時間も必要かと思えます。(人材育成のため)そういう高い目標も良いと思いますが、もっともっと現実を見てほしいです。PTAという組織を見ても、トップは男性ばかりですよ？その背景は何ですか？このアンケートにはかっこいいことがたくさん書いてありましたが、現実合っていない気がします。本当に現実を知っていたら、家事・育児・介護を「分」で聞きますか？	女性	35～39 歳
平等という言葉の定義がとても難しいと感じていて、人によってとらえ方に差がある内容だと日頃から感じていました。世間一般で報道される内容も、個人的に「う～ん、そうかなあ？そんなの！？」と思うこともあります。男性女性LGBTQに関わらず、軽視することがいけないことは理解できるのですが、具体的な内容について、日常的に目にするのができたら、個人間の差が埋まってよい関係が築けるのかなと思います。例えば、男性に「彼女いるの？」は差別のようですね。「パートナーいるの？」が正解のようですが、そんなささいな意識を変えるのは、年齢が上になればなるほど簡単ではないです。	女性	35～39 歳
本当に男女平等にするには、会社としての人数を男女ともに同じ人数、もしくは若干の人数のちがいにするといいと思う。	女性	35～39 歳
子供達が使用する取手市藤代武道場(藤代430-5)の夏場の気温が40℃を超えている。エアコンの導入が必須である。子供達がかわいそうだ！！子供を預ける環境もなく、預けてもお金が高い為、パートからぬけ出せない。介護職が不足しているのであれば、優先して子供を預けられる環境をつくり、人材を確保すべき。市が身を切って抜本的な改革そして、子供が預けられる、安心して産める、育てられる取手をつくらないで、男女共同参画と言って家庭にまかせては、何もかわらない。	男性	35～39 歳
あらゆる立場・考え方の人が、それぞれに必要なサービスを享受できるような体制を整え、それを周知していただけたらと思います。	女性	35～39 歳
「男女共同参画」という言葉に違和感をおぼえる。個人個人の立場や気持ちを尊重すべきではないか。特に高齢の方は「こうあるべきだ」という意識が強い。若年層の方が柔軟に考えられると思う。	男性	35～39 歳
「男女共同参画」というと、少し難しい事をするイメージがわいてしまいますね。男性でも女性でも、人間が安全で、毎日楽しくすごせる世の中になれば良いですね。今の時代、老若男女とわず、皆元気がないですね。元気に楽しく幸せに生きられる、そして自由に自分がやりたい事して生きていける世の中になれば良いですね。昔は皆前を向いて、上を向いて歩いてはいたはずだが…。	男性	55～59 歳
第四次取手市男女共同参画計画を策定するにあたり、発信力を強めてほしいです。(冊子配布等)そのような計画があることを知らなかったです。	女性	44～49 歳
役所内や職員など市の重要な役割を担う人たちの意識改革からしていった方がいいのでは？と思います。	女性	44～49 歳
市内において男性中心の活動が多く、女性に対しての意識が低い。女性の活動の場が少ない。女性のリーダーがいらない起用の必要性。	男性	55～59 歳

回答内容	性別	年齢
このアンケートの作成者が男性か女性かわかりませんが、問いに対する答えに女性の負担を増やすようなものが多く、残念に思いました。取手市の男女共同参画の担当者の方が、すでにある男女のあり方にとらわれていて、そのバイアスがかかっていると感じました。社会構造として女性差別が当たり前にあるのが日本だと思うので、行政や政治で変えていって頂きたいです。女性を差別するのは男性なので、女性ばかりに負担をかけるのではなく、男性、特に社会的地位の高い方、決定権を持つ方の意識を変えて頂きたいです。弱者にやさしい社会にしてほしいです。	女性	44～49歳
地域の役員さんが高齢の男性が多く、女性を「お手伝いさん」と思っている。行事に参加しても、訪問してきた政治家に忖度して握手をしている。ビールやお茶菓子を持ってこさせている。男女差について年齢によって考え方の違いを感じます。	女性	44～49歳
まだ認知度の低い取組かと思いますが、若い人たちがこの先、それぞれに活躍できる社会であってほしいです。	女性	44～49歳
女性管理職については、昇格試験への申込が少ないこともあり、少ないと感じる。ただ登用すればいいというものではないと感じる。女性の不利もある一方、男性の過度の負担もあると思うので、その視点からの見直しも必要と感じる。	男性	44～49歳
まず“取手市の男女共同参画”なるものの存在を良く知らない。取手市民にもっと知ってもらう事が必要だと思います。	男性	44～49歳
男女共同参画が進んでいる国から学び、日本でできそうな取り組みを考える。長くかかるかもしれないという認識。だからこそ、幼少の頃から性、LGBT、出産、仕事、DV、パワハラ、モラハラなどに対する正しい知識を学ぶ。異性同士の恋愛があたりまえという意識を変え、様々な(多様な)形があるということが普通になってほしいとニュースを見てしみじみ思います。家族も恋愛も、子どもをもつ・もたない、結婚する・しない、家事育児も得意な方がやればいいのかと思うので、どんな形も認められる人になりたい、人でありたいと自分では考えています。これからの社会をつくる子どもたちへ、柔軟な思考がもてるような支援をしていくといいと思います。自分もそういう教育をしています。	女性	44～49歳
先日、藤代庁舎にマイナンバーカードの更新手続きに行った際、管理職と見える男性が眠そうにしており、あきらかに眠そうに見えた。能動的に仕事をして欲しい事、市民、同じ職場の人から見て「お手本(本来当然)」となるべく姿を見せて欲しい。又、担当の方が、明らかに女性が多く見え、逆差別とも見て取れた。先に記載した管理職の男性ほどではないにしろ、私の会社、取引先には、ほとんどそのような様子はない。政治をはじめ、上に立つ人が見本となる姿を望む。信用と信頼が必要かと考えます。	男性	50～54歳
「男女共同参画」について、あまり知りませんでした。情報は発信して頂いていると思うので、もう少し興味を持つとうと思いました。	女性	50～54歳
私が勤める会社には細かい制度や取り決めはありませんが従業員の声や要望に柔軟に対応しています。その中で対象となる人がおんぶに抱っここと甘えるのではなく、与えられた環境の中で主体性をもってどう強く生きていくのか考えられる社会であれば良いと思う。	女性	50～54歳
コロナ禍にともない人が見えない環境になりえる時その中において、個人、行政、教育、企業と連携がこれから大切だと思います。情報の迅速化、対策もこれからは一本にしぼるのではなく、あらゆる観点をとり入れられるように限定しておこなっていく、そのことでより良い生活スタイルを、個々が選んでいく場となれば理想ですが…。	女性	50～54歳
このアンケートをするまで男女共同参画と言う言葉を耳にしたことがなかった。もっと市民に伝わる様にしてほしい。	男性	50～54歳
女性が、普通に気軽に相談しに行けるような場所作りをして欲しいです。そこに行けば、女性達が休憩も出来、何かしら交流も出来、「あ、ちょっと相談して帰ろうかな…」と思えるような場所が理想的です。	女性	50～54歳
男女共同とか言葉を使わなくても平等に生活ができるようになる事が必要ではないかなと思います。何事も比べる事や違うものへの偏見をなくし、個人を尊重しつつ、社会へ貢献できる環境が大切だと考えます。	女性	50～54歳
議会も男性が多い。色々な立場の人が参加し、意見の言える場が欲しい。教育関連は古い老人が多く残っている。働く女性も多く、子育て、PTA活動の参加の仕方の見直し。	女性	55～59歳
女性の地位向上も大切な事ではありますが、女尊男卑に偏らない事も大切かと思えます。	女性	35～39歳

回答内容	性別	年齢
色々な立場の人間。子どもからお年寄りまで、皆さんがざっくばらんに意見の交換ができる場を作る。そこには性別や年齢、社会的立場があってはならない。相手を思いやる心を小さなころから育てていけるような環境が必要。そして教育も大事。男だからしなくて良いことなどない。女だからできないことなどない。一人の人間として、何ができて良いと思う。差別の心を持たないような教育が必要。それは大人の社会、職場でも教育してほしい。	女性	55～59歳
意識を変えるには時間が必要です。できる事から少しずつ子どものころからの教育は特に早めに必要だと思います。	女性	60～64歳
男女共同参画社会の現状として、他国と比較してもいまだに男尊女卑のところがあるのが否めない状況です。一番は女性が働きやすい環境づくりを担っていただければいいのではないかと思います。例えば市が仕事の斡旋をして(場所は市役所のどこかでも)、小さな子供と一緒に親子で出社→仕事→親子で退社、親は子供をみながら仕事ができ、人ともコミュニケーションがとれます。また、高齢者も小さい子供とコミュニケーションがとれる場を作ってもいいかもしれません。人(社会)の役に立つという意識をもつことが、これからの社会において必要だと思います。	女性	55～59歳
共同参画を充実させるには各々労働組合の意識が低いから積極的に働かせ強かに協力を求めるべきと思う。介護施設(民間)に支援し、公共施設と同額利用料金とすると良い。	男性	60～64歳
男女共同参画について、市民への情報不足だと思う。男女共同参画が何かさえわからない人が多い。	女性	60～64歳
年齢を問われて、このアンケートの最高齢の区分であることにあらまあ…と。長く生きたものです。私どもの若い頃に比べると共働きの家庭が多くなった現実と、その生活の中でやっぱり女性の負担が多い状態が続いていることを改めて思います。教育とかもお題目だけではなく、男女とも同じように仕事も家庭もやってみせる(実践)ことが次代の子どもたちの手本になっていくのでしょうか。→やれるように行政も手をかしてほしいと思います。	女性	65～69歳
今回のアンケートが来るまで取手市がこのこと(男女共同参画)について何かしていると感じたことがない。こちらの方が問題。	女性	65～69歳

(3) 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)に関する意見

回答内容	性別	年齢
男女共にどうしても家を空けられない、外に出て働けない状況の人がいると思います。(例えば育児、介護など)そういう状況にあっても収入が確保できるよう、在宅でできる仕事や在宅勤務など、勤務形態が選択できるようになるといいと思いました。育児=休業という考えはもう昔の考えなのかなと。	女性	40～44歳
夫は仕事が終わったら、決められた家事を1つこなし、やった感で終わりです。妻は、パートから帰ってきたら、夕食を食べるまで立ちっぱなし。食後も見えない家事を含め、寝る前まで家事をしています。母だけが働きっぱなしの社会。夫婦で家事を分担できる社会がきたら、幸せだと思います。	女性	44～49歳
育児や介護のサービスが充実したとしても、けっきょく費用が大きくなるのなら利用したくてもできない。	女性	44～49歳
ひとり親でも余裕を持って子育てができるような体制ができれば、若い人が増えて良くなると思う。	女性	50～54歳
行政で種々サポート体制を整えても、時間(800～1700土日休)対応の不備(民間への委託・委嘱等)を要するものもあると考える。画一的対応では難しいだろう。	男性	55～59歳
毎日の生活、仕事に追われ、知らないことがたくさんあったように思う。	女性	65～69歳
男女共同参画社会のテーマの主旨とは違っているかもしれませんが、私自身は積極的に行動を起こす人間ではありませんが、知的障害を持った長男をかかえて親同士が集まって、親の会を作ったり、子が大きくなった時には地元で働ける場がほしい(我が家の息子は施設に入所しましたが)など親が声をあげる事によって、たくさんのボランティアさんの助けを得て小さいお子さんの手を離れた母親が中心でしたが、いろんな才能やアイデアを持っている事に驚かされました。50代前後の方々を中心でしたが、その年齢層の方々には行動力があります。	女性	65～69歳

(4) 女性の就業・雇用に関する意見

回答内容	性別	年齢
取手市に限ったことではないが、とにかく女性は賃金が低い。4～5年勤めているのに、新入社員の男性に給与が負けていたりする。なぜ女性の賃金はこうも低いのか？将来に展望が持てない。強く社会への変容を求める。	女性	35～39 歳
子どものことを考え、妻に仕事を辞めてもらいました。できれば3年ぐらいは預けたりしたくなかった。1歳で母と離れるのは早い気がします。自分たちで子どもを育てたかったので。この様な形を望んでいる夫婦にも、育休に準じた補助があると助かります。	男性	40～44 歳
「女性の起用」という言葉が多用されていたが、それ自体が女性の負担にならぬよう配慮が必要かな？って感じた(PTA役員みたく)。	男性	40～44 歳
女性の収入の低さ、通勤時間の短縮、市内か近くの企業の雇用、取手市の学校・商業・企業の充実。	女性	55～59 歳
女性の出産子育ての負担は男女が平等にあつかわれても減るものではなく、仕事との両立はかなり困難な上、企業は産休育休中、または育児時間をとる女性を1人として換算して人を増員しないため、まわりが疲弊してマタハラパワハラにつながっています。共同参画に逆流するようですが、出産育児中は一旦仕事を辞めて、何人かの子育てを終えてから、社会に復帰してキャリアを積めるような仕組みや、子供の病気や都合に合わせて自由にお休みがとれて、まわりに迷惑をかけずに働ける職種を作るなど今とは違った働き方を考えて行って欲しいです。(女性がほとんどの職場でリーダーをしています。若い母親の大変さと周りのフォローの大変さ、理不尽さをいつも感じています)行政にはそういう会社に補助をするなどして欲しいです。	女性	55～59 歳
女性自身の資質の向上、考察力、調整力、説明力、寛大性。	女性	60～64 歳
女性の再就職や子育て等の支援が必要。	女性	65～69 歳

(5) 行政及び市の施策等に関する意見

回答内容	性別	年齢
父子家庭の環境整備(母子家庭への対策はあるが父子家庭はない)	男性	25～29 歳
取手市にも男女共同参画の推進に関する施策があることを初めて知りました。(私が知らないだけかもしれませんが)知っている人は知っているのかもしれませんが、もっとどんなことに力を入れているのかアピールした方が良いと思います。認知されていなければ、施策やそこにかかる税金などが無駄だと思うので。	女性	20～24 歳
子育て広場の充実、同じ子を持つ者同士の広場などがあると良いのではないかと思います。	女性	25～29 歳
もっと子供が遊べる施設や公園整備をしてもらいたい。	女性	25～29 歳
新しく取手に家を建てるという時に、助成をうけられず、他市なども土地の検討をしました。長く暮らすとなった時に、そういうのは大切だと思う。私達(友人も含め)移住してきた人間にご近所(もともと取手に住んで)の嫌がらせがひどいです。歩きたばこや町中のゴミなどを含めて治安が悪い。それは学童などでも言えることで、指導員のモラルをうたがいたくなる事も本当に多い。取手市を本当に良い町としたいのならば、現場に出てきて下さい。このアンケートは本当に生かされますか？	女性	30～34 歳
保育所の増設や企業支援などにより、育児と就業を両立できる環境を整える必要があると思います。	男性	35～39 歳
保育園を利用しやすくしてほしい。	女性	35～39 歳
学校教育を根本から見直してほしい。小さいころから「自分自身を生きる」をしているだけで、いろいろな問題は解決すると思う。勉強とは学問だけでしょうか？学力が上がっても、人間力を身につけなければ生きていけません。すべて周りに合わせたり自分を表現できなかったり、親の顔を見ながらいること、自己肯定感の低さに問題があると思います。	女性	35～39 歳

回答内容	性別	年齢
とにかく子どもが生まれなければ未来はないわけだから、子どもを育てやすい環境を整えるのはもちろん、悩みや不安を受けとめる窓口を増やすべき。	女性	50～54 歳
目先のことでなく、中長期的な視点から施策を考えていただきたいと思います。特に子育て世代が安心して暮らせる制度が他の行政に比べて少ないと感じます。「未来のとりで」を担う方への積極的な制度やハード面、ソフト面の充実を切に願っています。(そうでなければ、取手市の人口は高齢化し、減少していくでしょう。)	男性	35～39 歳
補助等を一律に年取で制限するのではなく、世帯の子供の人数を考慮した制限にすべき。生活に余裕をもつことが大切だと思います。	男性	44～49 歳
戸頭北保育所をなくすのは、方法がひどいと思います。きちんとした説明がないから、納得いかない人が多数なのです。きちんと手順をふんで下さい。大変失礼な事案です。失策だと思います。	女性	44～49 歳
育児や介護はどうしても女性の負担になってしまいます。2020年10月現在、コロナ感染により、行政に助けを求めることが制限され、育児、介護の主な担い手である女性に更なる負担が増えています。コロナ自粛で、奪われたものの一つは「社会との繋がり」です。その結果、認知症が増え、育児をになう女性の孤立、産後鬱が非常に増えています。ニューノーマルな生活様式の中、集団でコミュニケーションを取ることは難しくなっていますが、何とか知恵を出し合い、優しく思いやりを持って、人と人が繋がり合う機会を増やすことを行政主導で行って頂けたら救われる方がたくさんいます。男女共同参画の話題とは離れてしまい恐縮ですが、取手市は日本で一番早くオンライン会議を市議会に導入するなど、コロナ渦に対応した対策を打ち出し、即実行し、藤井信吾市長の手腕を僭越ながら改めて見直しています。その気概をもって、取手市が老若男女問わず、手を取り合って優しいコミュニティとなる事を心から願っています。この度はアンケート回答の機会を頂きありがとうございました。取手市に期待しています!!	女性	50～54 歳
40代～60代の意識改革。教育・職場での講習等の必要性有。経済不安解消。職の確保、安定。法律・法案・条例等の国民・市民へ伝える事・理解してもらう事、実施活動等を知ってもらうための情報発信をわかりやすくする事。	女性	50～54 歳
子どもの通う学校等でも、父親の育児参加等の積極参加等のイベントを設けて欲しいです。または女性だけではなく、父親も積極的な家事をしてほしい等の、教育等もして頂けたらと思います。	女性	40～44 歳
市の施策を市民に浸透させる場として、最良なのは教育の場や行政スペースを活用する事かと思われますので、特に小中学校での啓蒙や、市役所などの行政スペースでの分かりやすい情報提供、市民新聞での広報などフルに活用すべきでしょう。またリーダー層への小規模な勉強からの口コミやSNSなども、積極的に利用すべきだと思量します。	男性	55～59 歳
政策を実行する速度を早めていただきたい。	男性	60～64 歳
市民にとって意味のある政策の実行を期待しています。	女性	50～54 歳
特に60歳以上65歳未満男女につきまして、やはり福祉支援をもっと金額を多くしていただかなければならないと思っています。これからは一人暮らしが多くなる事なので?	女性	60～64 歳
学童保育増(行政・民間)。男女共同参画に対して市民のみなさんに知ってもらうこと、そのための活動がもっと必要。	男性	60～64 歳
議員定年制にしてほしい。年よりだと新しいことが進まない。	男性	60～64 歳
市民税、県民税が高すぎる。(65歳以上は安くするべき)	男性	65～69 歳
目標と進捗、併せて判例等の情報(世論)を踏まえ、他より進歩的であってほしいです。	男性	65～69 歳
市として今までいろいろ質問していますが、やろうとしているんですか、やれるんですか。	男性	65～69 歳
本当に考えるならもっとアピールしないとダメ。やれる事から確実に優先度をつけて実行していかなければいけないと思います。やりながら、軌道修正、実情に合った考え方等も取り入れれば良いと思う。	男性	65～69 歳
働き方を変えることよりも、雇用の方法や制度ならびに、市の企業に対する支援を充実させて、若者に対するサービスを増やすことを望んでいます。高齢者のサービスが充実しすぎている気がします。	男性	30～34 歳
①男女平等を問う前に、社会福祉協議会をはじめ市役所へ就職する時に、口ききなどの不正をしない。②パワハラ問題をおこした人間の処分を即時に行えるように、市役所と距離をとった第三者機関に依頼できるようにしておく。③女性の管理職を50%にする為に、2030年を目標に段階目標を決めて実行する。	—	—

(6) 地域社会・まちづくりに関するご意見

回答内容	性別	年齢
上記のような取り組みにより、取手市が居住地として魅力を感じ選ばれるまちであったら嬉しいです。	女性	30～34 歳
実家が遠い人で自分の親の協力が難しい人に対して、育児の手助けを考えてほしい。	女性	35～39 歳
中にも書きましたが、小・中・高のPTA活動の廃止を切望します。PTA会費を子供の配布物そのままに、広報とか地区委員等全ての役員をなくし、行事の際だけ声かけして手伝って下さった方に報酬として分配するなど雇用して下さい。やり方は様々あると思う。時代に合ったやり方を。本当に迷惑。子供産まない理由になる。	女性	35～39 歳
放課後デイサービスが増えると嬉しいです。きちんと中身のあるものが。	女性	35～39 歳
コロナで学童の人数制限をするのはやめて下さい。私立小学校に通う子供達も長期休暇には学童が必要です。環境を整えてもらえないと、親は仕事が出来ません。至急整えて下さい。それが小学生の親にとって1番助けになります。どうぞよろしく願います。	女性	40～44 歳
女性が住みたいと思う街づくりにすることが重要。歩道のアスファルトがでこぼこであることは市民として恥ずかしい。区画整理をしっかりと構築し、パリのような街づくりを目指してほしい。	男性	44～49 歳
平等よりも、近くの店や大型店などがなくなり、生活の質のQOLが取手市はどんどん下がって生活しにくい町になってきている。これでは、人口の流出が増えてしまう。又、年をとり車を運転しないと、どこへも行けずバスも本数多くないし、このまま取手に住みつづけることができなくなりそうだ！都内のようにバスの便もよく、出かけやすい町づくりをするべきではないか！人口少ないからムリだろうが。	女性	55～59 歳
男女共同参画の推進という視点とはちょっとずれると思いますが、取手駅から通ずる商業施設等に全く魅力を感じません。おしゃれな店舗がなくなり、パチンコ店やゲームセンター等必要ないと感じています。若者から高齢者がつつい立ち寄りたくなるような空間や店舗って大切ではないでしょうか…。例えば電車通勤して働いているヤングママ達が安心して子供を預けて働くための託児所等を設けるとか…駅まで子供と一緒に行って駅に預けて電車に乗って働きに行く、そして帰りにはまた駅まで寄っていけばすぐ迎えに行ける。こういう事も女性が安心して仕事に行けるひとつの手段ではないでしょうか。また、中・高年の一番お金を使える人達が楽しめる場所、店舗等、取り組んでもらいたいです。また防災、地域の環境問題に対し、課題を把握し、住民からの声を吸い上げ、市民が住んでいて良かったと思える街を築いていってほしいです。	女性	60～64 歳
高齢者の活用等を推進、積極的起用を検討されては。	男性	65～69 歳
介護職員が減少している、今後高齢が増える中、対応できない。施設の増設はしているものの、人員は？何年先…	女性	55～59 歳

(7) その他のご意見

回答内容	性別	年齢
調査内容で、現職者向けの設問で回答にこまる箇所ありました。	女性	65～69 歳
・アンケート内容が過去の子育て、現在の介護の答え方が難しい。もう少し年齢の幅をしばって子育て、介護分けた方が良い。・子育ても介護も複数の子や親を相手にするので答えも1つではない。	女性	50～54 歳
市民意識を調査した結果、取手市の今後の「何に」を活用する調査なのか？無駄な税金の使い方になっていると考える。男女共同参画として市民が男女としての意見を聞く事が必要。関わりたくない事へ参画になるかもしれない不平等を考えるべき。駅前でカラオケ大会をさせている事を責任の押し付け合いしているだけの役所(警察含む)達では、こんな壮大な取組みができると思えない。	男性	55～59 歳
各質問に対する解答例が具体性がなく、ただアンケートのために並べられた文章のように思われる。これで何を導き出し、どう活動していけるのか。おそまつ。一般論は不要。具体的に一歩ずつ着手してってください。地道にね。	男性	65～69 歳

回答内容	性別	年齢
どこまで本気が分からない。	男性	50～54歳
各部門共に機関や窓口、相談センター等があると思いますが、まだまだ担当者が自分の机にただ座っているだけのように見えます。もっと本気、必死になって取り組んで頂きたいと思います。電話対応や相談に来る人を待つだけの作業は誰でもできます。頑張ってください。	男性	50～54歳
香害について取手市としても扱ってほしいです。公共エリア、買い物するとき、電車なども、強い香り(芳香剤、柔軟剤、ペンキなどの揮発物)が多く毎日苦しんでいます。特に市役所、福祉センター、公民館などのトイレや入口に、香る消臭剤を使わないで頂きたいです。使えなく自宅に戻るしかないんです。	女性	25～29歳
取手市に住んで9年7カ月になろうとしています。男女共同参画とありますが意味が良く分からず、年齢も年が取って来て、言葉の意味が良く理解できていません。自分一人の考えで〇をつけました。	女性	65～69歳
お忙しい中ありがとうございます。こちらのアンケートの回答者がどのくらいの人数がいて、年齢層も分からないのですが、今まで当たり前だったことを変えていくことはとても難しいことだと思います。なので私は未来のある子どもたちにはいくつもの選択があり、皆が平等であること、でも親にとったらあなたが特別なんだと伝えて行きたいと思います。私のような一市民だけのこの回答で世の中を変えていけるわけではないですが、気持ち新たに子育てしていこうという気になりました。逆にありがとうございます。お仕事頑張ってください。	女性	30～34歳
あまりにもアンケートの質問が多いので、ほとんど協力が得られないと思うので、もっと内容を精査し、せめて10項目くらいにすべきだと思います。一目見ただけで多すぎて協力が得られませんが。	男性	65～69歳
計画策定に伴い、市民アンケートを実施することは、今後の事業実施を進めるにあたり有効な手段であると思います。しかし平成27年度に行った「第三次取手市男女共同参画計画」を策定する際のアンケート調査結果をみると、市民2500名に対し、回収された資料は822件、回収率は32.8%でした。この32.8%は決して少ない数とは思いませんが、令和2年7月1日現在の年齢別人口(18歳～69歳までの人口約67000名)に照らし合わせてみると、わずか1.2%という低さです。(平成27年度の対象年齢が分からないので単純に比較はできませんが)。市民の意識や意見を参考にしたとしても、わずか1.2%では市役所主導の計画になるのではと危惧しております。そこで予算のこともあるでしょうが、分母を増やすとか、少しでも回収率を上げるための様々な活動が必要ではないでしょうか。そしてぜひ取手市が、男女共同参画社会実現に向け、全国的にモデルとなるような発展的な計画を策定して頂きたいと存じます。せっかく実施するアンケート調査なので、アリバイ作りのアンケート調査にならないことを望みます。	男性	65～69歳
収入対差有るのに同じくらしは出来ない。支払い有りすぎ。年金の金額の低い暮らしの人にはもう少し援助を。いろんな意味で…これからの子供達はかわいそう…。ますますくらしにくい世の中になりそうで恐い。	女性	65～69歳
あらゆる分野において社会弱者となり得るのは少数派の人々。アンケート集計により多数となった意見に傾倒しすぎません様に。全ての基本には、個々の人権の尊重。考えは個々に異なるものです。	女性	55～59歳
小さな子供たちに、道徳の教育をしっかりすれば、人間として生きていく基礎が作られていくと思う。今の子供たちに足りない事はその基礎がないと思う。人に対しての思いやりを学べば、男女関係なく、人としての助け合いを学び、すべての人々が生きやすい環境を作っていく事が出来、この事が一番大事だと思う。	女性	65～69歳
こんにちは。この度はアンケートをお送りいただきありがとうございます。アンケートの回答に対し補足したいところがあり、こちらの便箋を同封させていただきました。問9の⑥で働くときに旧姓を通称として使用してもよいに「1そう思う」と回答させていただきましたが私の本当の気持ちを正確に説明させていただくと「本人達が望むなら連れ合いとなった者同士の片方が姓を変える必要がない。どちらも別の姓のままでもよく、自分の望む姓を通称でなく正式なものとして扱うことができる」です。連れ合いとなる前の姓を通称として用いられるようになっても「あくまで通称なんだ…」という気持ちがつきまとう人もいるでしょうし、互いに別の姓をとっても正式な家族として扱っていただけることで助かる人も多いと思います。誰かと連れ合いになったとしても姓を変える必要がなくなるといいです。(もちろん同姓にしたい人は同姓にしても大丈夫で)どうぞご意見のひとつとして参考にさせていただけると幸いです。	自由記載	25～29歳
かなり大変なアンケートでした。内容が細かく、対象者をもっと絞る必要があると思います。老人二人暮らしのため、有意義な意見は書けませんでした。必要としている方をリストアップして、効率アップ、無駄な税金は使わないでほしい。	女性	-

回答内容	性別	年齢
実のない名誉職のポジションを作らない。	男性	60～64 歳
本アンケートも含め、WEB回答が可能である方が回答率向上が可能だと思う。	男性	30～34 歳
なりゆきに任せる。	男性	55～59 歳
取手市に引っ越してきてまだ間もないのですが、取手市の取り組みを知る機会やきっかけが少ないように思います。広報誌はアプリでも見られますが、やはり紙面でポストインが一番みんなの目に触れて良いと思います。	女性	30～34 歳
取手の町が大好きで東京から戻って来ました。市民を想ってどういう施策を図るかのアンケート調査はとても嬉しく思いました。ありがとうございます。	女性	50～54 歳
女性蔑視ではなく男性蔑視の職場や場所もある。このアンケートは男性蔑視ではないか？	男性	50～54 歳
アンケートは8ページ程度に願います。全数無作為でなく世代別に区分けして世代毎に無作為にした方が現実に近いアンケートがとれる。	女性	50～54 歳
この調査は強制なのでしょう？アンケートと記されていないながら、催促のハガキが到着しました。@63×2500人＝¥157500(最大)がもったいない税金の使われ方だと思います。アンケートならば、お待ちいただくようお願いしたいものです。行き違いで投函されている方もいるでしょうし…。	自由記載	35～39 歳
取手市ではどのような人材が必要なのか。情報を発信して頂ければ出来る限り自分で出来る事に参加したいと思います。又、勉強会等があると良いです。	女性	65～69 歳
何もありません。取手市に期待していませんので。	女性	50～54 歳
このようなアンケートに参加できる機会をいただき、ありがとうございます。これからの社会を担う一員として、働きやすい環境づくりにご尽力いただいている皆様に感謝いたします。	女性	25～29 歳
質問が多くて回答するのが大変でした。(選択肢が多く、長文の為、時間がかかった)	女性	55～59 歳
調査内容の構成について一考願いたい。分かりにくい、面倒、専門用語etc。	男性	60～64 歳
あまり答えたくない、もしくは答えられない、答えづらい質問は書きませんでした。どうかお願いいたします。	男性	30～34 歳
配偶者を失うとこんなにもいろいろ手続きなど大変なので頭がおかしくなりそうです。それでも子供がいる事が非常に生きる力になり子供は多い方がいいと思いました。	女性	65～69 歳
今年の健康診断の問い合わせ予約が繋がらなくて、大変不便でした。	女性	44～49 歳
まず、保育園出身者のたかりが多くて困っています。男女共同参画社会の前にあたり前の習い事もしていない人間が相手をダメにしていると思う。	女性	35～39 歳
パワハラ、セクハラなど店長など責任者がしている場合、どこに相談するのかわからない。皆がまんして働いている。	女性	30～34 歳
アンケート結果を広報誌やホームページで公表して頂けると、大変参考になります。	女性	35～39 歳

取手市 男女共同参画に関する市民意識調査
調査結果報告書

令和3年3月

発行 : 取手市
企画・編集 : 取手市 総務部 市民協働課
